



もっともっと知ってパソコン

オプション周辺機器の取り付けに挑戦！
機能や設定など、もっと知りたいあなたに！
パソコン各部の名前や仕様一覧も収録！

マニュアルを

使いこなす

各マニュアルの主な内容は表紙に書いてあります。

添付の「安全にお使いいただくために」は常に手元に置き、各マニュアルと合わせて必ずお読みください。

TVモデルにはこの他に『TVモデルガイド』が、BSモデルには『TVモデルガイド』と『パソコンで楽しむBSデジタル放送』が添付されています。

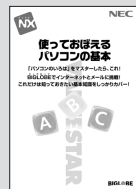
1
まずこれ!



2

準備ができたなら

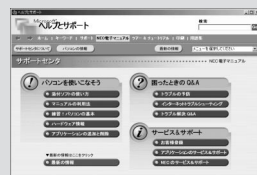
パソコン学習ソフト
「パソコンのいろは」



3



電子マニュアル
「サポートセンタ」



やりたいこと別マニュアルガイド

パソコンの接続とセットアップをしたい	はじめにお読みください
CD-ROM、DVD-ROM を使いたい	はじめにお読みください
マウスの使い方を知りたい	パソコンのいろは、使っておぼえるパソコンの基本
キーボードで文字を打ってみたい	パソコンのいろは、使っておぼえるパソコンの基本
インターネットや電子メールを利用したい	使っておぼえるパソコンの基本、サポートセンタ
ワープロを使いたい	使っておぼえるパソコンの基本
バックアップを取りたい	使っておぼえるパソコンの基本、困ったときの Q&A、サポートセンタ
CD-R/RW ドライブを使って、CD-R/RW メディアに書き込みたい	もっと知りたいパソコン
プリンタやオプション機器を取り付けたい	もっと知りたいパソコン
このパソコンの機能について詳しく知りたい	もっと知りたいパソコン、サポートセンタ
再セットアップしたい	困ったときの Q&A
パソコンが思うように動かない	困ったときの Q&A、サポートセンタ
どんなアプリケーションが入っているか知りたい	サポートセンタ
アプリケーションを追加したい、削除したい	サポートセンタ
年賀状やあいさつ状を作りたい	サポートセンタ
パソコン用語の意味を知りたい	サポートセンタ



はじめに

この本には、プリンタなどの周辺機器をパソコンに接続したり、パソコン内部にメモリなどを取り付けたりするときの説明や、パソコンの設定を変更したりするときに役立つ情報が載っています。

はじめてパソコンを使う方にとっては、他の本に比べると少し難しいかもしれませんが、この本はあなたがもっとパソコンに詳しくなるための道案内をしてくれます。説明をよく読んで、まちがいのないように操作してください。そして、思う存分パソコンを使いこなしてください。

2001 年 5 月 初版

『もっと知りたいパソコン』の読み方

この「『もっと知りたいパソコン』の読み方」を参考にして、知りたい情報を探してください。

あなたがやりたいことはどっち？

パソコンをパワーアップしたい

PART 1~12

パソコンをもっと知りたい、使いたい

PART 13 ~付録

このパソコンで使える周辺機器(PART1)

- このパソコンに取り付けることができる周辺機器の説明です。

周辺機器を取り付けるときのポイント(PART1)

- このパソコンに周辺機器を取り付けるときの、ポイントや注意です。

本体のコネクタに接続する周辺機器について

- プリンタなどの周辺機器、本体の開け方と閉め方、USB 対応機器、LAN ボード、IEEE1394 対応機器、PC カードの説明です。

PART 1

PART 2

PART 3

PART 4

PART 5

PART 6

本体のカバーを開けて増設する周辺機器について

- PCI ボード、メモリ、SCSI インターフェイス対応機器、ハードディスクなどの説明です。

PART 7

PART 8

PART 9

PART 10

困ったときの対処方法、ハードウェアを使うときのポイントなど

- トラブルの対処法、ハードウェアの使用上の注意などの説明です。

PART 11

PART 12

さらに使いこなす

PART 13

- パソコンの使い方を広げるアプリケーションの紹介です。自分流のパソコンの使い方を楽しんでください。

詳しい使用環境の設定

PART 14

- BIOS セットアップメニューとこのパソコンのリソースについての説明です。

パソコンのお手入れ、本体の各部の名称、機能仕様など

付 録

- このパソコンのお手入れについて確認したい場合はここをご覧ください。また、本体やリモコンの各部の名称や機能仕様、FAX モデムボードやLANボードの機能仕様もここに記載しています。

このマニュアルの表記について

手順は左、補足説明は右に (PART1 ~ PART10)

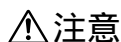
このマニュアルでは、操作手順は順番に画面を示しながら説明しています。実際のパソコンの画面を確かめながら操作を進めてください。パソコンの画面でむやみにマウスを操作すると、思わぬ画面が表示されることがあります。このマニュアルで、どこを操作すればよいのか必ず確認してください。また、ページの右側のグレーの部分には操作に関連する補足説明や用語解説などが記載されています。はじめてパソコンを扱う方は、右側の説明もよく読んでください。

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています



警告

注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。

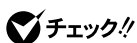


注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。



電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります



してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。



パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。



マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【 】	【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
プリンタ、コネクタなど	「プリンター」や「コネクター」などの末尾に付く「ー」を省略して表記しています。これは、パソコンの画面に表示される用語や、パソコン関連書籍などでよく使われている表記に準拠しているためです。
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	CD-R/RWモデルでは、CD-R/RWドライブのことを指します。 CD-R/RW with DVD-ROMモデルでは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのことを指します。
 「添付ソフトの使い方」	「スタート」-「NEC電子マニュアル」-「添付ソフトの使い方」を開き、各ソフトの使い方を参照することを示します。「添付ソフトの使い方」は、「ランチ-NX」から開くこともできます。
 「サポートセンタ」	「サポートセンタ」を起動して、各項目を参照することを示します。「サポートセンタ」は、画面右上の「サポートセンタ」をクリックして起動します。

このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

次ページの表をご覧ください。購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン	表の各モデル(機種)を指します。
液晶ディスプレイセットモデル	液晶ディスプレイがセットになっているモデルのことです。
CRTディスプレイセットモデル	CRTディスプレイがセットになっているモデルのことです。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
リモコン添付モデル	リモコンが添付されているモデルのことです。
LANモデル	LANボードを搭載しているモデルのことです。
TVモデル	テレビ/地上波データ放送を見るための機能を搭載しているモデルのことです。
BSモデル	TVモデルのなかでBSデジタルチューナボードを搭載しているモデルのことです。テレビ/地上波データ放送のほかに、BSデジタル放送も楽しむことができます。
Office XPモデル	Office XP Personalがあらかじめインストールされているモデルのことです。

型名	型番	表記の区分				
		内蔵CD-R/RWドライブ・DVD-ROMドライブ	ディスプレイ	キーボード・マウス	TV機能	LAN
VC1000J/8FD	PC-VC1000J8FD	CD-R/RW with DVD-ROMモデル	液晶ディスプレイセットモデル(15型液晶)	ワイヤレスキーボード・ワイヤレスマウス	—	LANモデル
VC800H/8FD1	PC-VC800H8FD1					—
VT770/0D	PC-VT7700D		液晶ディスプレイセットモデル(17.5型ワイド液晶)		BSモデル・TVモデル(リモコン添付)	
VT750/0D	PC-VT7500D					TVモデル(リモコン添付)
VT700/0D	PC-VT7000D					
VT550/0D	PC-VT5500D					液晶ディスプレイセットモデル(15.3型ワイド液晶)
VT500/0D	PC-VT5000D					
VT300/0D	PC-VT3000D		CRTディスプレイセットモデル(17型CRT)		USBキーボード・USBマウス	

本文中の画面、イラスト、ホームページのアドレス

本文中の画面やイラストはモデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。記載しているホームページの内容やアドレスは、本冊子制作時点のものです。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

(本文中の表記)

(正式名称)

Windows、 Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Office XP Personal	Microsoft® Office XP Personal(Microsoft Word、Microsoft Excel、 Microsoft Outlook®, Microsoft Bookshelf® Basic 3.0)
MS-IME 2002	Microsoft® IME 2002
VideoStudio	Ulead VideoStudio Version4.0 SE Basic
Easy CD Creator	Easy CD Creator™ 4 Standard
DirectCD	DirectCD™ 3
NEC PC オーナーズ スケジューラ	NEC PCオーナーズスケジューラ by BIGLOBEスケジューラ

■ 技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

認証機器名：SF-EJQ-ST

認証番号

電話回線：A00-0408JP

導入にあたっては、「MDMNEJQ.INF」または「MDEJQNT5.INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。

使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

■ 高調波電流規制について

この装置の本体および17型CRTディスプレイは、高調波ガイドライン適合品です。

■ 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■ 漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

■ 瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

■ レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブが搭載されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® Millennium Edition および本機に添付のCD-ROMは、本機のみでご利用ください。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Office ロゴ、Outlook、Bookshelf、および Windows のロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

「iモード」は NTT ドコモの登録商標です。

携帯電話は、ソースネクスト株式会社の登録商標です。

筆王は株式会社アイフォーの登録商標です。

Ulead、VideoStudio は Ulead System, Inc. の登録商標です。

Adaptec および Adaptec 社のロゴは、Adaptec, Inc. の登録商標です。

Easy CD Creator、DirectCD は、Adaptec, Inc. の商標です。

Intel、Pentium は、Intel Corporation の登録商標です。

Celeron は、Intel Corporation の商標です。

MNP は、Microcom, Inc. の登録商標です。

K56flex は、Lucent Technologies と CONEXANT SYSTEMS の商標です。

nVIDIA および GeForce2 MX は、nVIDIA 社の登録商標です。

Sage は、Sage 社の米国における登録商標です。

T.M.D.S は、米国シリコンイメージ社の商標です。

ダイヤモンドトロンは、三菱電機株式会社の登録商標です。

アクティブメニュー NX、SmartVoice、BIGLOBE、BusBrain、SmartGallery は、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation 2001

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■ 輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていない。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

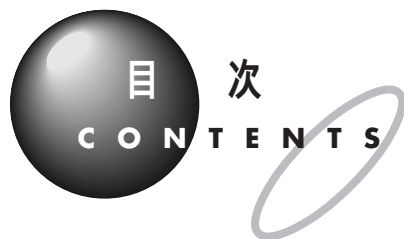
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

■ Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.



PART

1

はじめに	i
『もっと知りたいパソコン』の読み方	ii
このマニュアルの表記について	iv
このパソコンで使える周辺機器	1
このパソコンに取り付けることができる周辺機器	2
本体前面に取り付けることができる周辺機器	2
本体背面に取り付けることができる周辺機器	3
本体内部に取り付けることができる周辺機器	4
周辺機器を取り付けるときのポイント	5
周辺機器選びで失敗しないために	5
パソコンの電源を切ってから取り付けよう	5
電源を入れたまま取り付けられる周辺機器	6
メモリやPCIボードなどは、本体のカバーを開けて中に取り付ける	6
取り付けただけではすぐに使えない周辺機器	6
プリンタ	7
プリンタの種類	7
プリンタを使えるようにする	8
AV 機器を接続する	9
光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子	9
マイクロホン端子	11
音声入力端子	12
音声出力端子	12
ヘッドホン端子	13
映像出力端子 (VT300/0D を除く TV モデルのみ)	13
ターミナルアダプタ	15
ISDN 回線について	15
ターミナルアダプタを使う	15
デジタルカメラ	17
画像データを取り込む	17
取り込んだ画像データを活用する	19

PART

2

その他の機器のご紹介	20
3.5 インチフロッピーディスクドライブ	20
外付け用ハードディスク	20
MO ディスクドライブ	21
PCI ボード	21
デジタルビデオカメラ	22

機器を取り付ける前に 23

接続から準備完了までの流れ	24
ドライバなどをインストールする	25
周辺機器の取り外しと再接続	27
機器を取り付けるときのご注意	28
本体の開け方と閉め方	29
用意するもの	29
ルーフカバーの外し方	29
ルーフカバーの取り付け方	32

PART

3

USB 対応機器を使う 35

USB とは	36
USB なら簡単接続	36
USB コネクタについて	37
USB 対応機器を接続する	38
接続する前に	38
USB コネクタにプラグを差し込む	39
正しく接続できたかどうか確認する	42
USB 対応機器を取り外すときの注意	42
USB 対応機器をお使いになる上で	43
ハイパワーデバイスについて	43
USB ハブを使う	44
USB 対応機器を使用するときの注意	44

PART

4

LAN ボードを使う(LAN モデルのみ) 45

LAN に接続する	46
接続前の確認	46
リンクケーブル(別売)を接続する	46
LAN の設定	47
ネットワークのセットアップ(設定).....	47
ネットワーク上で自分のコンピュータを認識させる	47
LAN に関するトラブル	48

PART

5

IEEE1394 対応機器を使う 49

IEEE1394 について	50
IEEE1394って何?	50
IEEE1394 対応機器を接続する	51
IEEE1394 対応機器を取り外すときの注意	52
IEEE1394 対応機器をスマートに活用する	53
映像を取り込んで編集する	53
デジタルビデオ機器を簡易操作する	53
デジタルビデオカメラの映像をインターネットで見る	54

PART

6

PC カードを使う 55

PC カードスロットについて	56
PC カードの入れ方と出し方	57
PC カードをセットする前に	57
PC カードをセットする	58
PC カードを取り出す	61
PC カードを使用するときの注意	63

PART**7****PCI ボードを使う 65**

PCI ボードについて	66
いろいろな PCI ボード	66
PCI スロット	66
PCI ボードの取り付けと取り外し	67
PCI ボードの取り付け方	67
PCI ボードの取り外し方	70

PART**8****メモリを増やす 71**

メモリを増やすには	72
メモリの増やし方の例	72
このパソコンで使える増設 RAM サブボード	73
増設 RAM サブボードの取り付けと取り外し	74
ボードを取り扱うときに気をつけること	74
増設 RAM サブボードの取り付け方	74
RAM サブボードの取り外し方	76
増やしたメモリを確認する	77
確認のしかた	77
メモリが増えていなかったら	78

PART**9****SCSI インターフェイス対応機器を使う 79**

SCSI 機器を使うには	80
SCSI インターフェイスについて	81
接続できる SCSI 機器	81
SCSI に関する基礎知識	81
SCSI インターフェイスの種類	82
用意するもの	83
SCSI インターフェイスボードを取り付ける	84
SCSI 機器を接続する	85
SCSI 機器がうまく動かないときは	86

PART

10

ハードディスクを増設する 87

ハードディスクを増設するには 88

用意するもの 89

本体にハードディスクを接続する 90

ハードディスクをフォーマットする 92

増設したドライブのドライブ名について 93

領域作成の準備をする 94

領域を作成する 96

増設したハードディスクを確認する 98

ドライブをフォーマットする 99

PART

11

機器を取り付けた後で 101

困ったときのチェックポイント 102

リソースに関する問題 103

リソースって何? 103

リソースの競合とは 103

リソースが競合していたら 103

デバイスのリソース設定の変更 104

PART

12

ハードウェアの活用術 107

マウス 108

スクロールボタンを使う 108

キーボード 110

キーの役割 110

キーの名称 110

ワンタッチスタートボタンの名前と役割 112

PC-9800 シリーズのキーボードとのキーの違い 114

PART

13

ハードディスク	115
概要	115
ハードディスクの取り扱い上の注意	115
ハードディスク内のデータのバックアップはこまめにとる	115
省電力機能	116
概要	116
省電力機能を使う	117
省電力の設定を変える	119

さらに広がるパソコンワールド 121

携帯電話と連携する	122
携帯電話に登録されている情報を編集する	122
パソコンで作成したデータをiモード機能のある携帯電話で閲覧する	122
インターネットで映像を楽しむ	125
いまこの瞬間をインターネットで中継　～ライブフォト/i～	125
インターネットに映像を公開する　～ビデオ登録君～	125
CD-R や CD-RW にデータを書き込む	127
CD-R と CD-RW の特長	127
CD-R や CD-RW にデータを書き込むソフトについて	127
他の CD-ROM ドライブでメディアを読み込むときの注意	128

PART

14

本機の設定を変更する 129

BIOS セットアップメニュー	130
BIOS セットアップメニューを使ってできること	130
BIOS セットアップメニューを使う	130
パスワードの解除	131
このパソコンが使用しているリソース	134
割り込みレベル (IRQ)	134
DMA チャンネル	135



付 録	137
パソコンのお手入れ	138
準備するもの	138
電源を切って、電源ケーブルを外す	138
清掃する	139
電池切れにご注意 (ワイヤレスキーボード・ワイヤレスマウスの場合)	140
マウスのクリーニング	140
本体の各部の名称	141
リモコンの各部の名称	146
機能仕様	149
FAX モデムボード機能仕様	157
LAN ボード機能仕様(LAN モデルのみ)	159
索 引	161

P A R T

1

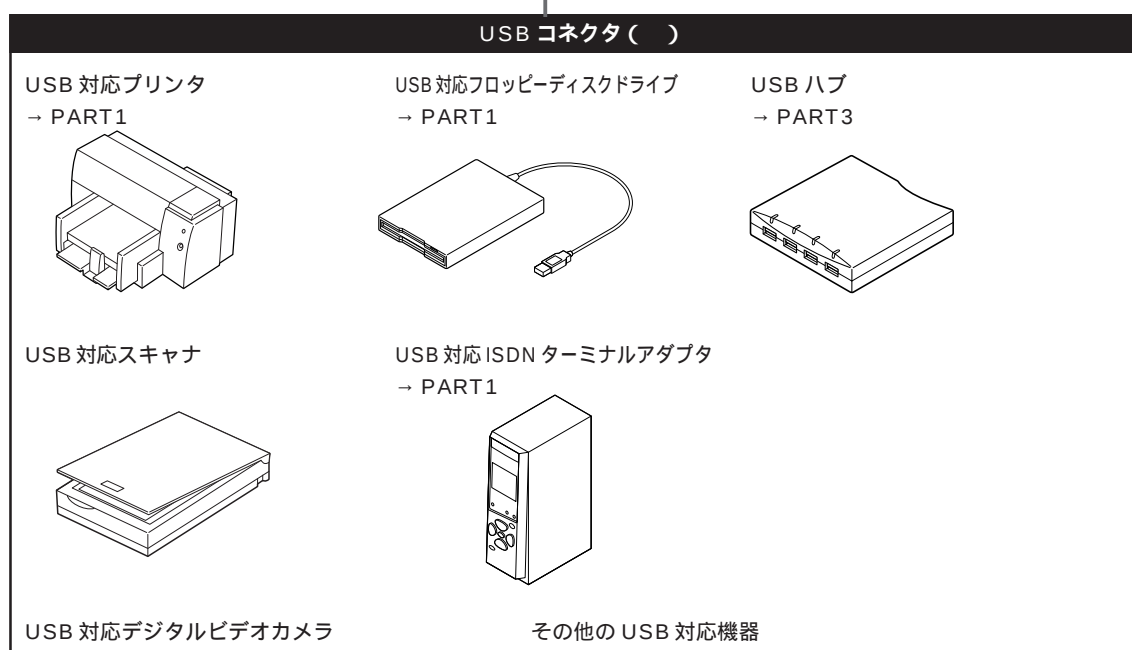
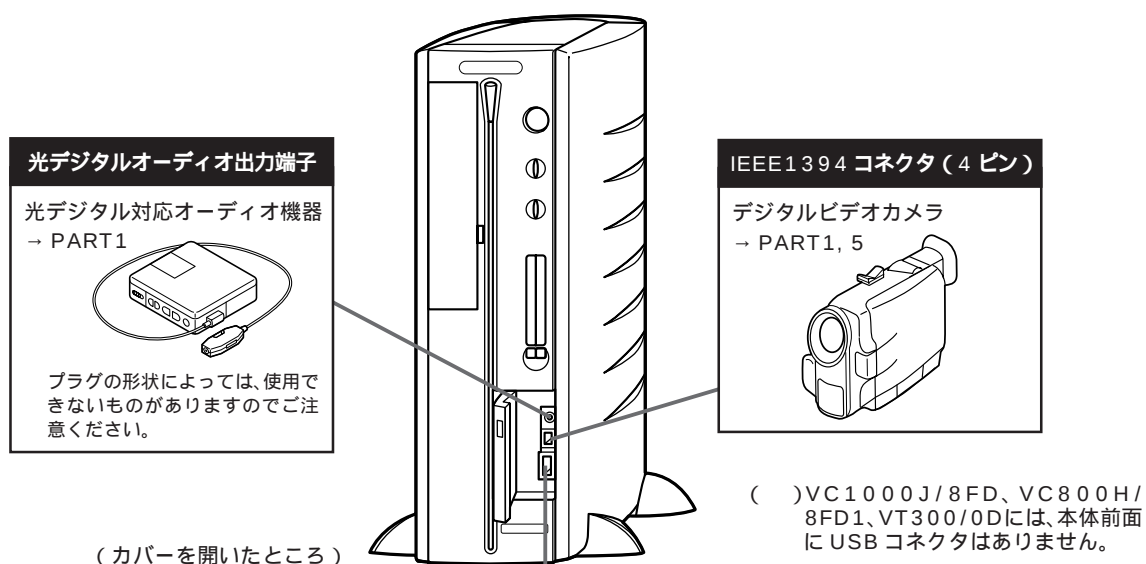
このパソコンで使える周辺機器

プリンタやデジタルカメラ、スキャナなどの周辺機器をつなげば、あなたのパソコンライフがますます豊かなものになります。ここでは、このパソコンで使える周辺機器について紹介します。

このパソコンに取り付けることができる周辺機器

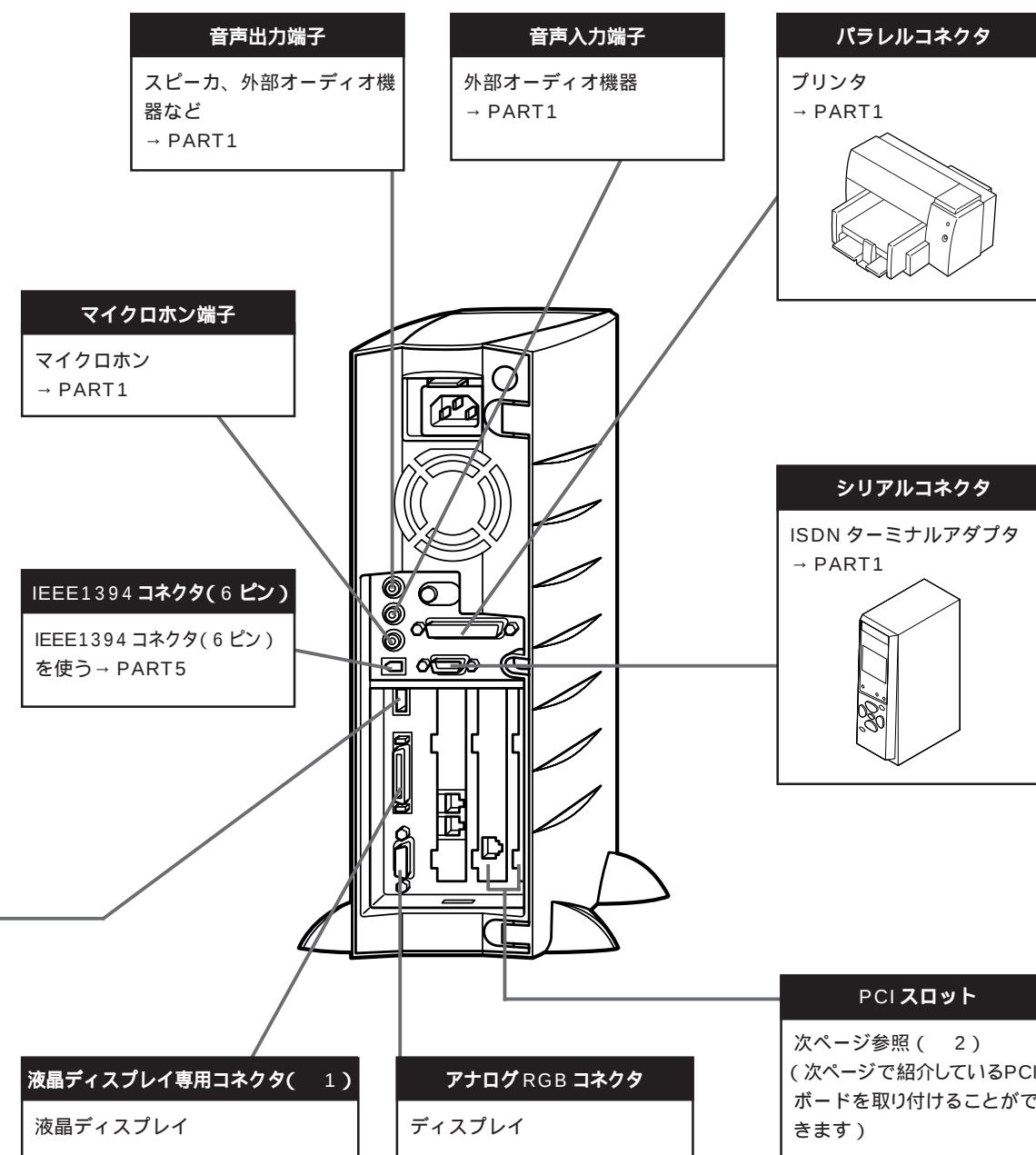
本体前面に取り付けることができる周辺機器

周辺機器の取り付けの際は、その周辺機器がこのパソコンで使えるかどうか十分確認してください。
また、取り付け手順については、周辺機器のマニュアルやこのマニュアルを参考にしてください。



・USB コネクタが不足するときは、別売の USB ハブを使ってコネクタを増やすことができます。

本体背面に取り付けることができる周辺機器



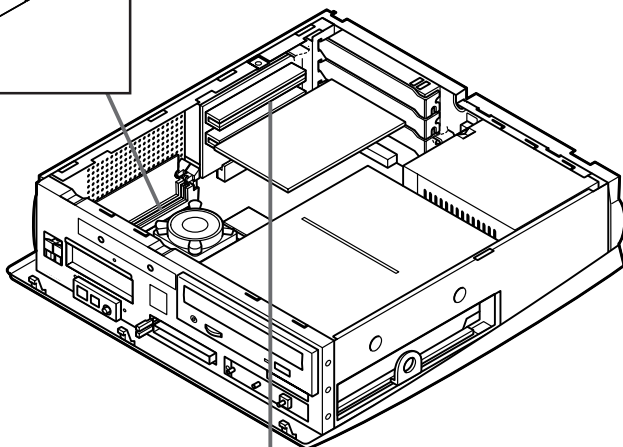
- 1 セットの液晶ディスプレイを接続する専用コネクタです。VT300/0Dの場合、添付の「USB増設ケーブル」をこのコネクタに取り付けて USB 対応機器を接続することもできます (p.41 参照)。
- 2 VC800H/8FD1の場合、両側の PCI スロットに PCI ボードを取り付けることができます。VC800H/8FD1と BS モデル以外の場合、右側の PCI スロットに PCI ボードを 1 枚取り付けることができます。BS モデルの場合、地上波 TV & データボードと BS デジタルチューナボードで 2 スロット占有済みのため、新たに PCI ボードを取り付けることはできません。

本体内部に取り付けることができる周辺機器

下の図はルーフカバーを外した状態です。

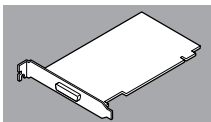
増設 RAM サブボード用コネクタ

増設 RAM サブボード
→ PART8

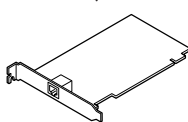


PCI スロット ()

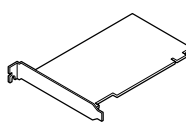
SCSI インターフェイスボード
→ PART9



LAN (ネットワーク) ボード
→ PART1、4



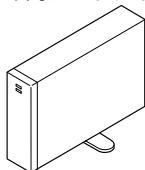
その他の PCI 対応ボード
→ PART7



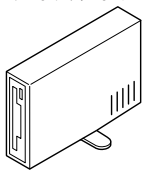
() BSモデルの場合、標準でBSデジタルチューナボードが取り付けられているため、新たに PCI ボードを取り付けることはできません。

SCSI 対応機器 (SCSI インターフェイスボードに接続します)

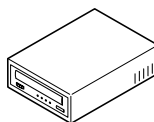
外付け用ハードディスク



MO ディスクドライブ



その他の SCSI 対応機器



周辺機器を取り付けるときのポイント

周辺機器にはさまざまな種類があり、接続の規格にもいろいろあります。機器によっては、このパソコンでは使えないものもあります。周辺機器を選ぶときのコツや取り付ける際の注意点を確認しておきましょう。

周辺機器選びで失敗しないために

●新製品情報をチェック

パソコン雑誌などでは、プリンタやデジタルカメラなど、ジャンル別に周辺機器の新製品を紹介する特集記事が載ることがあります。自分の欲しい製品がないか、チェックしてみましょう。

●このパソコンで使えることを確認

同じプリンタでも、機種によって接続方法や対応パソコンの種類などが異なり、このパソコンでは使えない場合もあります。せっかく買ってきたのにこのパソコンでは使えなかった、ということにならないように、このパソコンで使えるかどうか、購入前に確認しましょう。

NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」で、このパソコンで使える周辺機器を紹介しています。インターネットに接続できる方は、参考にしてください。

「121ware.com」のアドレス(URL) <http://121ware.com>

NEC製以外の機器については、各メーカーや販売店にお問い合わせください。

●接続の規格に気を付ける

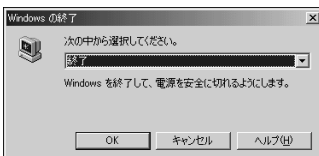
このパソコンにはシリアルコネクタ(RS-232C)、パラレルコネクタ(セントロニクスなどと記載)、USBコネクタ、IEEE1394コネクタ、光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子、PCIスロット、PCカードスロットがあります。周辺機器の中には、同じ種類でも複数の規格に対応しているものがあります。規格には、それぞれ適しているもの、適していないものがありますので、購入するときは、パソコンに詳しい友人やパソコンショップの店員さんなどに相談しましょう。

パソコンの電源を切ってから取り付けよう

周辺機器を取り付けるときは、原則として、パソコン本体の電源を切り、コンセントから電源ケーブルを抜きます。そうしないと、感電したり、パソコンや周辺機器が故障してしまうかもしれません。休止状態(p.116)になると、パソコン本体の電源ランプが消灯し、電源が切れますが、Windowsは終了していません。休止状態から復帰させ、Windowsを終了して電源ケーブルを抜いてから、周辺機器を取り付けてください。

1

Windowsを終了する

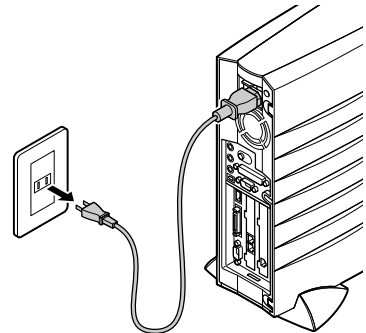


2

電源ケーブルを抜く

3

取り付け作業を始める

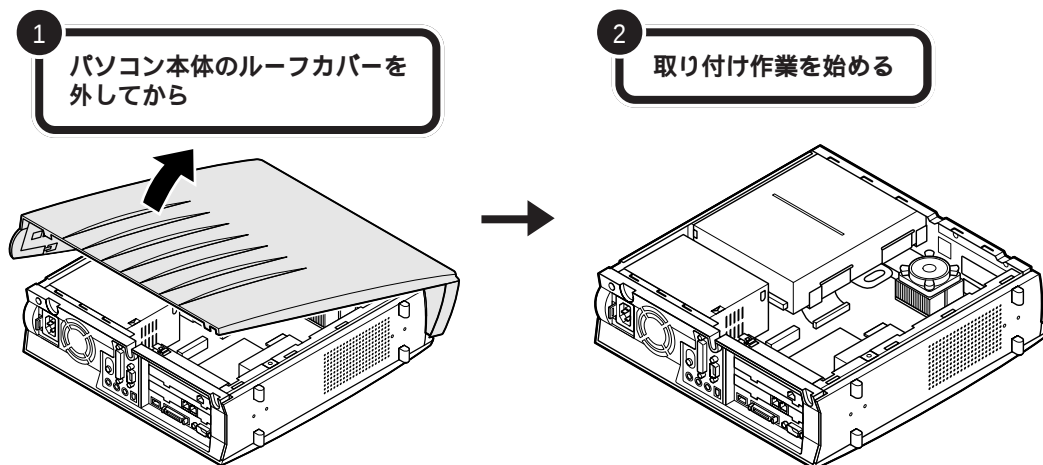


電源を入れたまま取り付けられる周辺機器

USB対応機器やIEEE1394対応機器、PCカードは、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできます。ふだんは取り外しておいて、必要になったときに接続し、使い終わったらまた取り外す、というような使い方ができます。

メモリやPCIボードなどは、本体のカバーを開けて中に取り付ける

パソコンの動作を速くするために必要な「増設RAMサブボード」や、SCSI対応機器などを使うために必要な「PCIボード」などは、パソコン本体の中に取り付ける場所があります。これらの機器を取り付けるときは、パソコン本体のカバーを開けることになります。PART2の「本体の開け方と閉め方」をよく読んで、慎重に行ってください。



参照 カバーの開け方 → PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.29)

取り付けただけではすぐに使えない周辺機器

ヘッドホンやオーディオ機器のように、パソコンにケーブルを接続しただけでそのまま使い始められるものもあります。しかし、ほとんどの周辺機器は、取り付けただけでは使えず、取り付け後にパソコン上で設定を行う必要があります。たとえば、

- ・ USB対応機器やプリンタ、SCSIインターフェイスボードなどを取り付けたら、「ドライバ」という専用のソフトウェアを設定する必要がある(詳しくはPART2を参照)
- ・ ハードディスクを増設したら、そのハードディスクをフォーマットする必要があるものもある(詳しくはPART10を参照)
- ・ ターミナルアダプタやプリンタ、スキャナなどを取り付けたら、それらを便利に使うためのアプリケーションやユーティリティが必要になる

詳しくは、このマニュアルの各PARTの説明や、お使いの周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

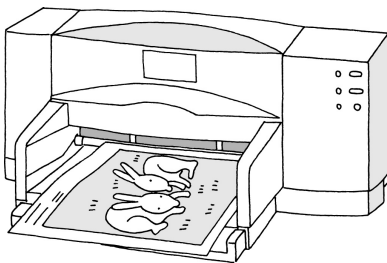
プリンタ

プリンタは、パソコンで作った文書はもちろん、写真なども印刷できます。プリンタの種類もいろいろあります。ここでは、プリンタの種類と接続の流れを簡単に説明します。

プリンタの種類

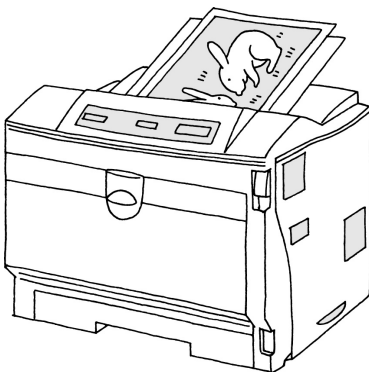
プリンタには次のような種類があります。用途に合ったプリンタを選びましょう。

• インクジェットプリンタ



価格が手ごろなものからあり、個人用としては、もっともポピュラーなタイプです。細かい粒子状にしたインクを紙に吹き付けて印刷します。写真などを美しくカラー印刷できますが、印刷に多少時間のかかるものもあります。

• レーザープリンタ(ページプリンタ)



コピー機と同じようにトナーを紙に焼きつけて印刷するプリンタです。音が静かで、高速に印刷ができます。しかし、カラー印刷ができるものは高価なため、モノクロ印刷のものが主流になっています。

• ドットインパクトプリンタ

紙にインクリボンをあてて、その上からピンを打ち付けて印字する方式です。印字文字が粗く、大きな音をたてますが、カーボン紙などを使った複写式の伝票などを印刷するときにこのタイプを使います。

プリンタを使えるようにする

プリンタが使えるようになるまでの手順は次のとおりです。
プリンタは、本体の USB コネクタまたはパラレルコネクタに接続します。

ほとんどの場合、接続した後で、専用のドライバやアプリケーション(プリンタに添付してあるもの)のインストールが必要になります(接続するだけですぐに使えるプリンタもあります)。詳しくはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

用語

ドライバ

情報をパソコンから周辺機器へ適切に伝えるためのソフトウェアです。周辺機器を接続したとき、最初に一度だけ組み込み(インストール)ます。

● USB コネクタに接続する場合

用途に合わせてプリンタを選ぶ

接続ケーブルやプリンタの付属品など、必要なものを用意する
(プリンタ添付のマニュアル参照)

パソコンとプリンタの電源を入れてから、パソコンの USB コネクタにプリンタを接続する

プリンタ用ドライバ、アプリケーションのインストールをする
(プリンタ添付のマニュアル参照)

プリンタ添付のマニュアルを見ながら、正しく接続できたか確認する
(テスト印刷)

● パラレルコネクタに接続する場合

用途に合わせてプリンタを選ぶ

接続ケーブルやプリンタの付属品など、必要なものを用意する
(プリンタ添付のマニュアル参照)

パソコンの電源を切り、パラレルコネクタにプリンタを接続する

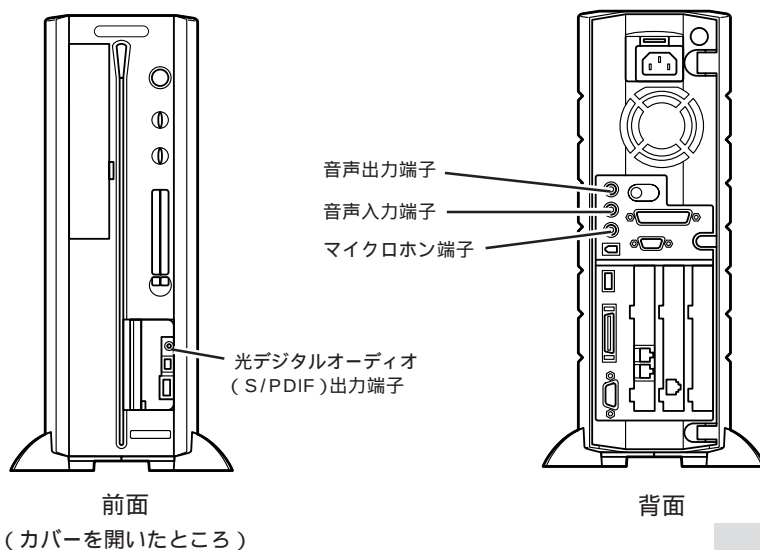
パソコンの電源を先に入れてから、プリンタの電源を入れる

プリンタ用ドライバ、アプリケーションのインストールをする
(プリンタ添付のマニュアル参照)

プリンタ添付のマニュアルを見ながら、正しく接続できたか確認する
(テスト印刷)

AV 機器を接続する

このパソコンでは、パソコンの音を外部のスピーカで鳴らしたり、光デジタル対応のオーディオ機器に録音したり、マイクロホンでパソコンに音を取り込んだりすることができます。



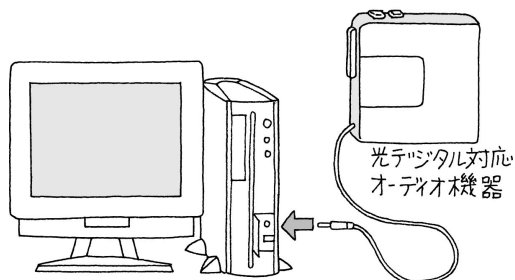
光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子

この端子にMDデッキやAVアンプなどのデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続して、音を聴いたり、パソコンで再生した音をオーディオ機器にデジタル録音したりできます。

MD にデジタル録音するには、このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」を使います。

参照

Jet-Audio Player について → 
「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」



●出力される音源

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からは、次の音源が光デジタル信号で出力されます。

- ・WAVE 音源
- ・MIDI 音源

また、ドルビーデジタル5.1チャンネル出力(ドルビーデジタルサラウンドに対応。ただし、ドルビーデジタルによる5.1チャンネルで再生するためには、対応したオーディオ機器が必要です)にも対応しています。なお、DTS出力には対応していません。

●S/PDIFの出力設定の変更方法

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「ヤマハ DS-XG 設定」の「デジタル出力」タブでデジタル出力モードを変更します。

OFF : この端子、ディスプレイのスピーカ、音声出力端子から音声のみを出力します。

ON(デジタルソースのみ)

: この端子に光デジタルケーブルを接続したときは、光デジタル信号を出力します。ヘッドホン、スピーカを接続したときは音声のみを出力します。光デジタル信号で出力されるのは、Wave や MIDI 等のデジタルソースのみです。

ON(すべて)/通常出力は消音

: この端子から光デジタル信号のみを出力します。ディスプレイのスピーカ、音声出力端子から音声は出力されません。すべての音声は光デジタル信号で出力されます。

ON(ダイレクト)

: このパソコンでは使用できません。

●オーディオ機器を接続するときの注意

- ・必ず、オーディオ機器の電源を切ってから接続してください。
- ・デジタルオーディオ入力機器によっては光デジタルに対応していないことがあります。この場合は、別途、変換ユニットが必要になることがあります。
- ・デジタル入力機能のあるオーディオ機器を接続するときには、市販の光デジタルケーブルを使用してください。
- ・この端子の形状は光ミニ端子(丸形)です。ケーブルのプラグ形状によっては使用できないものがありますので、ご購入時に確認してください。
- ・このパソコンの光デジタル信号出力のサンプリング周波数は48kHzです。デジタル入力機能のあるオーディオ機器を接続するときは、そのオーディオ機器が48kHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。詳しくは、オーディオ機器のマニュアルで確認してください。

●Jet-Audio Player の設定の変更方法

ドルビーデジタル5.1チャンネル出力を行う場合は、以下の手順にて、Jet-Audio Player の「デジタル出力」設定を変更してください。

「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」→「Jet-Audio Player」の順にマウスポインタを合わせ、「Jet-Audio Player」をクリックする。

「Jet-Audio Player」が起動します。

✓チェック!!

- ・コントロールパネルに「ヤマハ DS-XG 設定」アイコンが表示されていないときは、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。
- ・ディスプレイのスピーカが使えるのは、液晶ディスプレイセットモデルのみです。

「Jet-Audio Player」の「ラック制御」パネルの(細かい設定)をクリックする。

「細かい設定」ウィンドウが表示されます。

「デジタルビデオ」タブをクリックし、「DVD エンジンの環境設定」をクリックする。

「オーディオ出力」タブが選択されているのを確認し、「デジタル出力」のをクリックして、

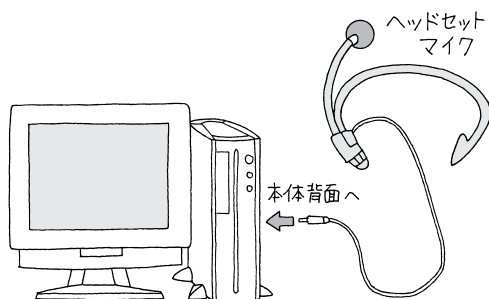
「OK」ボタンをクリックする。

「OK」ボタンをクリックする。

「設定を変更するには、Jet-Audio Playerを再起動してください。」と表示されたら、「OK」をクリックし、「Jet-Audio Player」を終了する。
「Jet-Audio Player」再起動後、設定が有効になります。

マイクロホン端子

この端子にマイクロホンを接続して、パソコンに音を取り込むことができます。マイクロホン端子は、本体背面にあります。



●音量の調節

マイクロホンからの入力音量は、Windowsの「ボリュームコントロール」の機能で調節します。「ボリュームコントロール」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテインメント」→「ボリュームコントロール」をクリックして起動できます。

●ハウリングについて

マイクロホンを液晶ディスプレイのスピーカに近づけると、スピーカから「キーン」という大きな音が出ることがあります。これをハウリング現象といいますが、故障ではありません。この場合は、次の対策を行ってください。

- ・マイクロホンをスピーカから遠ざける
- ・「ボリュームコントロール」で入力音量(ボリューム)を小さくする

✓チェック!!

このパソコンには、マイクロホンは添付されていません。モノラルミニプラグ付のマイクロホンを、別途購入してください。

✓チェック!!

ディスプレイのスピーカが使えるのは、液晶ディスプレイセットモデルのみです。

● 取り込んだ音声の利用

マイクロホンから取り込んだ音声は、「サウンドレコーダー」というアプリケーションを使って録音し、ファイルに保存できます。詳しくは、サウンドレコーダーのヘルプをご覧ください。「サウンドレコーダー」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテインメント」→「サウンドレコーダー」をクリックして起動できます。

● マイクロホンを使って音声入力をする

「SmartVoice4.0」などの日本語音声認識ソフトをインストールして、このパソコンにマイクロホンを接続すると、音声で文字入力やパソコンの操作ができるようになります。このパソコンに添付されているアプリケーションのなかで、「音声対応」となっているものもマイクロホンで音声操作ができます。詳しくは、アプリケーションのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。

TVモデルには、SmartVoice4.0が添付されています。TVモデル以外の方でSmartVoice4.0をお使いになる場合は、別途購入していただく必要があります。

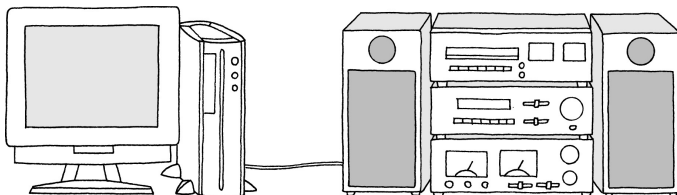
SmartVoice4.0は、購入時にはこのパソコンにインストールされていません。添付のアプリケーションCD-ROMからインストールしてください。

参照

SmartVoice4.0のインストール方法について→  「サポートセンタ」-「アプリケーションの追加と削除」-「SmartVoice」

音声入力端子

この端子に外部オーディオ機器を接続して、外部オーディオ機器から出力される音をパソコンで聴いたり録音したりできます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルです。ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、電器店などで購入してください。



音声出力端子

この端子に外付けスピーカや外部オーディオ機器を接続して、パソコンから出力される音を聴いたり、テープレコーダ等に録音したりできます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルです。ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、電器店などで購入してください。

チェック!!

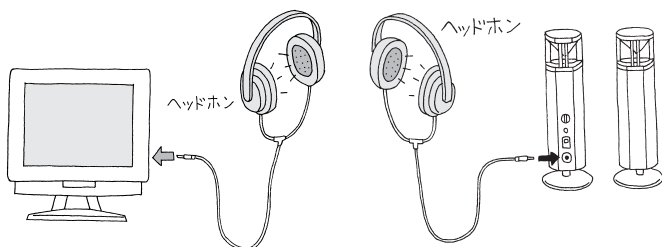
ケーブルを外部オーディオ機器側に接続するときは、「LINE IN」、「AUX IN」などの入力端子に接続してください。また、外部オーディオ機器に「MIC IN」しかない場合は、「抵抗入り」のオーディオケーブルを購入してください。

ヘッドホン端子

この端子にイヤホンやヘッドホンを接続して、パソコンから出力される音を聴くことができます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのヘッドホンです。お持ちのヘッドホンのプラグが大きくて入らないときは、電器店などで「ステレオ標準プラグ→ステレオミニプラグ」変換プラグを購入してください。キーボードの【】】ボタンで調節しても音量が小さすぎるような場合は、Windowsの「ボリュームコントロール」の機能で調節してください。

- 液晶ディスプレイセットモデルの場合
ヘッドホンは液晶ディスプレイのヘッドホン端子に接続します。

- 円筒形スピーカがセットの場合
ヘッドホンは円筒形スピーカのヘッドホン端子に接続します。



映像出力端子(VT300/0Dを除くTVモデルのみ)

映像出力端子は、本体背面にあります。この端子にテレビを接続すると、パソコンの画像やDVD-Videoの映像を大画面でお楽しみいただけます。

● テレビに映像を表示させる

次の手順でテレビにSmartVision/TVおよびJet-Audio Playerで再生した映像を表示できます。なお、あらかじめテレビの電源は入れておいてください。

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックする。

「コントロールパネル」の「画面」をダブルクリックする。

「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックする。

「TwinView」タブをクリックする。

「TwinView モード」欄の「クローン」を (オン)にし、「適用」をクリックする。

テレビに画像が表示され、モニタイメージ1、2がプロパティに表示されます。

モニタイメージ2をクリックして「出力デバイス」をクリックする。

「形式の変更」をクリックする。

「TV形式の変更」画面が表示されます。

✓チェック!!

- ・ヘッドホンを接続するときは、音量を小さくしてから接続してください。
- ・円筒形スピーカのヘッドホン端子に接続したときは、液晶ディスプレイ右側面のボリュームつまみを下に回して、ディスプレイのスピーカから出力される音を消してください。
- ・17.5型ワイド液晶ディスプレイの場合、ヘッドホン端子は、液晶ディスプレイ前面にあります。

📖 参照

- ・映像出力端子→付録の「本体の各部の名称」(p.141)
- ・DVD-Videoを見る→「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」

✓チェック!!

- ・接続には別売のビデオケーブルが必要です。
- ・S映像入力端子のあるAV機器に接続してください。また、添付の「VIDEO変換コネクタ」を使えば、RCA端子のあるAV機器にも接続できます。
- ・この端子に接続した機器で表示できる解像度は、640×480、800×600、1,024×768ドットです。
- ・テレビに映し出すと、小さな文字などが判読できなくなることがあります。

「国名」に「日本」(「形式」に「NTSC-J」)を選択し、「OK」をクリックする。

「OK」をクリックする。

「OK」をクリックする。

「デスクトップ設定の確認」画面が表示された場合は、「はい」をクリックする。

「GeForce2MX」タブをクリックする。

「詳細プロパティ」をクリックする。

「オーバーレイコントロール」タブをクリックする。

「ビデオミラーコントロール」をクリックする。

「フルスクリーンデバイス」欄の「第2ディスプレイ」を  (オン)にし、「適用」をクリックする。

「OK」をクリックする。

「OK」をクリックする。

「OK」をクリックして「画面のプロパティ」を閉じる。

● テレビ表示を止める

モニタ+テレビからモニタのみの表示に戻すには、次の手順で切り替えてください。

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックする。

「コントロールパネル」の「画面」をダブルクリックする。

「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックする。

「TwinView」タブをクリックする。

「TwinViewモード」欄の「標準(TwinViewは無効)」を  (オン)にし、「OK」をクリックする。

「OK」をクリックして「画面のプロパティ」を閉じる。

ターミナルアダプタ

ここでは、より高速にインターネットを楽しむことができるISDN回線と、このパソコンにつなげられるターミナルアダプタ(ISDN ターミナルアダプタ)について簡単に説明します。

ISDN 回線について

ISDN回線を利用すると、モデムと比べてより高速なデータ通信速度でインターネットを楽しむことができます。さらに、次のようなメリットがあります。

- ・ ノイズの混入や信号の減衰がない
- ・ 一本の回線で二本分利用できるため、インターネットに接続しながら電話をかけられる

ISDN回線を利用するときには、ターミナルアダプタのほかにDSUという装置が必要です。DSUを内蔵するタイプのターミナルアダプタもあります。

デスクトップにある  をダブルクリックすると、「カンタンISDN」の紹介ページが表示されます。ここでは、ISDNの基礎知識やISDN回線にするメリットなどISDNについて幅広く解説しています。また、今すぐここからISDNの申し込みを行うこともできます。ここからISDNに申し込んで、BIGLOBEと契約していただくと、さまざまな特典を受けることができます。

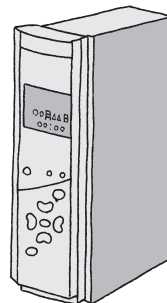
2001年12月末日までにお申し込みいただいた方に限ります。

ターミナルアダプタを使う

ISDNターミナルアダプタを使う前に次のことを確認してください。

- ・ ISDN回線の契約をしていること
- ・ DSUが内蔵されていること(DSUが内蔵されていない場合は、別途用意してください)
- ・ ISDN回線用のコンセントがモジュラー式になっていること

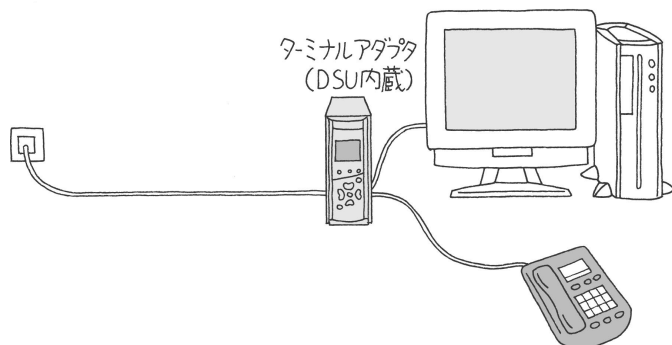
このパソコンにターミナルアダプタを接続するときは、USBコネクタかシリアルコネクタに接続します。



✓チェック!!

ISDN回線を使って高速でインターネットに接続するには、プロバイダがISDN回線に対応している必要があります。

USB対応のターミナルアダプタは、本体のUSBコネクタに接続します。また、無線対応のターミナルアダプタ(AtermIWX70)とマルチモバイルカード(AtermRC45)を利用することもできます。こうすると、ターミナルアダプタから離れた場所にパソコンを設置できるため、たとえば1階にしかモジュラーコンセントがなくても2階の部屋でインターネットを楽しむことができるようになります。



ISDN 回線に契約していない場合は、契約する
(デスクトップにあるISDNから契約することもできます)

ターミナルアダプタ(必要に応じてDSUも) 必要なケーブル類を用意する

ターミナルアダプタに添付のマニュアルを参照して、
必要なドライバ、アプリケーションをインストールする

ターミナルアダプタに添付のマニュアルとこのマ
ニュアルを参照して、パソコンにターミナルアダプ
タを接続する

インターネットの設定をISDN 回線用にする

デジタルカメラ

デジタルカメラ(デジタルスチルカメラ)で撮影した写真(画像)をこのパソコンに取り込むには、いろいろな方法がありますが、ここではPCカードスロット経由で取り込む方法で説明します。取り込んだ画像は、いろいろなアプリケーションで活用できます。

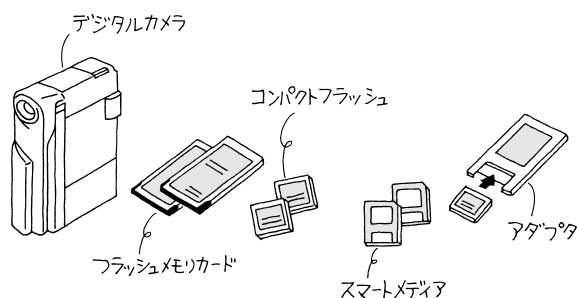
画像データを取り込む

デジタルカメラで撮影した写真をパソコンに取り込む方法は、デジタルカメラによって異なります。ここではメモリカードを使う方法を説明します。デジタルカメラで撮影した写真は、画像データとしてメモリカードにいったん保存されます。デジタルカメラによってメモリカードの種類はさまざまですが、次の2つのタイプに分けることができます。

- ・PCカードスロットにそのままセットできるもの(フラッシュメモリカードなど)
- ・PCカードスロットにセットできるようにするための専用のアダプタが必要なもの(コンパクトフラッシュやスマートメディアなど)

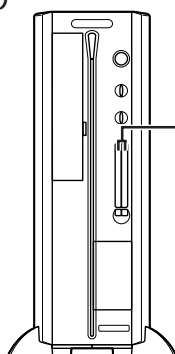
お使いのデジタルカメラのメモリカードについて詳しくは、デジタルカメラに添付のマニュアルをご覧ください。

この他にも、USBケーブルをパソコン本体に接続して画像を取り込むタイプのものもあります。



パソコン本体の電源を入れる

デジタルカメラから画像データの入ったメモ리카ードを取り出し、PC カードスロットにセットする(必要に応じて市販のPCカードスロット用のアダプタを使う)



PC カードスロット

デスクトップの「マイコンピュータ」からFドライブをダブルクリックし、画像が保存されているフォルダを開き、画像データが保存されていることを確認する

「表示」→「縮小表示」をクリックすると画像が縮小表示されるので、どんな写真が確認できます。

Fドライブ(PCカード)からCドライブ(パソコンのハードディスク)にデータをコピーする

デスクトップの「マイドキュメント」-「My Pictures」フォルダにコピーすると、縮小表示された画像の一覧を見ることができます。また、ウィンドウ左側に表示されるボタンを使って、画像を回転したり印刷したりすることもできます。

 参照

PC カードの取り扱い方→「PART6
PC カードを使う」(p.55)

 チェック!!

購入時の状態で他に周辺機器を取り付けていない場合は、PC カードはFドライブになります。

取り込んだ画像データを活用する

パソコンに取り込んだ画像データは、大きさや色を変えたり、文章を入れたりできます。SmartGallery でこれらのデータを管理できます。

●インターネット経由で美しいカラー写真を作成する

このパソコンに添付されているインターネットの写真屋さんを使うと、インターネットを使って送信した画像データを高品位なカラープリントにし、宅配または郵便によって自宅で受け取ることができます。



(C)2000 DIGITAL PLAZA. All rights reserved.

●画像データを管理する

このパソコンに添付されているSmartGalleryを使うと、画像データのサムネイル表示(画像の一覧表示)ができます。をクリックして、デジタルカメラのデータがあるドライブを登録してください。デジタルカメラのデータとして、サムネイルが追加されます。サムネイルから直接いろいろなアプリケーションを起動して、ファイルを開いたりできます。



また、アルバム機能によってデータを整理することもできます。

●はがきを作成する

このパソコンに添付されている筆王を使うと、年賀状や暑中見舞いなどのはがきを作成できます。

●携帯電話で閲覧する

このパソコンに添付のスナップショットを使うと、画像データを編集して携帯電話の待ち受け画面にしたり、ホームページに置いて外出先からiモード機能のある携帯電話で閲覧したりできます。スナップショットについて詳しくは、PART13の「携帯電話と連携する」(p.122)をご覧ください。

✓チェック!!

インターネットの写真屋さんは、購入時にはこのパソコンにインストールされていません。添付のアプリケーションCD-ROMからインストールします。

📖参照

- ・インターネットの写真屋さんのインストール方法 → 「サポートセンター」-「アプリケーションの追加と削除」-「インターネットの写真屋さん」
- ・インターネットの写真屋さんについて → 「添付ソフトの使い方」-「インターネットの写真屋さん」

📖参照

SmartGallery について → 「添付ソフトの使い方」-「SmartGallery」

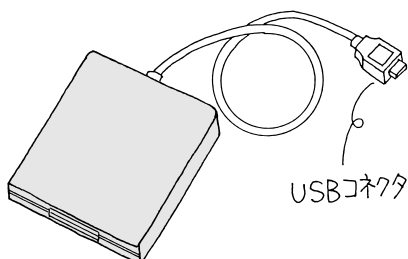
📖参照

筆王について → 「添付ソフトの使い方」-「筆王」

その他の機器のご紹介

その他の周辺機器の紹介です。ここでは比較よく使われる周辺機器を簡単に説明します。周辺機器選びの参考にしてください。

3.5 インチフロッピーディスクドライブ



3.5インチフロッピーディスクドライブは、もらったフロッピーディスクのデータを読み取ったり、このパソコンのデータをフロッピーディスクに書き込んだりするために必要な周辺機器です。

フロッピーディスクは、記憶容量がハードディスクの数千分の1以下しかありませんが、文字や数字が中心のデータをやりとりするには、もっとも手軽に使える記録メディア(媒体)です。最近は、インターネットや電子メールでデータをやりとりすることが多くなりましたが、インターネットに接続していない人へデータを渡すときには、フロッピーディスクが便利です。

3.5 インチフロッピーディスクには「2HD」(1.44M バイト)と「2DD」(720K バイト)の2種類の規格がありますが、一般に販売店で売られているのは「2HD」(1.44M バイト)が主流です。

このパソコンでは、USB に対応したフロッピーディスクユニット(PK-UP009)が使えます。

✓チェック!!

1.2M バイトのフロッピーディスクを外付けのフロッピーディスクユニットで使いたいときは、フロッピーディスクユニットが1.2M バイトに対応しているかどうかを確認してください。詳しくは、フロッピーディスクユニットに添付のマニュアルをご覧ください。

✓チェック!!

このパソコンに添付の「フロッピーディスクユニットプレゼント申込書」にてお申し込みいただいたお客様へ、もれなくフロッピーディスクユニットをプレゼントいたします(2001年11月30日(必着)まで)。お申し込み方法など、詳しくは、このパソコンに添付の「フロッピーディスクユニットプレゼント申込書」をご覧ください。

外付け用ハードディスク

データをたくさん保存したり、多くのアプリケーションをインストールしていくと、ハードディスクの容量が足りなくなってきました。そんなときは外付け用ハードディスクを増設して容量を増やすことができます。

機種によって接続の規格が異なります。USBに対応しているものはUSBコネクタに、IEEE1394に対応しているものはIEEE1394コネクタに接続します。またSCSIインターフェイス対応のものは、PCカードスロットにSCSIカードを取り付けるか、PCIスロットにSCSIインターフェイスボードを取り付けて接続します。

MO ディスクドライブ

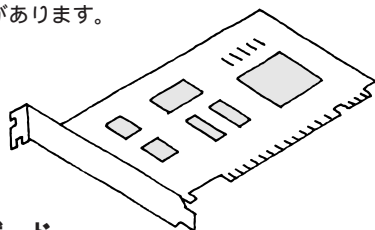
3.5 インチ MO ディスク (光磁気ディスク) を扱うことができるドライブです。3.5 インチ MO ディスクは、日本国内で普及している大容量メディアの1つです。記憶容量は128Mバイト、230Mバイト、540Mバイト、640Mバイト、1.3Gバイトの5種類があり、ドライブの種類によって扱えるディスクが異なります。

また、ドライブは機種によって接続の規格が異なります。USBに対応しているものはUSBコネクタに、IEEE1394に対応しているものはIEEE1394コネクタに接続します。またSCSIインターフェイス対応のものは、PCカードスロットにSCSIカードを取り付けるか、PCIスロットにSCSIインターフェイスボードを取り付けて接続します。

このほかにPD、Zip、Jazなどの大容量メディアもあり、データを読み書きするには、それぞれのメディアに対応したドライブが必要になります。

PCI ボード

PCI ボードには次のようなものがあります。



● SCSI インターフェイスボード

このパソコンに外付け用ハードディスクや、MOディスクドライブなどのSCSIインターフェイス対応機器を接続するためのボードです。

● 3D グラフィックアクセラレータボード

3D グラフィック、2D グラフィックを高速描画することができるボードです。CAD や 3D グラフィックス、3D ゲームなどに対応しています。また、動画の再生もなめらかに表示することができます。2D アクセラレーション機能もありますので、アプリケーションでも画面を高速に描画することができます。

● LAN ボード

LAN ボードはこのパソコンをLAN (Local Area Network) に接続するためのPCIボードです。LANは同じ建物の中など比較的近距离で、複数のコンピュータを接続したネットワークのことです。LANでコンピュータ同士を接続すれば、データの移動、ファイルやプリンタの共有などが簡単にできるようになります。

LANに接続するためのコネクタには、いくつかの異なる規格があります。現在市販されているLANボードの多くは100BASE-TXまたは10BASE-Tという規格のコネクタに対応するものです。それ以外のコネクタに接続する場合、パソコンの販売店などにご相談ください。また、LANボードと同じ機能を持つものにLANカードがあります。LANカードはPCカードスロットに取り付けます。

✓ チェック!!

PCI ボードは、ここで紹介しているものの他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。これらのPCIボード購入時には、必ずこのパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元で確認してください。

📖 参照

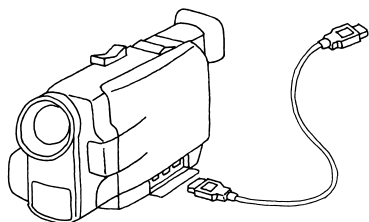
PCIボードの使い方 → 「PART7 PCIボードを使う」(p.65)

📖 参照

SCSI インターフェイスボードを使う → 「PART9 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.79)

LANモデルには、標準でLANボードが取り付けられています。

デジタルビデオカメラ



このパソコンにデジタルビデオカメラを接続すると、ビデオ映像をパソコンに取り込むことができます。

また、DV 端子 (IEEE1394 コネクタ) 付のデジタルビデオカメラなら、一本のケーブルで映像も音声も取り込むことができます。

デジタルビデオカメラの接続方法や使用方法については、「PART 5 IEEE1394 対応機器を使う」(p.49)および、デジタルビデオカメラに添付のマニュアルをご覧ください。

デジタルビデオカメラの映像は、このパソコンに添付されている VideoStudio で編集できます。また、このパソコンに添付されている SmartGallery/BusBrain を使うと、デジタルビデオカメラを手軽に操作できます。さらに、ビデオ登録君を使うと、パソコンに取り込んだ映像をインターネットに公開できます。ビデオ登録君を利用するには、BIGLOBE への申し込み等が必要です。詳しくは、PART13 の「インターネットで映像を楽しむ」(p.125)をご覧ください。

参照

- IEEE1394 について→「PART5 IEEE1394 対応機器を使う」(p.49)
- VideoStudioについて→「添付ソフトの使い方」VideoStudio」PART5 の「IEEE1394 対応機器をスマートに活用する」(p.53)
- SmartGallery/BusBrain について→「添付ソフトの使い方」SmartGallery/BusBrain」PART5 の「IEEE1394 対応機器をスマートに活用する」(p.53)

ビデオ登録君を使うには、添付のアプリケーション CD-ROM からインストールします。

参照

- ビデオ登録君のインストール→「サポートセンタ」-「アプリケーションの追加と削除」-「ビデオ登録君」
- ビデオ登録君について→PART13 の「インターネットで映像を楽しむ」(p.125)

P A R T

2

機器を取り付ける前に

メモリを増設したり、いろいろなボードや周辺機器を取り付けることで、より快適な使用環境を整えることができます。しかし、周辺機器の中には、接続してからさまざまな設定や準備が必要になるものがあります。

ここでは、これらの機器を取り付けるときに必要な準備と作業の方法について説明します。

接続から準備完了までの流れ

周辺機器を接続すると、パソコンの画面に見慣れない表示が出てきて、そのまま止まってしまったように思えることがあります。そんなときに「故障かな？」とあわてる必要はありません。はじめて新しい機器を接続したあとの流れは、次の3通りのパターンに分かれます。あらかじめ頭に入れておきましょう。

新しい周辺機器を接続すると

何か画面が表示されて、しばらくすると下の
ような画面が出て止まった



周辺機器に添付されているマニュアルを見ながら、周辺機器に添付のドライバなどをインストールする (p.25 参照)

ドライバは正しくインストールできましたか？

Yes

これで接続した周辺機器は使えます。

何か表示されたが
自動的に閉じた

何も表示されない

接続した周辺機器が正常に使えるかどうか
確認する

接続した機器は正常に使えますか？

Yes

No

ドライバのインストールのしかたは正しかったか、周辺機器のケーブルや、PCIボード、PCカードがしっかりと差し込まれているか確認して、もう一度取り付け直してください。

接続した機器は正常に使えますか？

Yes

No

プラグ＆プレイに対応していないか、このパソコンに対応していない(Windows Meへの未対応含む)か、故障の可能性があります。ご購入元または周辺機器のメーカーにお問い合わせください。

ドライバなどをインストールする

接続した周辺機器を使うためにはほとんどの場合、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。

ドライバは、周辺機器によって異なります。あらかじめパソコンに用意されているドライバが使える場合と、周辺機器に添付されているドライバが必要な場合があります。

・プラグ & プレイに対応している周辺機器の場合

下のような画面が表示されたら、まずは画面の指示にしたがって作業を進めます(**次へ>** をクリックしていただきます)。



・パソコンに用意されていたドライバが使える場合

下のような画面が表示された場合は、このパソコンにあらかじめ用意されていたドライバがインストールされました。そのまま **完了** をクリックしてください。



これでドライバのインストールは終了です。

用語

ドライバ

情報をパソコンから周辺機器へ適切に伝えるためのソフトウェアです。周辺機器を接続したとき、最初に一度だけ組み込み(インストール)します。

用語

プラグ & プレイ

パソコン本体に周辺機器をつなぐと自動的に種類を認識して必要な設定を行う機構。つなぐだけですぐに使えることから付いた呼び名です。

Windows を再起動する必要がある場合があります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

・周辺機器に添付のドライバが必要な場合

下のような画面が表示されるのは、周辺機器に添付のドライバが必要な場合です。この場合は周辺機器に添付のマニュアルをご覧になりドライバをインストールしてください。



● プラグ & プレイに対応していない周辺機器の場合

プラグ & プレイに対応していない周辺機器の場合、ドライバや、専用のアプリケーションのインストールは手動で行います。詳しくは周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

● 「デジタル署名が見つかりませんでした」というメッセージが表示された場合

Windows Meには、新しくドライバを追加した際のトラブルを防ぐため、追加しようとしているドライバがWindows Meで正しく動作するものかどうか、チェックする機能があります。正しく動作することがMicrosoftによって保証されているドライバには、Microsoftデジタル署名が付けられています。デジタル署名についてのメッセージが表示された場合は、周辺機器のメーカーにデジタル署名のついたドライバを入手できないか確認するか、Windows Update を実行してみてください。

● ドライバをインストールするときの注意

ドライバのインストール後、Windowsを再起動する必要があるものがあります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

● ドライバのアップデートについて

周辺機器のドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることがあります。「ドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、ドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」(<http://121ware.com>)や各周辺機器のメーカーのホームページを時々チェックし、必要に応じてドライバをアップデートしてください。

周辺機器によっては専用のアプリケーションをインストールする必要があることがあります。詳しくは、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

周辺機器に添付のドライバをインストールするときは、ドライバがWindows Meに対応しているかどうか確認してください。Windows Meに対応していないドライバをインストールすると、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

Windowsを再起動する必要があることがあります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

周辺機器によっては、フロッピーディスクでドライバが添付されていることがあります。その場合は、外付けのUSB対応フロッピーディスクユニットを使うか、ホームページ上からドライバを入手できないか周辺機器のメーカーにお問い合わせください。

周辺機器の取り外しと再接続

プリンタや外付けのフロッピーディスクユニットなどの USB 対応機器、デジタルビデオカメラなどの IEEE1394 対応機器、メモリカードなどの PC カードは、パソコンの電源を入れたまま、取り付け、取り外しができます。

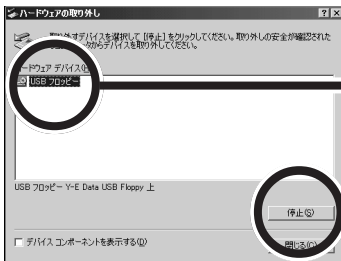
ただし、タスクトレイに  が表示されている周辺機器は、正しい手順で取り外しを行わないと、このパソコンが正常に動作しなくなることがあります。取り外しを行うときは、必ず次の手順で取り外しを行ってください。

1

タスクトレイの  をダブルクリック



「ハードウェアの取り外し」ウィンドウが表示されます。

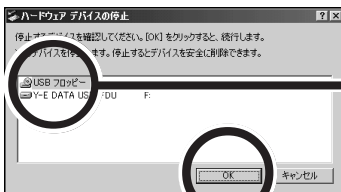


2

「ハードウェアデバイス」の一覧から取り外す周辺機器を選んで

3

「停止」をクリック



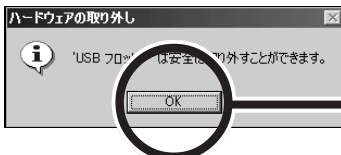
4

取り外す周辺機器が選択されていることを確認し、

5

「OK」をクリック

「*** は安全に取り外すことができます。」と表示されます。



6

「OK」をクリック

これで周辺機器は取り外せます。

同じ周辺機器を再接続したときは、ドライバなどをインストールする必要はありません。ただし、画面が少しのあいだ止まったり、何かウィンドウが表示されたりすることがあります。ウィンドウが表示されたら、ウィンドウの指示にしたがってください。これは機器の故障ではありません。しばらく待てば使えるようになります。

✓チェック!!

外付けのフロッピーディスクユニットを取り外す際も、この手順にしたがってください。

📖参照

- ・USB 対応機器の取り外し → PART3 の「USB 対応機器を取り外すときの注意」(p.42)
- ・IEEE1394 対応機器の取り外し → PART5 の「IEEE1394 対応機器を取り外すときの注意」(p.52)
- ・PC カードの取り外し → PART6 の「PC カードを取り出す」(p.61)

機器を取り付けるとき のご注意

本体を開けて、機器を取り付けるときには、次の点にご注意ください。

⚠ 警告



感電注意

雷が鳴り出したら、パソコンやアンテナ線、電源ケーブル、ディスプレイのケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル(電話線)、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠ 注意



けが注意

本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶついたり、切ったりしないように注意してください。



感電注意

濡れた手で触らないでください。

電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているとき、濡れた手で本体に触れると感電の原因となります。



感電注意

電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているときは、本体のカバー類を外さないでください。感電の原因となります。



感電注意

周辺機器の取り付けや取り外しをするときは、必ず電源ケーブル、ACアダプタのプラグを、



コンセントから抜いてください。パソコンや周辺機器の故障や感電の原因となります。



高温注意

このパソコンの使用直後は、CPU や CPU の周辺に触れないでください。

CPU が高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。



発火注意

電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

ケーブルを引っ張って抜くと、断線して火災の原因となります。



感電注意



発火注意

本体を解体した状態で使用しないでください。感電や火災の原因となります。

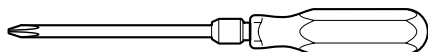
本体の開け方と閉め方

メモリを増設したり、いろいろなボードをパソコンに組み込むときには、本体のルーフカバー（本体上面をおおっているカバー）を外す作業が必要となります。ここでは、その作業について説明します。作業はあせらず、ゆっくりと行ってください。

用意するもの

- プラス（+）ドライバー

ネジ山に合った先端の
ものを使って
ください

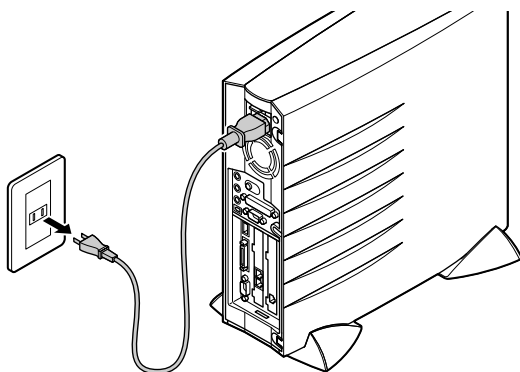


ネジの取り外し、取り付けの際に、本体内部にネジを落とす可能性があるため、なるべくドライバーの先端が磁石になったものをおすすめします。

ルーフカバーの外し方

- 1 本体と、プリンタなどの周辺機器の電源を切る

- 2 本体の電源ケーブルをコンセントから抜く



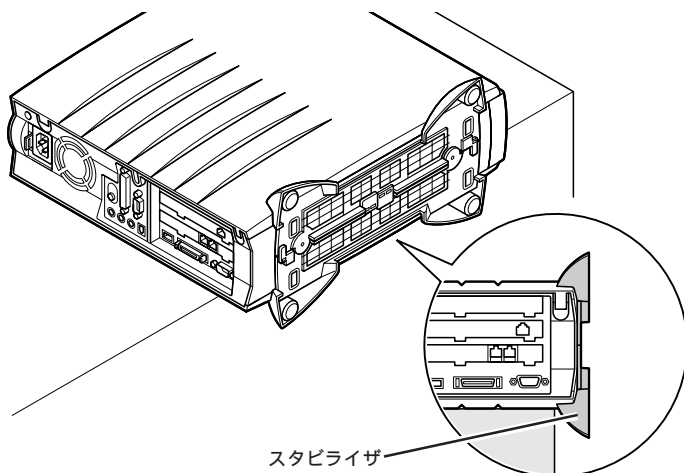
- 3 本体に接続されているケーブルをすべて取り外す

✓チェック!!

ここで取り外したケーブルは、メモリやボードなどの増設が終わり、ルーフカバーを取り付けたあとで、もとどおりに接続することになります。外す前に、どのコネクタにどのケーブルが接続されているのかを確認しておきましょう。

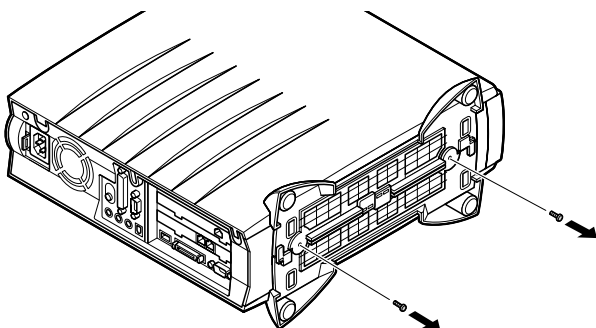
4

本体の左側面（正面から見て左側）を上に向けて静かに横に倒し、底面のスタビライザがはみ出るように机の端などに置く



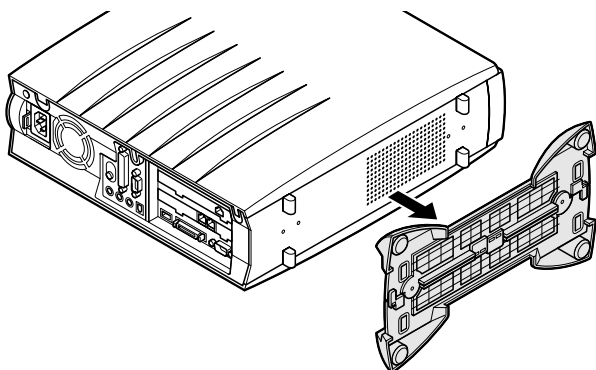
5

用意したドライバーで本体底面のネジを 2 本外す



6

スタビライザを取り外す



本体を横に倒すときは、本体を安定させるためや机やテーブルなどを傷つけたりしないために、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

✓チェック!!

スタビライザを外したときに本体が衝撃を受けないように、ちょうどスタビライザの高さの分だけ、本体が机の端などからはみ出るように置いて安定させます。

✓チェック!!

外したネジをなくさないように、大切に保管してください。

✓チェック!!

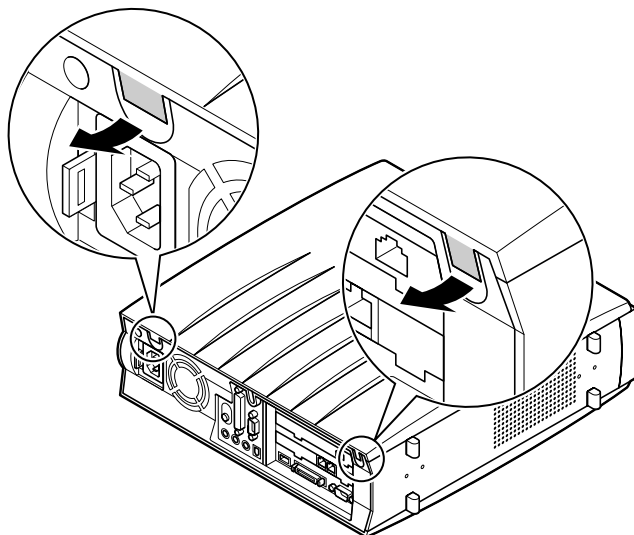
スタビライザを落下させないように、スタビライザを手にとって取り外してください。

7

ダミーカードを取り出す

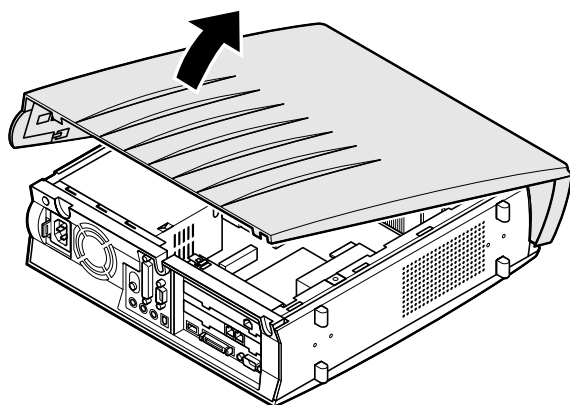
8

下の図のように本体背面のフックを外す



9

フックの部分を持ったまま矢印の方向にルーファカバーを持ち上げる



10

そのままゆっくりルーファカバーが垂直になるまで持ち上げて、正面下側のツメに注意して取り外す

☞ 参照

ダミーカードの取り出し方→PART6
の「PC カードの入れ方と出し方」
(p.57)

☑ チェック!!

- ・フックを外すときは、指をはさんだり、切ったりしないよう注意してください。
- ・本体背面のフックを強くひっぱらないようにしてください。フックが破損することがあります。

☑ チェック!!

ルーファカバーを取り外す際、PCカードスロットのイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。また、フロントマスクのシャッター部分に触れないように注意してください。

☑ チェック!!

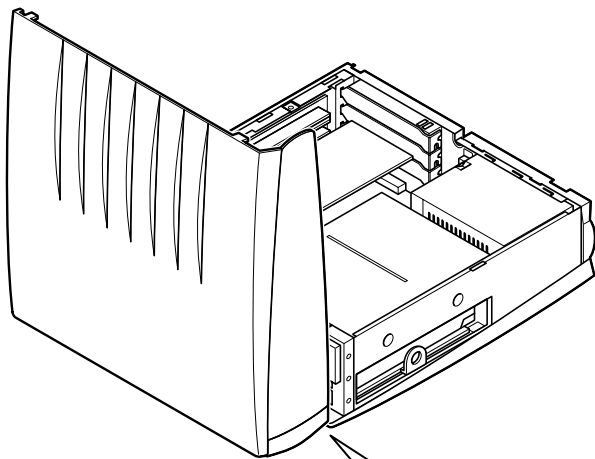
ルーファカバーを取り外す際は、ゆっくりと外してください。勢いよく外すとカバーやツメが破損することがあります。

ルーフカバーの取り付け方

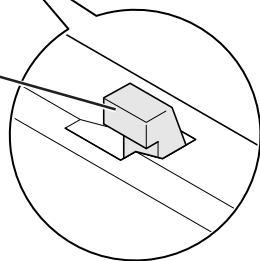
機器の取り付けが終わって、ルーフカバーをもとどおりに取り付けるときは、外すときと逆の順番で作業を進めてください。

1

ルーフカバーを垂直状態にして、本体側のツメにカバー正面裏側の穴をはめ込む

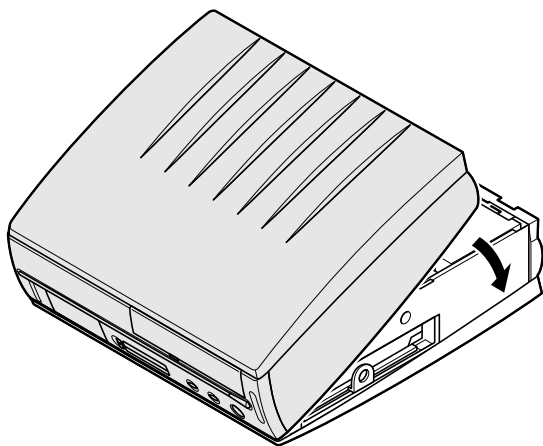


本体側のツメ(3カ所)にカバー正面裏側の穴をはめ込む



2

ルーフカバーをゆっくりと下げる

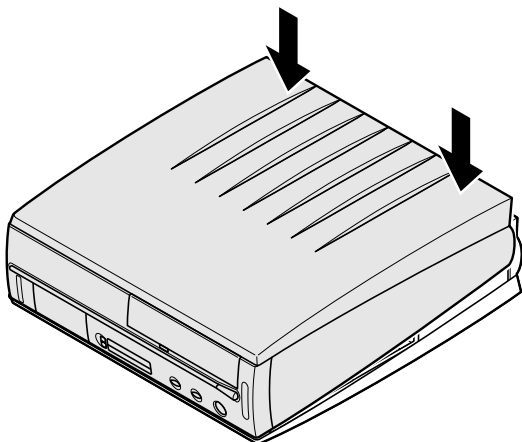


✓チェック!!

- ・このとき、内部のケーブルや部品を引っ掛けたり、はさんだりしないように気をつけてください。
- ・ルーフカバーを取り付ける際、PCカードスロットのイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。また、フロントマスクのシャッター部分に触れないように注意してください。
- ・ルーフカバーを取り付ける際は、ゆっくりと取り付けてください。勢いよく取り付けるとカバーやツメが破損することがあります。

3

上から軽く押して本体背面のフックをはめ込む



4

「ルーフカバーの外し方」の手順4～6(p.30)で取り外したスタビライザをもとどおりに取り付ける

5

ダミーカードを取り付ける

6

「ルーフカバーの外し方」の手順3(p.29)で取り外したケーブルをもとどおりに取り付ける

参照

スタビライザの取り付けについて→
『はじめにお読みください』PART2
の「パソコン本体にスタビライザを
取り付ける」

参照

ダミーカードの取り付け方→PART6
の「PCカードを取り出す」(p.61)

参照

ケーブルの接続→『はじめにお読み
ください』

P A R T

3

USB 対応機器を使う

USB コネクタには、いろいろな周辺機器を接続して利用することができます。ここでは、USB 対応機器の使い方について説明します。

ユーエスビー

USB とは

USB は、パソコン用インターフェイスの新しい規格です。まずは、このパソコンで USB 対応機器を使うための基礎知識を知っておきましょう。

USBは、Universal Serial Bus(ユニバーサル シリアル バス)の頭文字をとったものです。



インターフェイス

パソコンと周辺機器を接続するコネクタなど、機器を接続するときに必要な共有される部分のことです。

USB なら簡単接続

USB 対応機器は、電源を入れた状態のままで接続します。

本体とディスプレイの電源を入れて
Windows を起動する(→ p.38)



必要に応じて USB 対応機器側の
設定を行う

USB対応機器のマニュアルで確認してください。



USB コネクタにプラグを差し込む(→ p.39)

パソコンのUSBコネクタにプラグを差し込むと、自動的に設定が始まります。



正しく接続できたか確認する(→ p.42)

確認のしかたは、機器によって異なります。



設定が終わったら準備完了。
すぐに使い始めることができます。

USB対応機器は、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできるようになっています。ふだんは取り外しておいて、必要になったときだけ接続し、使い終わったら、また取り外す、というような使い方ができます。



USB対応機器を使用するときの注意
→このPARTの「USB対応機器を使用するときの注意」(p.44)

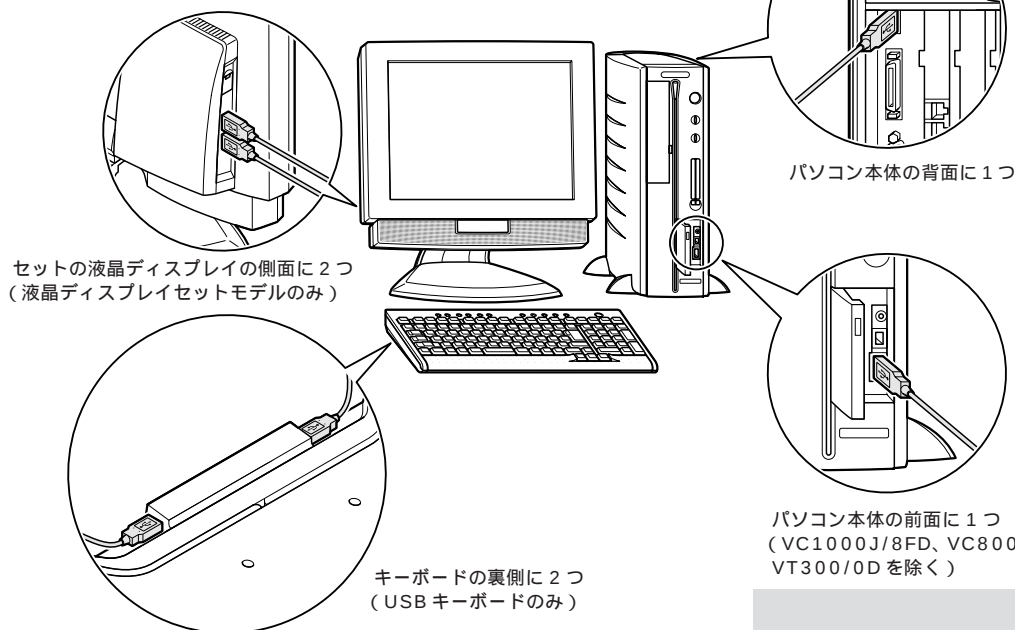
プリンタなど、電源スイッチのある周辺機器を利用する場合、あらかじめ周辺機器の電源を入れてから接続してください。

機器によっては、ドライバの設定作業が必要になることがあります。また、プラグを差し込む前にドライバをインストールする必要がある機器もあります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

機器によっては、この後、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

USB コネクタについて

このパソコンには、本体の前面に 1 つ (VC1000J/8FD、VC800H/8FD1、VT300/0D を除く)、本体の背面に 1 つ、USB コネクタが用意されています。また、セットの液晶ディスプレイの側面に 2 つ (液晶ディスプレイセットモデルのみ) の USB コネクタが用意されています。接続する機器に応じて、どのコネクタを使用しても構いません。もちろん、すべてのコネクタに別々の USB 対応機器を接続して、たくさんの機器を同時に使用することもできます。



USB キーボードの場合は、キーボードの裏側にも 2 つの USB コネクタが用意されています。ここにも USB 対応機器を接続できますが、機器によっては接続できない場合があるので、注意が必要です。

標準で用意されている USB コネクタの数

	USB コネクタの数	実際に利用できるコネクタの数
VC1000J/8FD VC800H/8FD1	3 個	3 個
VT770/0D VT750/0D VT700/0D VT550/0D VT500/0D	4 個	4 個
VT300/0D	3 個	0 個 (1) / 1 個 (2)

- 通常、USB コネクタには添付のキーボードやマウス、リモコン用受信ユニットが接続されているので、空いているコネクタはありません。
- 本体背面の液晶ディスプレイ専用コネクタに添付の「USB 増設ケーブル」を取り付けて、USB コネクタを 1 つ増やすことができます。

なお、標準で用意されている USB コネクタだけで足りないときは、別売の「USB ハブ」を接続して、コネクタの数を増やすことができます。

チェック!!

モデルにより、本体、ディスプレイの形状は異なります。

参照

各 USB コネクタへの差し込み方 → この PART の「USB コネクタにプラグを差し込む」(p.39)

チェック!!

キーボード裏側の USB コネクタには、「ハイパワーデバイス」は接続できません。

参照

ハイパワーデバイス → この PART の「ハイパワーデバイスについて」(p.43)

参照

USB ハブについて → この PART の「USB ハブを使う」(p.44)

USB 対応機器を接続する

パソコンの電源を入れたままの状態ではUSB対応機器を接続すると、自動的に設定が始まります。設定が終わったら、すぐに使い始めることができます。

警告



雷が鳴り出したら、パソコンやアンテナ線、電源ケーブル、ディスプレイのケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル(電話線)、USB ケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。落雷による感電のおそれがあります。

接続する前に

USB 対応機器を接続する前に、次の準備が必要です。

●このパソコンで動作するか確認する

USB対応機器の、このパソコンでの動作確認情報について詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧になるか、機器のメーカーまたはご購入元などにお問い合わせください。なお、NEC 製の USB 対応機器については、NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」(<http://121ware.com>)を参考にしてください。

●接続する USB 対応機器のマニュアルを読む

あらかじめ、機器に添付のマニュアルをよく読んでおきます。機器によっては、接続する前にドライバのインストールや、各種設定スイッチ等の設定が必要な場合があるので、マニュアルにしたがって設定します。接続後に設定が必要になることがあるので、CD-ROMやフロッピーディスクが添付されている場合は、用意しておきます。フロッピーディスクでドライバが添付されている場合は、外付けのUSB対応フロッピーディスクユニットを使うか、ホームページ上からドライバを入手できないか、USB 対応機器のメーカーにお問い合わせください。

●パソコンの電源を入れておく

USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態では接続できます。あらかじめパソコンの電源を入れて、Windowsが使えるようにしておきましょう。

参照

USB対応機器を使用するときの注意
→このPARTの「USB対応機器を使用するときの注意」(p.44)

チェック!

- ・ USB 対応機器によっては、このパソコンにあらかじめドライバが用意されているものがあります。
- ・ USB 対応機器に、Windows 95 や Windows 98 対応のドライバしか添付されていないこともあります。その場合、USB 対応機器をこのパソコンで使うために専用のドライバが別に必要となることがあります。詳しくは、機器に添付のマニュアルや、機器のメーカーまたはご購入元などにお問い合わせください。
- ・ USB キーボード裏側の USB コネクタに接続するときには、USB 機器のマニュアルを読んで、その機器が「ハイパワーデバイス」なのかどうか調べておいてください。「ハイパワーデバイス」は、キーボードの USB コネクタには接続できません。

参照

ハイパワーデバイス→このPARTの「ハイパワーデバイスについて」(p.43)

USB コネクタにプラグを差し込む

1

パソコン本体の前面、背面、液晶ディスプレイの USB コネクタに、プラグを差し込む

プラグを差し込むときの向きは、どこの USB コネクタを使うかによって異なります。次の説明を参照して、正しく差し込んでください。



プラグを差し込んでそのまま待っていると、自動的に画面の表示が切り替わり、Windows デスクトップの画面に戻る



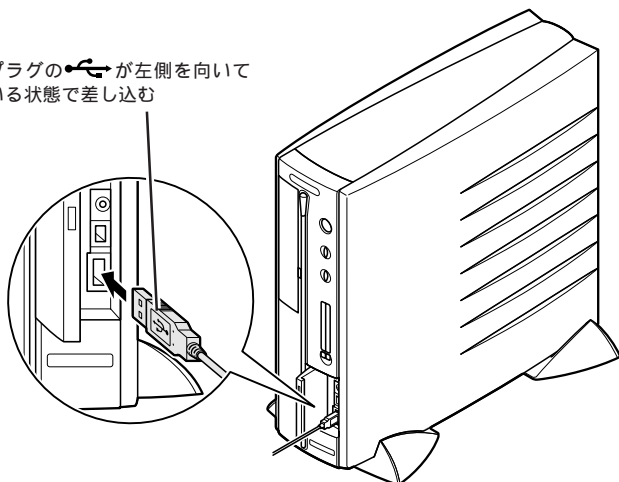
取り付けた機器によっては、タスクトレイに  が追加される

● 本体前面の USB コネクタを使う

(VC1000J/8FD、VC800H/8FD1、VT300/0D を除く)

本体前面の USB コネクタを使う場合は、プラグの  マークを左に向けてコネクタに差し込みます。

プラグの  が左側を向いている状態で差し込む



✓ チェック!!

USB キーボードを使用している場合は、USB キーボードをパソコン本体から外した状態で USB 対応機器を接続しないでください。

Windows デスクトップの画面に戻らずに次のような画面が表示された場合は、PART2 の「ドライバなどをインストールする」(p.25) をご覧ください。

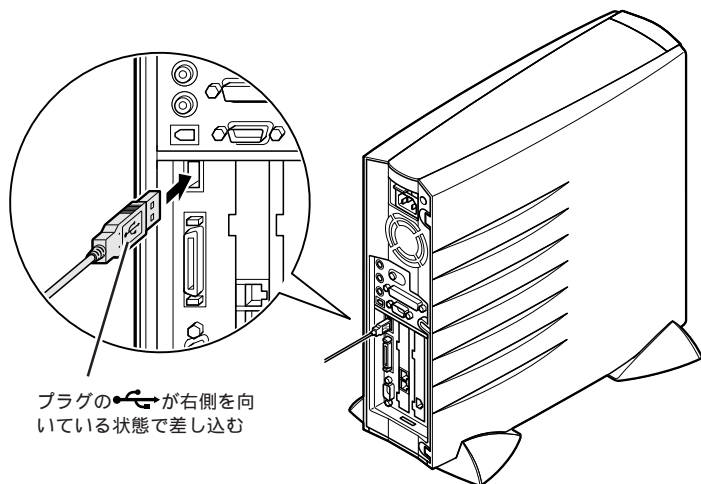


✓ チェック!!

VC1000J/8FD、VC800H/8FD1、VT300/0D には、本体前面に USB コネクタはありません。

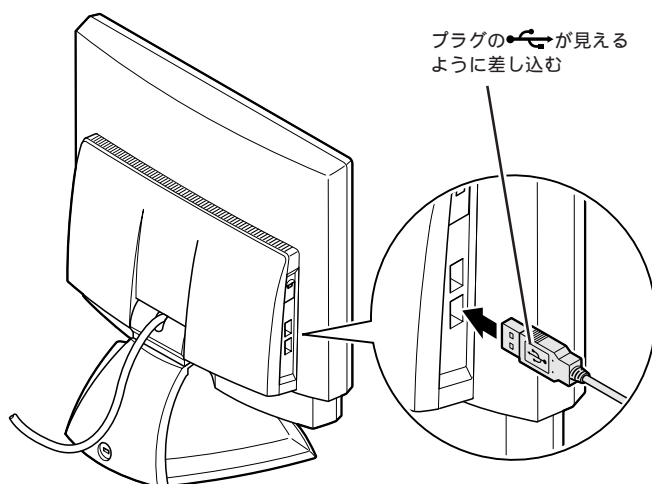
● 本体背面の USB コネクタを使う

本体背面のUSBコネクタを使う場合は、プラグのマークを右に向けてコネクタに差し込みます。



● 液晶ディスプレイ側面の USB コネクタを使う(液晶ディスプレイセットモデルのみ)

液晶ディスプレイのUSBコネクタを使う場合は、プラグのマークが見えるようにコネクタに差し込みます。



15型液晶ディスプレイ

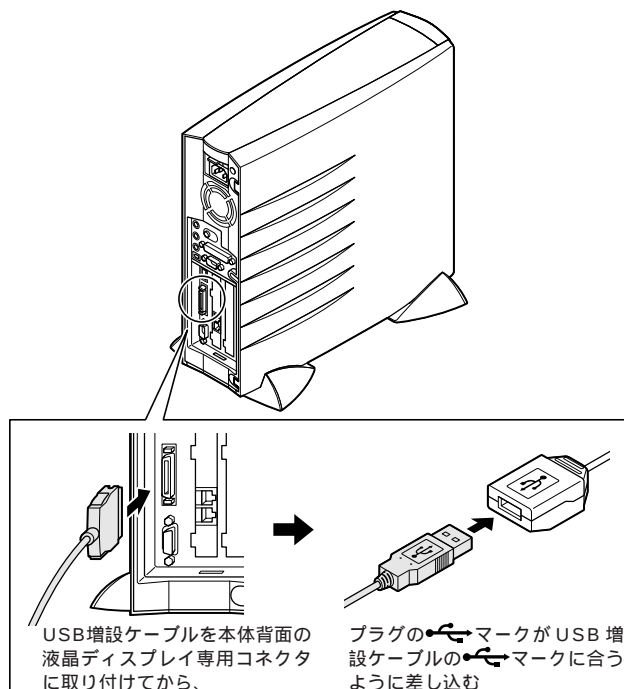
USB コネクタは2つ並んでいます。どちらのコネクタに差し込んで構いません。また、両方のコネクタにUSB対応機器を接続した状態で使用することもできます。

液晶ディスプレイの種類によってコネクタの位置は異なります。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

● 添付の USB 増設ケーブルを使う (VT300/0D のみ)

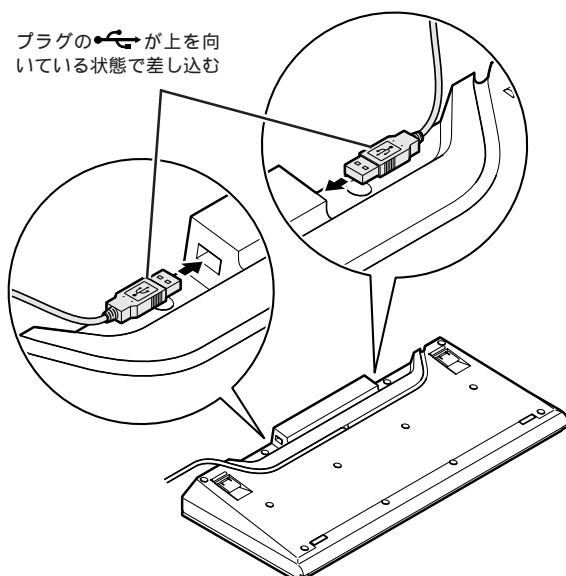
本体背面の液晶ディスプレイ専用コネクタに、添付の USB 増設ケーブルを取り付けて、USB コネクタを 1 つ増やすことができます。

添付の USB 増設ケーブルの USB コネクタを使う場合は、プラグの  マークが USB 増設ケーブルの  マークに合うように差し込みます。



● キーボード裏側の USB コネクタを使う (USB キーボードのみ)

USB キーボード裏側の USB コネクタを使う場合は、プラグの  マークを上に向けてコネクタに差し込みます。



USB キーボードが添付されているモデルの場合、USB コネクタには、通常、添付の USB キーボードやマウス、リモコン用受信ユニットが接続されています。

✓ チェック!!

キーボード裏側の USB コネクタには、「ハイパワーデバイス」を接続できません。ハイパワーデバイスの USB 対応機器は、別の USB コネクタに接続してください。

📖 参照

ハイパワーデバイス → この PART の「ハイパワーデバイスについて」(p.43)

正しく接続できたかどうか確認する

接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されるかどうかを確認します。確認する方法は、機器の種類によって異なります。また、機器によって下記の方法では確認できない場合もあります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

● USB 対応プリンタ

「コントロールパネル」の「プリンタ」をダブルクリックし、接続したプリンタ名が表示されることを確認します。

● その他の USB 対応機器

接続を確認する方法は、機器のマニュアルをご覧ください。
一般に、「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」を表示して、接続した USB 対応機器が登録されていれば、正しく接続されています。

コントロールパネルの画面



「プリンタ」

「システム」

USB 対応機器を取り外すときの注意

外付けのフロッピーディスクユニットなど、USB対応機器によっては、機器を接続するとデスクトップ右下のタスクトレイにが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアデバイスの停止」ウィンドウから行ってください。正しく取り外しが行われないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。PART2の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.27)をご覧ください。正しい手順で取り外しを行ってください。

機器によっては、続けて別の設定作業が必要になります。USB対応機器に添付のマニュアルなどで確認してください。

✓チェック!!

コントロールパネルに「システム」が表示されていないときは、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

📖参照

デバイスマネージャについて → PART11の「デバイスのリソース設定の変更」(p.104)

✓チェック!!

外付けのフロッピーディスクユニットを取り外す際も、この方法で行ってください。

USB 対応機器をお使いになる上で

ここでは、USB 対応機器をお使いになる上でのポイントや注意してほしいことを説明します。

ハイパワーデバイスについて

USB 対応機器は、その機器が動作するために必要な電流の取り方によって、次の 3 つのタイプに分かれます。

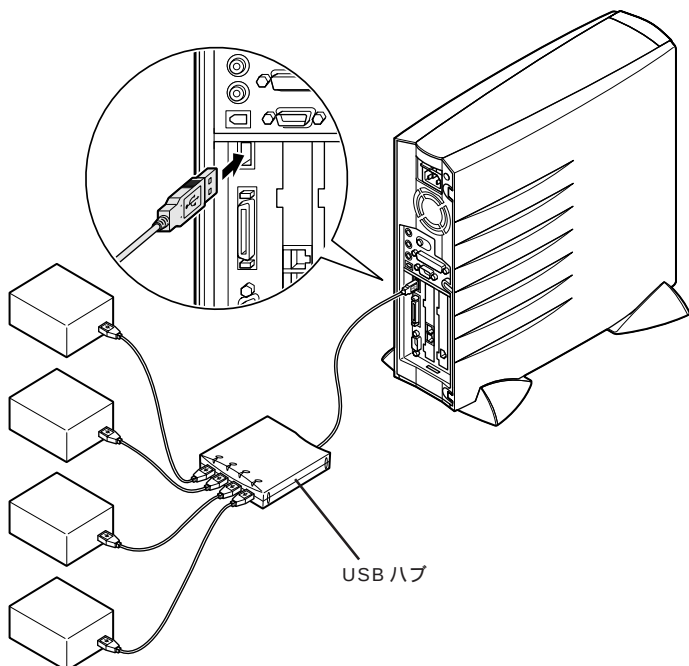
- ・セルフパワーデバイス
独自に電源を持っている機器です。USB コネクタからは 100mA 以下の電流を消費します。
- ・ローパワーデバイス
自分では電源を持たない機器です。必要な電流を USB コネクタから消費して動作しますが、消費するのは 100mA 以下と比較的少量です。
- ・ハイパワーデバイス
ローパワーデバイスと同様、自分では電源を持たない機器です。必要な電流を USB コネクタから消費して動作しますが、比較的大きな電流(最大 500mA)を消費します。

USB キーボードが添付されているモデルの場合、キーボード(USB バスパスワードハブ付きキーボード)の裏側にある USB コネクタに接続できるのは、このうち「セルフパワーデバイス」と「ローパワーデバイス」のみです。「ハイパワーデバイス」はパソコン本体か、USB セルフパワーバスに接続してください。

ハイパワーデバイスの例としては、主にフルカラーモバイルスキャナやフルカラーイメージスキャナ、デジタルビデオカメラなどがあります。詳しくは、周辺機器に添付のマニュアルなどで確認してください。

USB ハブを使う

別売の USB ハブ(PK-UP002 など)を使えば、1 つの USB コネクタを複数の USB コネクタに分岐して増やすことができます。この USB ハブを何台も使えば、規格上 127 台(パソコン 1 台あたり: USB ハブの数も含む)までの周辺機器を接続することができます。



✓チェック!!

USB ハブにキーボードや USB 対応機器を接続する場合、本体に先に USB ハブを接続してから接続してください。USB キーボードを別売の USB ハブに接続するときは、次の手順で接続してください。

1. 本体の USB コネクタにキーボードを接続する
2. 本体の空いている USB コネクタに USB ハブを接続して認識させる
3. USB ハブにキーボードを接続する

PK-UP002 の場合、4 つの USB 対応機器を接続することができます。

USB ハブの詳しい使い方については、USB ハブのマニュアルをご覧ください。

USB ハブには、CRT ディスプレイの下に置くことのできるタイプ(PK-UP003)もあります。

✓チェック!!

複数の USB 機器を同時に使うと、機器によっては処理速度が低下することがあります。

USB 対応機器を使用するときの注意

- ・ USB コネクタの抜き差しを行うときは、3 秒以上間隔をおいて行ってください。
- ・ USB デバイスが正常に認識されていない場合は、いったん USB コネクタを抜いて、もう一度差し込んでください。
- ・ 休止状態(またはスタンバイ状態)のときや休止状態(またはスタンバイ状態)に移行中、復帰中には、USB コネクタの抜き差しを行わないでください。
- ・ USB キーボードに USB 対応機器を接続するときは、必ず本体にキーボードが接続された状態で行ってください。
- ・ USB ハブ経由で USB 対応機器を使用するときは、USB ハブをこのパソコンに接続してから、USB ハブに USB 対応機器を接続して使用してください。USB ハブに USB デバイスを接続したまま、USB ハブをこのパソコンに接続すると、正常に USB 対応機器を認識できないことがあります。
- ・ USB の I/O リソースの変更を行った場合は、システムの再起動を行ってください。
- ・ デバイスマネージャで USB ホストコントローラ(HC)を削除または、「使用不可」にするとキーボードが使用できません。USB HC の削除、「使用不可」は絶対に行わないでください。

P A R T

4

LAN ボードを使う(LAN モデルのみ)

LAN(ローカルエリアネットワーク)は、同じ建物の中など比較的近距離で、複数のコンピュータを接続したネットワークのことです。LANでコンピュータ同士を接続すれば、データの移動、ファイルやプリンタの共有などが簡単にできるようになります。

LAN に接続する

LANモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することにより、コンピュータ同士でデータを共有したり、メッセージを送受信したりできます。

接続前の確認

LANモデルでは、100BASE-TXまたは10BASE-Tに対応したLANに接続できます。このパソコンをネットワークに接続するには、別売のハブ(マルチポートリピータ)と、別売の専用ケーブル(リンクケーブル)が必要です。

✓チェック!!

100BASE-TXでLANに接続するには、カテゴリ5のリンクケーブルが必要です。

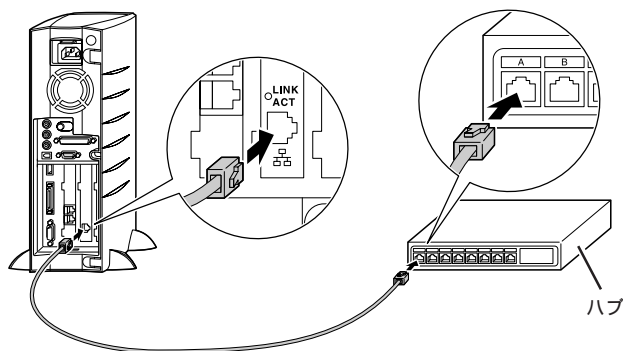
📖参照

- ・ LANボードの各部の名称について→付録の「本体の各部の名称」(p.141)
- ・ LANボード機能仕様について→付録の「LANボード機能仕様(LANモデルのみ)」(p.159)

リンクケーブル(別売)を接続する

LANに接続するときは、リンクケーブル(別売)を使い、次の手順で接続します。

- 1 リンクケーブルのコネクタを本体背面の100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ(品)に接続する
- 2 ハブ(マルチポートリピータ)に、リンクケーブルのもう一方のコネクタを接続する



✓チェック!!

LANモデルに搭載されているLANボードは、接続先の機器との通信速度(100Mbps/10Mbps)を自動検出して最適な通信モードで接続する「オートネゴシエーション機能」をサポートしています。セットアップが完了したときには、オートネゴシエーション機能は有効に設定されています。

接続先の機器がオートネゴシエーション機能をサポートしていない場合は、「ネットワークのプロパティ」で通信モードを接続先の機器に合わせるか、接続先の機器の通信モードを半二重(HalfDuplex)に設定してください。

LAN の設定

ここでは、LANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。必要な構成要素の詳細については、Windows Meのヘルプをご覧ください。

ネットワークのセットアップ(設定)

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
「ネットワーク」アイコンが表示されていない場合は、「コントロールパネル」ウィンドウの左にある「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。
- 3 「ネットワークの設定」タブの「追加」をクリック
- 4 必要な機能を追加する

ネットワーク上で自分のコンピュータを認識させる

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
- 3 「ネットワークの設定」タブの「追加」をクリック
- 4 共有サービスを追加する
- 5 「識別情報」タブをクリック
- 6 「コンピュータ名」、「ワークグループ」、「コンピュータの説明」に、必要な情報を入力する
- 7 「OK」をクリック

LAN に関するトラブル

- ネットワークコンピュータに「ネットワーク全体」のアイコンしか表示されない

ネットワークに正常に接続されていないか、ネットワークの設定が正しくありません。接続の方法やネットワークの設定を確認してください。

- ネットワークコンピュータに自分のコンピュータしか表示されない

接続しようとしているドメインまたはワークグループが正しいかどうかを確認してください。設定されているドメインまたはワークグループは、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックし、「ネットワーク」をダブルクリックして調べることができます。ネットワークコンピュータに表示されるまでには時間がかかることがあります。この場合は、しばらく待ってから「表示」メニューの「最新の情報に更新」をクリックしてください。

- 共有ファイルやフォルダが使えない

ネットワークで、このパソコンと他のコンピュータとでファイルを共有するためには、設定が必要になります。

- ・このパソコンが共有を行う設定になっていない

共有ドライブ、フォルダを設定してください。ネットワークに接続された他のコンピュータからこのパソコンを利用するには、「共有する」の設定が必要です。「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックし、「ネットワーク」をダブルクリックして、共有サービスが追加されているかを確認します。追加されていない場合は追加してください。

- ・共有ドライブやフォルダにアクセス権が設定されている

共有ドライブやフォルダは、その所有者がアクセス権を設定します。アクセス権が設定されている場合、まったく利用できないか、読み取りのみ可能な設定、読み取りも書き込みも可能な設定と、いくつかのパターンが設定できます。必要に応じて設定してください。

P A R T

5

IEEE1394 対応機器を使う

このパソコンにはIEEE1394 コネクタがあります。IEEE1394 コネクタは、一本のケーブルでパソコンとIEEE1394 対応機器の間を、高速でデータのやりとりをすることができます。デジタルビデオカメラなどで撮った動画をパソコンに取り込むときに便利です。

アイトリプリーイチサンキュウヨン

IEEE1394 について

このパソコンには、IEEE1394のコネクタがあります。
はじめに、IEEE1394 というインターフェイスについて、少し勉強しておきましょう。

IEEE1394って何？

IEEE1394は、パソコンと周辺機器の間で、データを高速にやりとりするための新しい規格です。

転送速度が速いので、動画などのデータもスムーズにパソコンに転送することができ、接続方法も簡単です。パソコンの電源をそのつど切る必要がなく、電源を入れたままで周辺機器の取り付け、取り外しができます。さらに、プラグ&プレイに対応しているので、パソコンと機器の間の細かい設定は自動的に行われます。

このインターフェイスは、コンピュータの世界ばかりでなく、さまざまな機器に応用されることが期待されています。将来的には、パソコンとデジタルビデオカメラ、ビデオデッキ、プリンタ、MIDI機器、ハードディスクなどを、一種類のケーブルでつなぐことができるようになります。そうなれば、映像や音声もすべて一本のケーブルでデジタルに転送されます。

用語

IEEE(アイトリプリー)
米国電気電子技術者協会のことを言います。エレクトロニクス分野では世界最大規模の学会で、電子分野の規格化に大きな影響力をもっています。IEEE1394は、IEEEで標準化されたインターフェイスの規格です。

用語

プラグ&プレイ
パソコン本体に周辺機器をつなぐと自動的に種類を認識して必要な設定を行う機構。
つなぐ(プラグ)だけですぐに使える(プレイ)ことから付いた呼び名です。

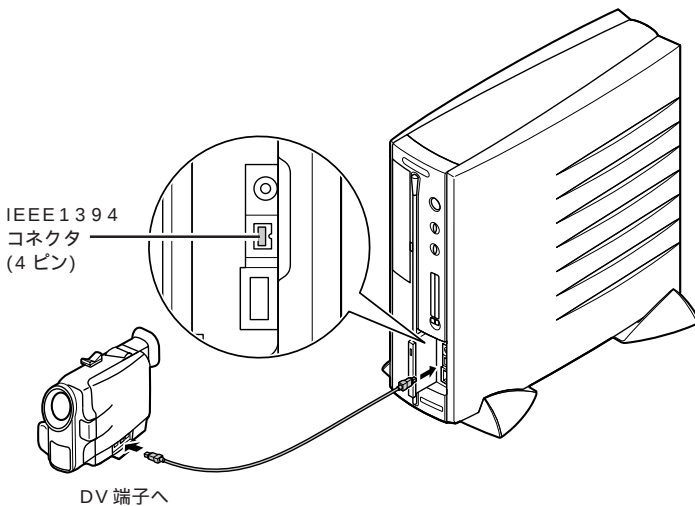
IEEE1394 対応機器 を接続する

ここでは、例としてデジタルビデオカメラをIEEE1394コネクタに接続する方法を説明しています。

デジタルビデオカメラの接続は、IEEE1394 ケーブルを使ってパソコンのIEEE1394 コネクタとデジタルビデオカメラのIEEE1394 コネクタ (DV 端子) を接続するだけです。

● デジタルビデオカメラを接続する

IEEE1394ケーブルでこのパソコンとデジタルビデオカメラを接続します。このパソコンの本体前面には、IEEE1394 コネクタ (4 ピン) があります。



IEEE1394コネクタに接続できる周辺機器には、ほかに外付け用ハードディスク、MO ディスクドライブなどがあります。

デジタルビデオカメラによっては、IEEE1394に対応した端子のことをDV 端子と呼びます。

✓チェック!!

- ・ DV端子 (4 ピン) とこのパソコンのIEEE1394 コネクタ (6 ピンまたは4 ピン) を接続するには、別売のIEEE1394 ケーブルが必要です。DV 端子 (4 ピン) と本体背面のIEEE1394 コネクタ (6 ピン) の接続には、別売のIEEE1394 ケーブル (PK-CA109) が使えます。
- ・ 接続の際にはプラグの向きやコネクタのピン数をよく確認してください。また、接続の際には周辺機器に添付のマニュアルもご覧ください。

IEEE1394 コネクタは、入力用、出力用といった2種類のコネクタにはなっていません。デジタル信号の流れによって自動的に入出力が切り替わります。

次のホームページで、このパソコンで使える周辺機器を紹介していますので、参考してください。

NEC のパソコン関連総合サイト「121ware.com」のアドレス (URL)

<http://121ware.com>

● IEEE1394 接続ケーブルを接続する

IEEE1394 接続ケーブルでパソコン同士を接続すると、パソコン間でプリンタやファイルを共有したり、データの移動が高速にできます。接続にはホームネットワークの設定が必要です。ホームネットワークの設定をするには、「ホーム ネットワーク ウィザード」を使います。「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ホーム ネットワーク ウィザード」をクリックして、表示された画面にしたがって設定を行ってください。

IEEE1394 対応機器を取り外すときの注意

IEEE1394 対応機器によっては、機器を接続するとデスクトップ右下のタスクトレイにが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアデバイスの停止」ウィンドウから行ってください。正しく取り外しが行われないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。PART2の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.27)をご覧ください、正しい手順で取り外しを行ってください。

チェック!!

このパソコンには、本体正面にIEEE1394コネクタ(4ピン)、本体背面にIEEE1394コネクタ(6ピン)があります。接続先のコネクタ形状に合わせたケーブルを使用してください。

IEEE1394 対応機器 をスマートに活用する

このパソコンでは、デジタルビデオカメラの映像をパソコンで編集したり、デジタルビデオ機器を管理したりできます。

映像を取り込んで編集する

デジタルビデオカメラの映像は、「VideoStudio」を使って取り込み、編集ができます。VideoStudioには、Video Wizardというウィザード形式で映像を取り込めるアプリケーションもあります。Video Wizardは、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Ulead VideoStudio 4.0 SE Basic」→「Ulead Video Wizard」をクリックして起動できます。



基本的にはこのボタンの順に沿って作業する

作業に必要な情報はここに表示される

デジタルビデオ機器を簡易操作する

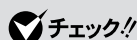
このパソコンに添付されているSmartGallery/BusBrainを使うと、次のようなことができます。

- ・デジタルビデオカメラなどで録画した映像やビデオ映像を、パソコンの画面で見ることができ、デジタルビデオカメラなどの簡易操作ができます。
- ・SmartGallery/BusBrainを使っているパソコンとIEEE1394機器が複数接続されているとき、どのパソコンがどの機器を使用しているかが分かります。また、自分が使用している機器を他のパソコンから操作されないように、機器の制御権(コネクション)を設定できます。
- ・デジタルビデオカメラ同士で映像をダビングする際に、再生と録画を同期させてダビングできます。



参照

VideoStudioの詳しい使い方→「添付ソフトの使い方」-「VideoStudio」



チェック!!

SmartGallery/BusBrainを使うには、添付のアプリケーションCD-ROMからインストールします。



参照

- ・SmartGallery/BusBrainのインストール方法→「サポートセンタ」-「アプリケーションの追加と削除」-「SmartGallery/BusBrain」
- ・SmartGallery/BusBrainの詳しい使いかた→「添付ソフトの使い方」-「SmartGallery/BusBrain」SmartGallery/BusBrainのヘルプ

デジタルビデオカメラの映像をインターネットで見る

このパソコンに添付されているビデオ登録君を使うと、デジタルビデオカメラの映像をインターネットに公開できます。インターネットに公開した映像は、他のパソコンで閲覧できます。ビデオ登録君について詳しくは、PART13の「インターネットで映像を楽しむ」(p.125)をご覧ください。

P A R T

6

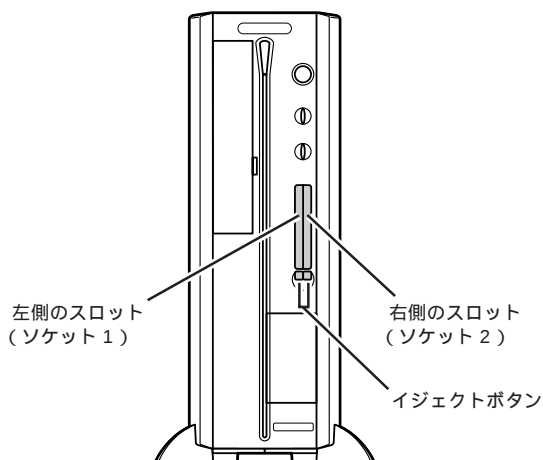
PC カードを使う

PCカードは、クレジットカードを厚くしたような形をしている周辺機器です。PCカードは種類が豊富な上に、取り扱いやすく、パソコン側の設定も簡単にできるので、このパソコンの機能を手軽に拡張することができます。

PC カードスロットについて

このパソコンにはPCカードスロットがあり、PC Card Standardに準拠したPCカードを使うことができます。

PCカードスロットは、PCカードをセットするためのスロットです。このパソコンには、図のように左右2つのPCカードスロットがあり、それぞれのスロットにTYPE またはTYPE のPCカードを1枚ずつ、または左右のスロットを合わせてTYPE のPCカードを1枚、セットして使用できます。



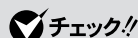
● CardBus 対応 PC カードについて

CardBus(カードバス)はPCカードの拡張仕様で、高速なデータ転送ができます。

このパソコンでは、CardBus対応のPCカードを、左右のスロットに1枚ずつ、計2枚同時に使用することができます。



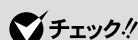
PCカードを使用するときの注意→
このPARTの「PCカードを使用するときの注意」(p.63)



PCカードスロットには保護のためにあらかじめダミーカードがセットされています。

PC Card Standard準拠のPCカードは、カードの厚さによってTYPE、TYPE、TYPEの3種類に分けられます。

- ・TYPE のPCカード
厚さ約 3.3mm
- ・TYPE のPCカード
厚さ約 5.0mm
- ・TYPE のPCカード
厚さ約 10.5mm



- ・このパソコンではZVポート対応のPCカードは使用できません。PCカードを購入する際は注意してください。
- ・PCカード(LANカードを含む)の使用中は、休止状態またはスタンバイ状態にしないでください。ご購入時には、20分以上何も操作しないと自動的に休止状態になるように設定されていますので、自動的に休止状態にならないように設定し直してください。



自動的に休止状態にならないように設定する→PART12の「省電力の設定を変える」(p.119)

PC カードの入れ方と出し方

PC カードは、パソコン本体の電源を入れたままの状態でも、PC カードスロットにセットできます。セットすると自動的に設定が始まり、設定が終わったら、すぐに使えます。

⚠ 注意



けが注意

PCカードを取り出すときは、ゆっくりイジェクトボタンを押してください。

イジェクトボタンを強く押しすぎると、PCカードの取り出し口に指をぶつけてけがをする恐れがあります。

✓ チェック!!

PC カードは大変精密にできています。PC カードやPC カードスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・ 高温、多湿、低温の場所に放置しない
- ・ 濡らさない
- ・ 重いものを載せない
- ・ ぶつけたり、落としたりして、衝撃を与えない
- ・ 曲げない
- ・ PCカードの端子部分に金属などを入れない
- ・ PC Card Standardに準拠していないカードを無理に押し込まない

PC カードをセットする前に

- ・ PCカードをセットする前に、このパソコンで使えるPCカードかどうかもう一度確認してください。
- ・ PCカードをセットする前にイジェクトボタンが収納されているか確認してください。ボタンが飛び出したままの状態ではPCカードをセットすると、イジェクトボタンが収納できなくなります。
- ・ PCカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向も決まっています。このパソコンでは、PCカードの表面(ラベルの貼ってある面)を左側に向けて差し込んでください。間違った向きでむりやり差し込むと、コネクタやスロットが破損する恐れがあります。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。
- ・ コネクタが破損する恐れがありますので、PCカードを押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。
- ・ アプリケーションを使用中は、PCカードを差し込んだり、取り出したりしないでください。
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態で、PCカードの抜き差しを行わないでください。休止状態またはスタンバイ状態時のデータが消えて、正常に復帰できなくなってしまうことがあります。

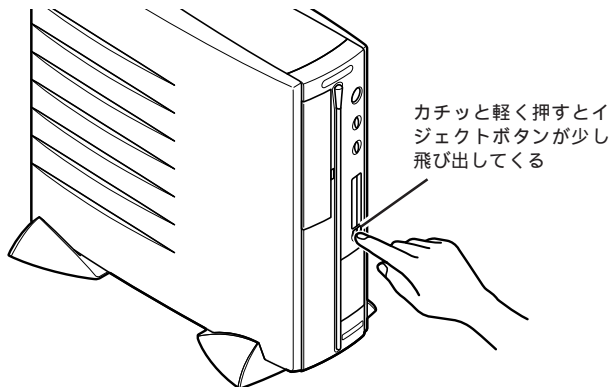
PC カードをセットする

1

パソコンの電源が入っていること、すべてのアプリケーションが終了していることを確認する

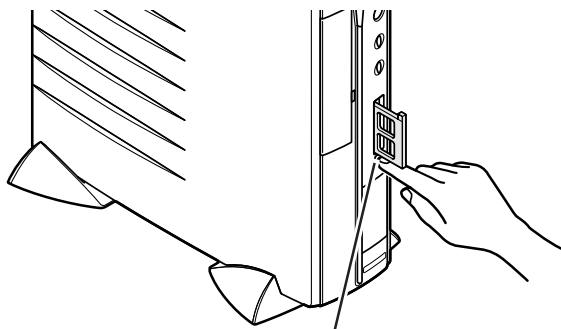
2

イジェクトボタンを軽く押す



3

もう一度イジェクトボタンを押す



カチッと音がするまでイジェクトボタンをしっかり押し込むとセットされていたダミーカードが少し飛び出す

PC カードはパソコンの電源を入れたまま、抜き差しができます。

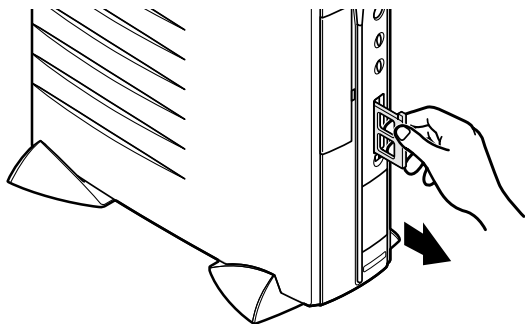
✓チェック!!

PCカードをセットする前に、このパソコンで使える PC カードかどうかもう一度確認してください。

PC カードスロットには保護のために、あらかじめダミーカードがセットされています。

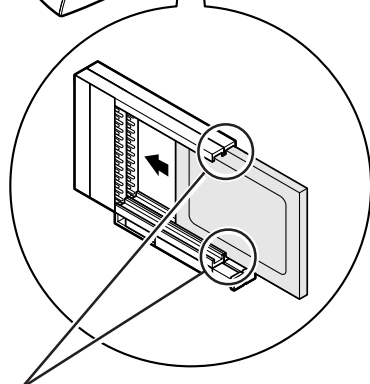
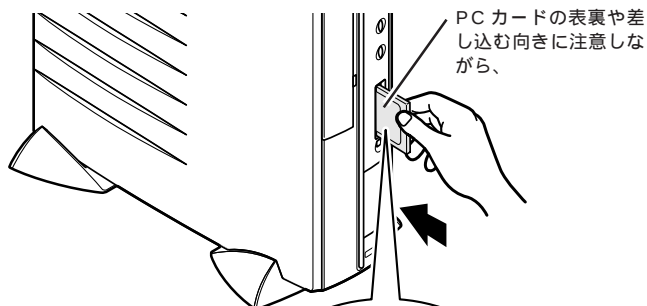
4

出てきたダミーカードを、まっすぐに静かに引き抜く



5

用意したPCカードを持ち、PCカードスロットにゆっくりとまっすぐ差し込み、



ガイドに沿ってPCカード
をまっすぐに差し込む

✓チェック!!

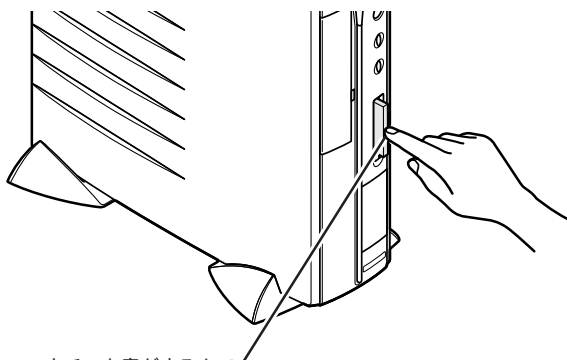
取り出したダミーカードは、PCカードスロットを使わないときに、差し込んで保護するためのものです。大切に保管しておいてください。

✓チェック!!

PCカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向も決まっています(p.57 参照)。間違った向きでむりやり差し込むと、コネクタやスロットが破損する恐れがあります。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。

6

PCカードの端を押して、PCカードがスロット内にすべておさまるようにセットする



カチッと音がするまで
PCカードを完全に押し込む

PCカードを差し込んでそのまま待っていると、自動的に画面の表示が切り替わり、Windows デスクトップの画面に戻る



PCカードの種類によっては、
タスクトレイに  が追加される

● PC カードの設定

PCカードをPCカードスロットにセットすると、パソコンが自動的に設定を行い、すぐに使用可能な状態になります。

ただし、一度も使ったことのないPCカードをセットしたときは、設定が自動的には行われず、ドライバのインストールを行うための画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示にしたがって操作してください。詳しくはPCカードに添付のマニュアルをご覧ください。
なお、この操作を一回行えば、次回以降そのPCカードを使うときは、セットしたらすぐに使えるようになります。

● PC カードのデータを見る

PCカードのデータは、デスクトップの「マイコンピュータ」の中のPCカードのデータが入っているドライブをダブルクリックすると表示されます。購入時の状態で他に周辺機器を取り付けていない場合は、Fドライブ  になります。なお、デスクトップの「マイドキュメント」の中の「My Pictures」フォルダ内に画像データを移動させると、縮小表示された画像を見ることもできます。また、データが入っているフォルダの設定を「表示」-「縮小表示」で変更しても、データを一覧表示できます。

✓ チェック!!

コネクタが破損する恐れがありますので、PCカードを押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。

📖 参照

ドライバのインストールについて - PART2 の「ドライバなどをインストールする」(p.25)

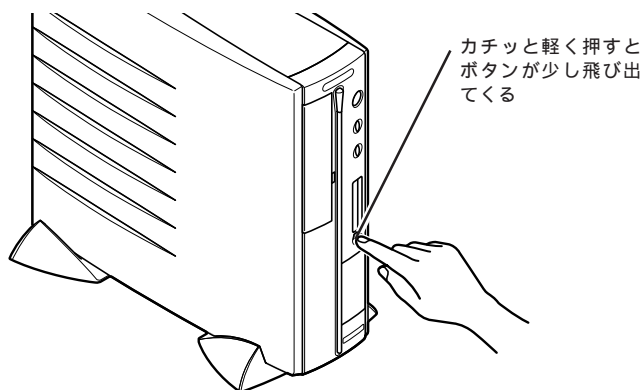
PC カードを取り出す

1

「周辺機器の取り外しと再接続」(p.27)の
手順 1 ~ 手順 6 を行う

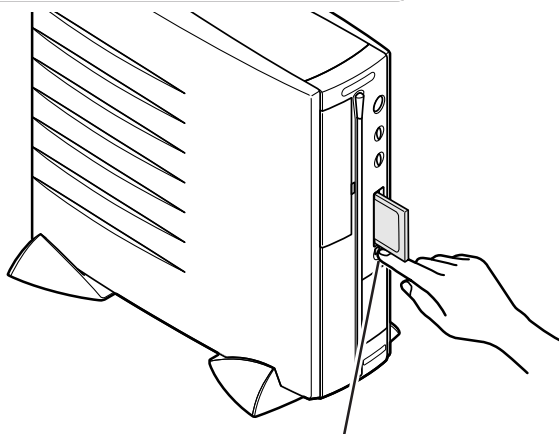
2

イジェクトボタンを軽く押す



3

もう一度イジェクトボタンを押す



カチッと音がするまでイジェクトボタンを
しっかりと押し込むとセットされていた PC
カードが少し飛び出す

✓チェック!!

PCカードによっては、左の手順で取り出さないと、このパソコンが正常に動かなくなる可能性があります。必ず手順を守って取り外してください。

✓チェック!!

- ・ PC カードを 2 枚セットしたときは、同時に取り出さずに、1 枚ずつイジェクトボタンを押して取り出してください。
- ・ PC カードを 2 枚セットしている場合、イジェクトボタンを押すときに、手順 1 で指定した PC カードとソケット番号の対応を間違えないようにしてください。どちらのスロットが分からなくなったときは、「コントロールパネル」の「PC カード (PCMCIA)」で確認できます。

📖 参照

PC カードスロットのソケット番号の確認→このPARTの「PC カードスロットについて」(p.56)

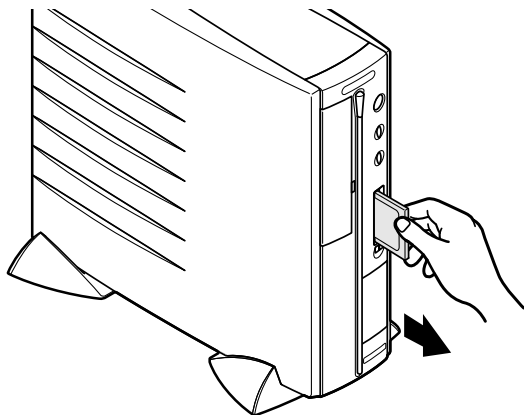
ボタンが飛び出した状態でイジェクトボタンを押し込むと、PC カードスロットにセットされていた PC カードが、少しだけ飛び出します。

✓チェック!!

イジェクトボタンは、カチッと音がするまでしっかり押し込んでください。

4

出てきた PC カードを、まっすぐに静かに引き抜く

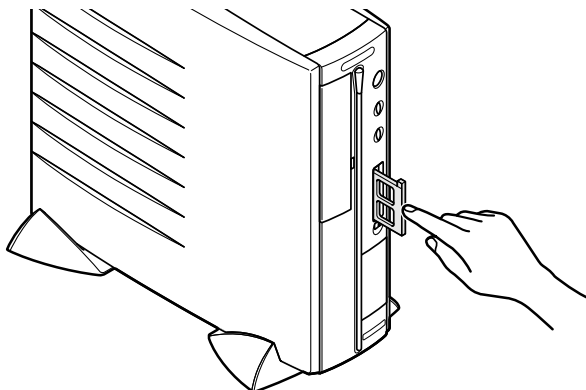


5

「PCカードをセットする」の手順 2 ～ 手順 4 (p.58 ～ 59) で取り出したダミーカードを PC カードスロットに静かに差し込む

6

ダミーカードがスロット内にすべておさまるように、奥までしっかり押し込んでセットする



✓チェック!!

PCカードを取り出したときに「予期しないPCカードの取り外し」という画面が表示された場合は、「OK」をクリックしてください。

PCカードを取り出したら、ダミーカードをセットします。

✓チェック!!

ダミーカードを PC カードスロットに差し込むときは、「T」印がある方を左側のスロットに、「B」印がある方を右側のスロットにセットしてください(本体を縦置きにしているとき)。

✓チェック!!

コネクタが破損する恐れがありますので、押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。

PC カードを使用するときの注意

- ・アプリケーション使用中はPCカードのセットや、取り出しはしないでください。
- ・「PCカードを取り出す」(p.61)の手順を行わずに、PCカードスロットからPCカードを取り外しても、警告が表示がされないことがあります。
- ・PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できない場合があります。
- ・このパソコンでは、ZVポート対応のPCカードは使用できません。
- ・マルチファンクションカード(LANとモデムなど2つの機能を兼ね備えたPCカード)とATAカードを同時に使用する場合は、右側のPCカードスロット(ソケット2)にマルチファンクションカードを、左側のPCカードスロット(ソケット1)にATAカードをセットしてください。
- ・CardBus対応PCカードのドライバ組み込み中に例外エラーが発生することがあります。この場合は、Windowsを再起動すると、正常にドライバの組み込みができることがあります。
- ・PCカードスロットにATAカードをセットにしているときにスタンバイ状態にすると、通常よりスタンバイ状態から復帰するのに時間がかかります。
- ・休止状態またはスタンバイ状態にするときには、必ずPCカードをPCカードスロットから取り外してください。
- ・PCカード(LANカードを含む)を使う場合は、休止状態またはスタンバイ状態にしないでください。このパソコンは、購入時には20分以上何も操作しないと自動的に休止状態になるように設定されていますので、自動的に休止状態にならないように設定し直してください。
- ・Windowsを起動している状態で、フラッシュATAカードやスマートメディア等のPCカード(PCMCIA接続のメモリカード)を2枚セットすると、2枚目のカードが利用できないことがあります。その場合は、PCカードを2枚ともセットしたまま、Windowsを再起動してください。再起動後に、2枚のカードを利用できるようになります。

参照

自動的に休止状態にならないように設定する→PART12の「省電力の設定を変える」(p.119)

P A R T

7

PCI ボードを使う

このパソコンには、ハードディスクなどの SCSI (スカジー) インターフェイス対応機器の増設に必要な SCSI インターフェイスボードをはじめ、いろいろな種類の PCI ボードを取り付けることができます。

PCIボードについて

ここでは、このパソコンに取り付けることのできるPCIボードについて簡単に説明します。

いろいろなPCIボード

PCIボードには、主に次のようなものがあります。

● SCSI インターフェイスボード

このパソコンにハードディスクなどのSCSIインターフェイス対応機器を接続するためのボードです。

● LAN(ネットワーク)ボード

このパソコンをLANに接続するためのボードです。

● 3D グラフィックアクセラレータボード

3DCG(立体的なコンピュータグラフィックス)の表示を高速にするボードです。

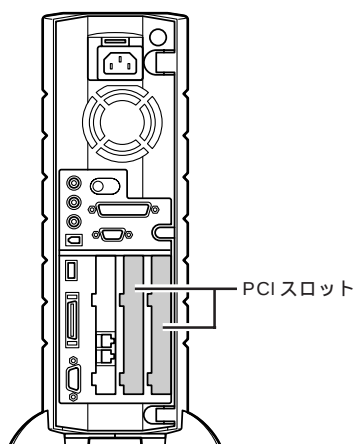
PCIボードは、ここで紹介しているものの他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。

これらのPCIボード購入時には、必ずこのパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元で確認してください。

PCIスロット

このパソコンでは、下の図のように、2つ(VC800H/8FD1のみ)のPCIスロットを使用できます。

スロットにはハーフサイズのPCIボードを取り付けることができます。



📖 参照

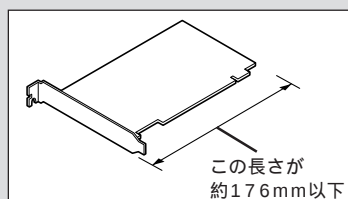
SCSI インターフェイス対応機器 → 「PART9 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.79)

✔ チェック!!

- ・LANモデルには、標準でLANボードが取り付けられています。
- ・セットの液晶ディスプレイは、本機の液晶ディスプレイ専用コネクタにしか取り付けられません。アクセラレータボードにディスプレイを接続する場合は、別途ディスプレイが必要です。
- ・1Mバイト空間のメモリリソースを使用するPCIボードは、正常に動作しない場合があります。

✔ チェック!!

- ・VC800H/8FD1とBSモデル以外では、PCIスロットは1つ使用できます。BSモデルでは、新たにPCIボードを取り付けることはできません。
- ・このパソコンには、フルサイズのPCIボードは取り付けられません。
- ・ハーフサイズのPCIボードであっても特殊な形状のボードは取り付けられないことがあります。ハーフサイズのPCIボードとは、次のような大きさのボードのことです。



PCI ボードの取り付け と取り外し

ここでは、このパソコンにPCIボードを取り付ける方法と取り外す方法を説明します。

⚠ 注意



PCIボードの取り付けや取り外しを行うときは、指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

けが注意

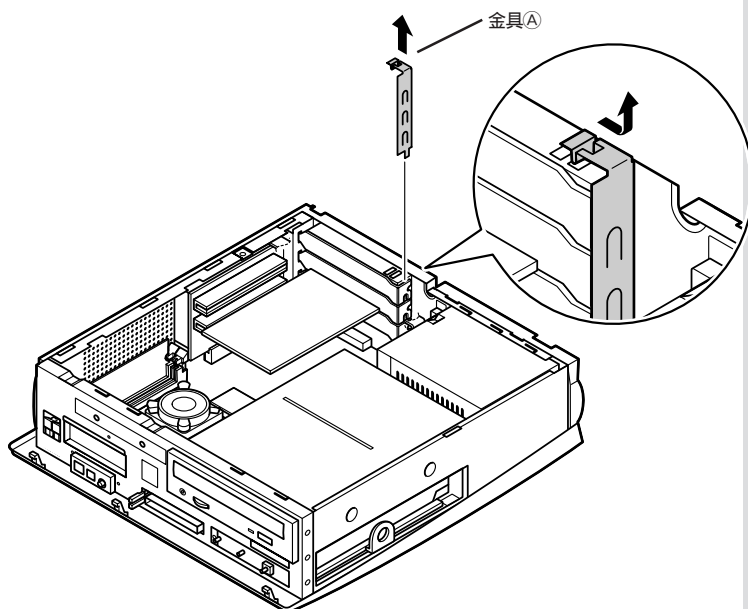
PCI ボードの取り付け方

1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す

2

下の図のように金具①を上へ引き抜くようにして取り外す



✓ チェック!!

以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。

PCIボードを取り付けるときには、必ずPCIボードに付属のマニュアルもご覧ください。

📖 参照

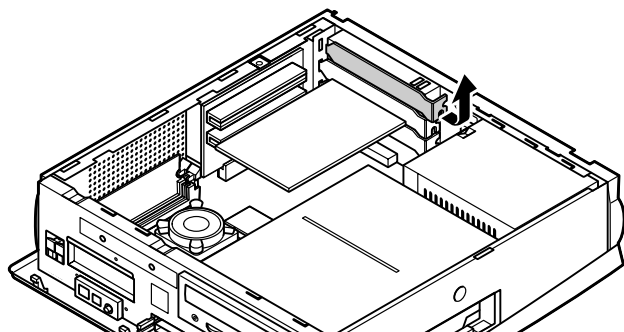
ルーフカバーの外し方 → PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.29)

✓ チェック!!

- ・金具①を取り外すときは、指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。
- ・電源ケーブルやディスプレイのケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- ・机やテーブルを傷つけないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。
- ・VC800H/8FD1 と BS モデル以外では、新たに追加できるPCIボードは1枚だけです(BSモデルでは新たにPCIボードを追加できません)。標準で取り付けられているPCIボードを取り外して、別のPCIボードを取り付けた場合はサポートの対象外になります。
- ・FAX モデムボードは、専用スロットに取り付けられているため、別のPCIボードを取り付けることはできません。

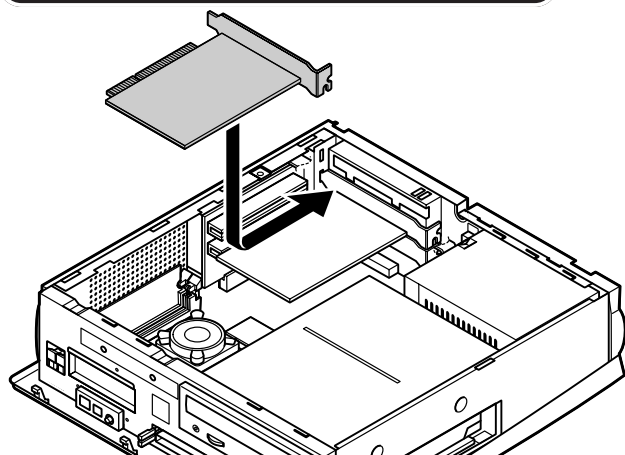
3

スロットカバーを取り外す



4

PCI ボードを、両手で支えながらスロットに慎重に差し込む



✓チェック!!

- ・スロットカバーは、ここで取り付けたボードを取り外さないかぎり、不要となりますが、なくさないように大切に保管してください。
- ・PCI ボードを持つときは、ボード上の部品やツメ(端子)部分に触れないように注意してください。

PCIボードをしっかりと差し込むには、強い力が必要です。ボードのツメの先端がPCIスロットにきちんと合っていれば壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。また、そのときに指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

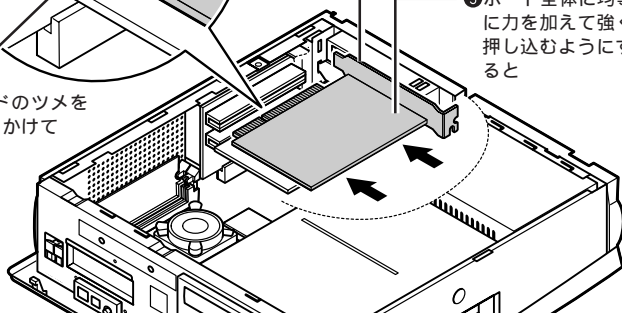
✓チェック!!

しっかりと差し込んでおかないと、故障の原因になります。

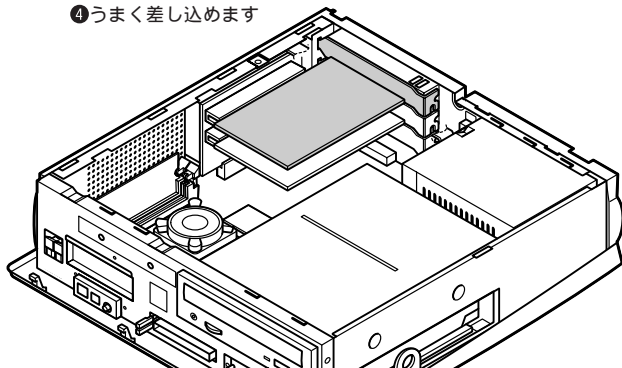
② PCI ボードのツメを本体にひっかけて

① スロットカバーの部分にそろえて

③ ボード全体に均等に力を加えて強く押し込むようにすると



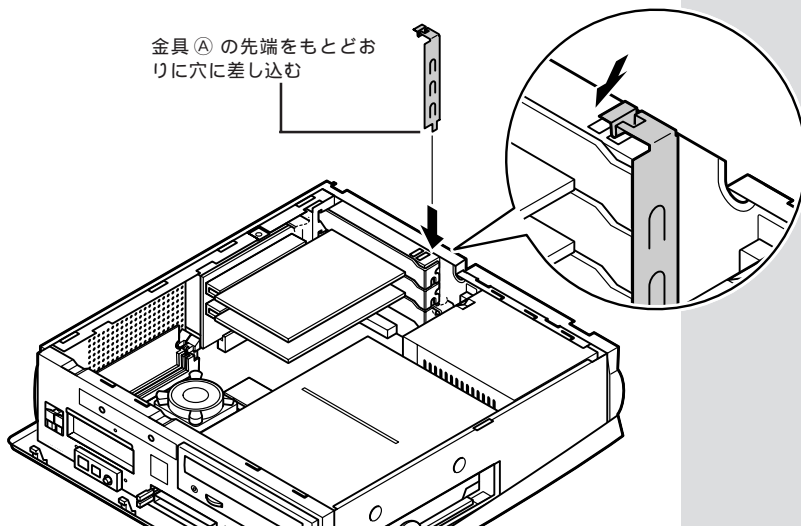
④うまく差し込めます



5

手順2で外した金具④を使って、PCIボードを固定する

金具④の先端をもとどおりに穴に差し込む



6

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

PCIボードによっては、ボードの取り付け後、パソコン側で設定作業が必要なものもあります。詳しくは、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。また、PCIボードの使い方についても、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。

参照

ルーフカバーの取り付け方→PART2
の「本体の開け方と閉め方」(p.29)

PCI ボードの取り外し方

PCIボードの取り外しは、PCIボードを取り付けるときと逆の手順で行ってください。

チェック!!

FAX モデムボードも、PCI ボードと同じ方法で取り付けられています。FAX モデムボードの取り付け、取り外しは、PCI ボードと同じように行うことができます。ただしFAX モデムボードは、専用スロットに取り付けられているため、別の PCI ボードをこのスロットに取り付けることはできません。

P A R T

8

メモリを増やす

メモリは、パソコンで作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいのと同じように、メモリの量が多いとパソコンの「作業机」も広くなり処理がしやすくなります。一度に複数のアプリケーションを使っているときなどに、パソコンの処理速度が遅いと感じるようであれば、メモリを増やしてみましょう。

メモリを増やすには

このパソコンでメモリを増やすときは、別売の「増設 RAM サブボード」というボードを、専用のコネクタに取り付けます。

どのくらいメモリを増やすかを決める(→ p.72)

このパソコンでは、最大 512M バイトまで増やせます。



必要なものを準備する

必要な増設 RAM サブボード等を準備します。



増設 RAM サブボードを
取り付ける(→ p.74)

本体のルーフカバーを取り外し、用意した増設 RAM サブボードを専用のコネクタに取り付けます。取り付けたらルーフカバーを元に戻します。



メモリが増えたかどうか確認する(→ p.77)

本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

メモリの増やし方の例

このパソコンには、増設 RAM サブボード (DIMM) を差し込むコネクタ (スロット) が、2 つ用意されています。標準では、この内の 1 つのコネクタに 128M バイトの RAM サブボードが付いています。

128M バイト (標準で付いているもの)	}	合計 128M バイト
空き		

空いている残りの 1 スロットに、増設 RAM サブボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で付いている RAM サブボードを取り外して、より大きな容量の増設 RAM サブボードに取り替えることも可能です。メモリは、最大で 512M バイト (256M バイトの増設 RAM サブボード × 2 枚) まで増やすことができます。

増設 RAM サブボードに対して、パソコンに最初から取り付けられているメモリのことを「RAM サブボード」といいます。

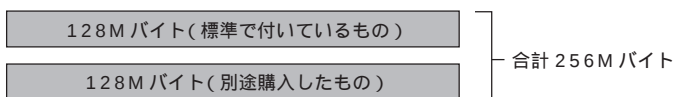
実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より 0.4M バイト少ない値になります。

✓ チェック!!

メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した標準の RAM サブボードは大切に保管してください。

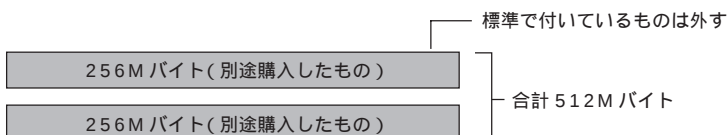
・例 1 : 256M バイトにする場合

128M バイトの増設 RAM サブボードを 1 枚追加します。



・例 2 : 512M バイト(最大)にする場合

標準で付いている RAM サブボードを外し、256M バイトの増設 RAM サブボードを 2 枚追加します。



このパソコンで使える増設 RAM サブボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設 RAM サブボード」というボードを使います。

このパソコンでは、「DIMM」と呼ばれるタイプの次のような増設 RAM サブボードを使うことができます。

● 増設 RAM サブボードの種類(B タイプ)

(VC1000J/8FD、VC800H/8FD1、VT300/0D 以外の場合)

型 名	メモリ容量
PK-UG-M031	64M バイト(PC133)
PK-UG-M032	128M バイト(PC133)
PK-UG-M033	256M バイト(PC133)

● 増設 RAM サブボードの種類(A タイプ)

(VC1000J/8FD、VC800H/8FD1、VT300/0D の場合)

型 名	メモリ容量
PK-UG-M015	32M バイト(PC100)
PK-UG-M016	64M バイト(PC100)
PK-UG-M017	128M バイト(PC100)

DIMM(ディム)は、Dual Inline Memory Moduleの頭文字をとったものです。

✓ チェック!!

このパソコンでは、「SIMM(シム)」と呼ばれるタイプの増設 RAM サブボードは使用できません。間違って購入しないように注意してください。

VC1000J/8FD、VC800H/8FD1、VT300/0Dで256Mバイトよりもメモリを増やしたい場合、256Mバイト(PC133)を取り付けることもできます。

増設 RAM サブボード の取り付けと取り外し

ここでは、増設 RAM サブボード (RAM サブボード) の
取り付け方と、取り外し方を説明します。

⚠ 注意



発火注意

増設 RAM サブボードは以下の手順に従って正しく取
り付けてください。

正しく取り付けられていないと、発煙、火災の原因と
なります。



けが注意

増設 RAM サブボードの取り付けや取り外しを行うと
きは、指をぶついたり、切ったりしないように注意し
てください。

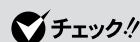
ボードを取り扱うときに気をつけること

増設 RAM サブボードおよび標準で付いている RAM サブボードは、静電
気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態でこれらのボードに触
れると、ボードが破損する原因となります。ボードに触れる前に、身近な金
属 (アルミサッシやドアのノブなど) に手を触れて、身体の静電気を取り除
くようにしてください。

増設 RAM サブボードの取り付け方

1

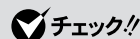
正しい手順で本体のルーフカバーを外す



以降の手順では、本体のカバーを開
けて作業します。

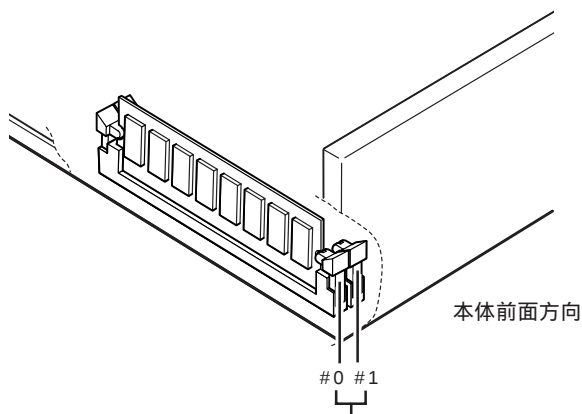


ルーフカバーの外し方 → PART 2 の
「本体の開け方と閉め方」 (p.29)



電源ケーブルやディスプレイケー
ブルなど、本体に接続されているケー
ブルは本体からすべて取り外してく
ださい。

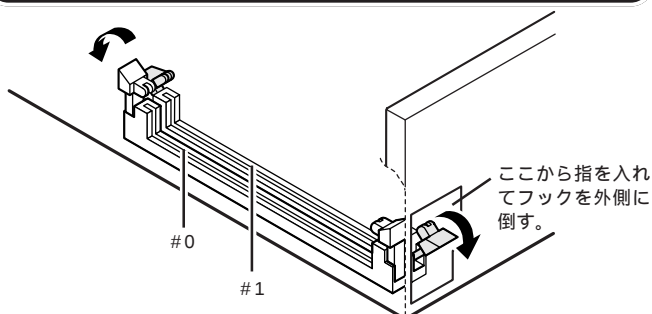
ここで、増設RAMサブボード用のコネクタの位置を確認しておいてください。



ここに増設RAMサブボード用コネクタがあります。
本体外側に近い方から、#0、#1と呼びます。

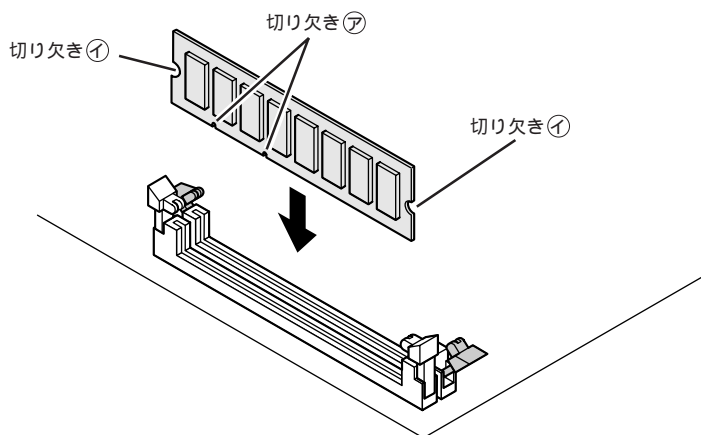
2

ボードを差し込むコネクタの両側のフックを外側に開く



3

切り欠き㊦の方向に注意して、空いているコネクタに
ボードを垂直に差し込む

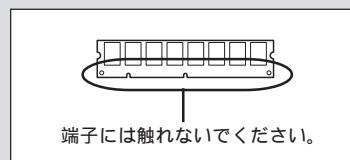


✓チェック!!

お使いの機種によって、本体内部の
形状が異なります。

左の図にはありませんが、実際には
2つあるコネクタのうち、#0(本体
外面に近い方)のコネクタには、標
準でRAMサブボードが差し込まれ
ています。

増設RAMサブボードは、両手で持つ
てください。



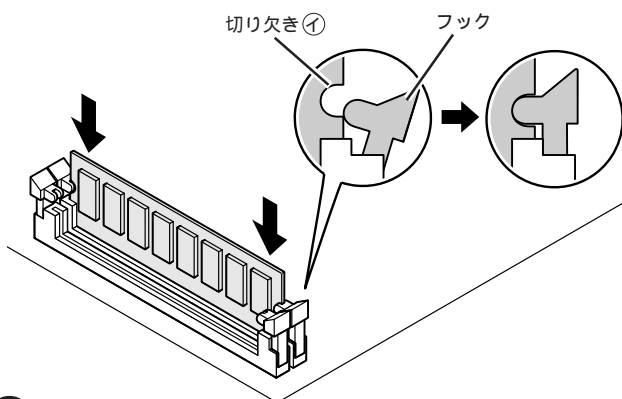
✓チェック!!

- ・増設RAMサブボードの端子部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

コネクタの溝とボードの切り欠き㊦
の位置を確認してから差し込んで
ください。

4

そのまま垂直方向に力を加え、コネクタ両側のフックが切り欠き①に引っかかるまで、強く押し込む



5

正しい手順で本体のルーファカバーを取り付ける

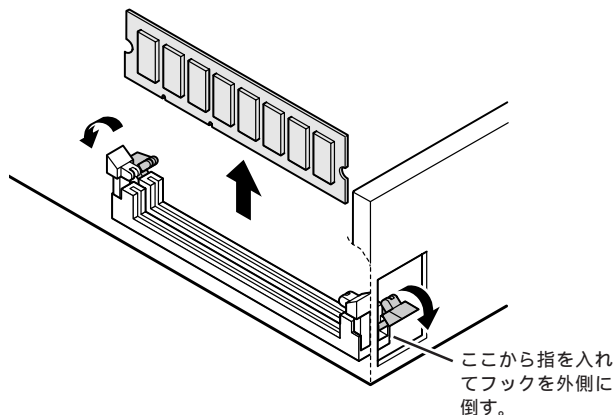
RAM サブボードの取り外し方

1

正しい手順で本体のルーファカバーを外す

2

取り外したいボードの両側のフックを外側に開き、ゆっくりと、ボードを垂直に引き抜く



3

正しい手順で本体のルーファカバーを取り付ける

増設 RAM サブボードを奥までしっかり差し込むには、強い力が必要です。手順 3 で差し込んだときに切り欠き⑦をコネクタの溝に正しく合わせてあれば、壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。また、そのときに指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

✓チェック!!

しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

📖 参照

ルーファカバーの取り付け方 → PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.29)

📖 参照

ルーファカバーの外し方 → PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.29)

✓チェック!!

- ・電源ケーブルやディスプレイのケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- ・左の図にはありませんが、実際には 2 つあるコネクタのうち、#0(本体外面に近い方)のコネクタには、標準で RAM サブボードが差し込まれています。#0 の RAM サブボードも同じ方法で取り外せます。

✓チェック!!

- ・フックを開きすぎて破損してしまわないように気をつけてください。
- ・メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設 RAM サブボードおよび標準で付いている RAM サブボードは、大切に保管してください。

📖 参照

ルーファカバーの取り付け方 → PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.29)

増やしたメモリを確認する

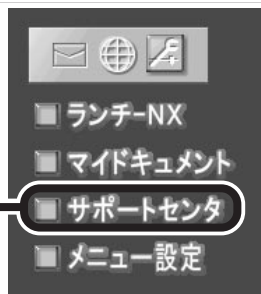
パソコンの電源を入れてみて、増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

確認のしかた

1

サポートセンタを起動する

アクティブメニューNXの「サポートセンタ」をクリックします(キーボードの【サポート】ボタンを押して起動することもできます)。



「サポートセンタ」の画面が表示されます。

2

「パソコンの情報」をクリック



メモリはWindows Meの「システム情報」からも確認することができます。
(「スタート」-「プログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「システム情報」)

3

メモリ容量を確認する



ここに表示されたメモリ容量を確認する
(ここには、増やした後の全メモリ容量(標準で入っている容量 + 増設した容量)が表示されます)

✓チェック!!

- ・ここでは、増やした後の全メモリ容量より数 M バイト少なく表示される場合がありますが故障ではありません。
- ・メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後にディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。

メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

- メモリが正しく取り付けられているか？
- このパソコンで使える増設 RAM サブボードを取り付けているか？

P A R T

9

SCSI インターフェイス対応機器を使う

このパソコンで SCSI (スカジー) 機器を使うには、PCI スロットに対応した SCSI インターフェイスボードまたは PC カードタイプの SCSI カードが必要です。ここでは、SCSI の基礎知識、SCSI インターフェイスボードの取り付け方、SCSI インターフェイス対応機器を接続する方法を説明します。

SCSI 機器を使うには

このパソコンで SCSI 機器を使うには、PCI スロット対応の SCSI インターフェイスボードまたは PC カードタイプの SCSI カードを取り付ける必要があります。ここでは、PCI スロット対応の SCSI インターフェイスボードの取り付け方について説明します。

SCSI 機器の接続は、次のような手順で行います。

必要なものを用意する(→ p.83)

SCSI 機器のほかに、PCI スロット用の SCSI インターフェイスボードや SCSI ケーブル、ターミネータなどが必要です。

本体に SCSI インターフェイスボードを取り付ける(→ p.84)

本体のカバーを開けて、PCI スロットに SCSI インターフェイスボードを取り付けます。

SCSI 機器をボードの SCSI コネクタに接続する(→ p.85)

各機器の SCSI ID を設定したら、ボードの SCSI コネクタに、SCSI ケーブルを使って接続します。

SCSI 機器の電源を入れる

パソコン本体の電源を入れる

✓チェック!!

- ・SCSI カードは CardBus 対応のものをお使いください。
- ・SCSI カードの取り付け方は、一般の PC カードと同様です。

📖参照

- ・CardBus 対応 PC カードについて
→ PART6 の「PC カードスロットについて」(p.56)
- ・SCSI カードを取り付ける
→ PART6 の「PC カードの入れ方と出し方」(p.57)

✓チェック!!

SCSI インターフェイスを使って機器を接続した場合は、パソコンを休止状態にできません。SCSI 機器をご利用になる場合は、パソコンが自動的に休止状態にならないように設定を変更してください。

📖参照

自動的に休止状態にならないように設定する → PART12 の「省電力の設定を変える」(p.119)

📖参照

SCSI ID → この PART の「SCSI ID について」(p.82)

SCSI インターフェイスについて

ここでは、SCSI インターフェイスを使って周辺機器を接続するとき、覚えておいて欲しいことを説明します。

✓チェック!!

SCSI インターフェイスを使って機器を接続した場合は、パソコンを休止状態にできません。SCSI 機器をご利用になる場合は、パソコンが自動的に休止状態にならないように設定を変更してください。

📖参照

自動的に休止状態にならないように設定する→PART 12の「省電力の設定を変える」(p.119)

接続できる SCSI 機器

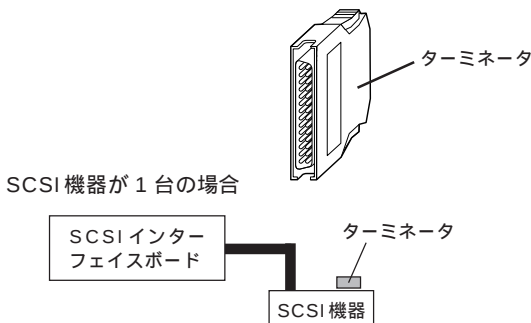
SCSI インターフェイスを使って接続できる機器には、次のようなものがあります。

- ・ハードディスク
- ・CD-ROM ユニット
- ・DVD-RAM ドライブ
- ・DVD-ROM ドライブ
- ・CD-R/RW ドライブ
- ・MO ディスク(光磁気ディスク) などドライブ
- ・PD ユニット
- ・Zip ドライブ
- ・ミニカートリッジテープユニット
- ・カセット磁気テープユニット
- ・イメージスキャナ

SCSI に関する基礎知識

● SCSI 機器の接続方法について

SCSI 機器は、「デジーチェーン」と呼ばれる「数珠つなぎ」のような形式で、複数(最大 7 台)の機器をつなぐことができます。また、その終端となる SCSI 機器には「ターミネータ」と呼ばれる装置を付けることになっています。



ターミネータは、「終端BOX」とも呼ばれます。

SCSI 機器によっては、ターミネータ機能を内蔵しているものもあります。使用する SCSI 機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく設定してください。

● SCSI ID について

SCSI機器は、SCSI IDという0～7の認識番号で区別します。このSCSI IDが重複すると、SCSI機器が正常に動作しなくなりますのでご注意ください。

通常、SCSIインターフェイスボード自身が7番を使用します。一般的に、外付けのSCSI機器のSCSI IDは0～6番を使います。また、通常、0番はSCSIハードディスクで使います(その他の機器でも0番を使えないわけではないわけではありません)。

● SCSI 機器接続ケーブルの長さについて

複数のSCSI機器を接続するとき、ケーブルの総延長が3m以内になるようにしてください。

✓ チェック!!

Ultraに設定したUltra SCSIインターフェイス対応機器を4台以上接続する場合は、ケーブルの総延長が1.5m以内になるようにしてください。

ケーブルの総延長は取り付ける機器などによって異なります。ボードや機器のマニュアルで確認してください。

SCSI インターフェイスの種類

現在一般に使われているSCSIインターフェイスの規格には、次の4種類があります。

- ・ SCSI インターフェイス
- ・ SCSI-2 インターフェイス
- ・ Ultra SCSI インターフェイス
- ・ Ultra Wide SCSI インターフェイス

SCSI-2 インターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を2倍にしたものです。また、Ultra SCSIインターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を4倍に、Ultra Wide SCSIインターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を8倍にしたものです。

それぞれ、対応したインターフェイスボード、SCSI機器、ケーブルがあります。SCSIインターフェイスで、SCSI-2インターフェイスに対応した機器を使うことはできませんが、SCSI-2インターフェイスで、SCSIインターフェイスに対応した機器を使うことはできます。

用意するもの

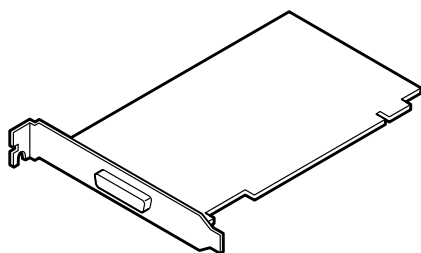
市販のSCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブルなどが必要になります。あらかじめ用意しておきましょう。

● 接続する SCSI 機器とそのマニュアル

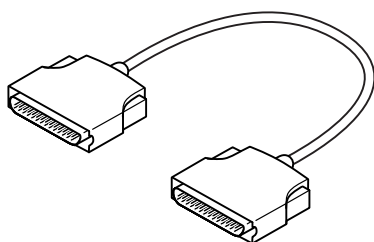
● SCSI インターフェイスボード

PCIスロットに対応したSCSIインターフェイスボードが1枚必要です。このパソコンで利用できるSCSIインターフェイスボードには、次のようなものがあります。

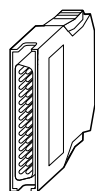
- ・Ultra SCSI インタフェースボード (Wide 対応) (PK-UG-X007)
- ・Ultra SCSI インタフェースボード (PK-UG-X014)



● SCSI 機器接続ケーブル



● ターミネータ (終端 BOX)

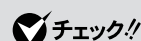


このパソコンで利用できるのは、「ハーフサイズ」のSCSIインターフェイスボード (長さが約176mm以下のもの) です。

また、SCSIカードを使うこともできます。SCSIカードはPCカードスロットに差し込みます。



ハーフサイズ → PART7 の「PCIスロット」(p.66)



SCSI機器接続ケーブルは、プラグ部分の形状やケーブルの長さ、対応しているSCSIインターフェイス規格の違いによって、いくつかの種類があります。ボードや機器に添付のマニュアルを参照して、適切なケーブルを用意してください。



SCSIインターフェイスの種類 → 前ページの「SCSIインターフェイスの種類」

ターミネータ (終端) 機能を内蔵しているタイプのSCSI機器を接続するときは、ターミネータ (終端BOX) は不要です。詳しくは、SCSI機器に添付のマニュアルをご覧ください。

SCSI インターフェイスボードを取り付ける

SCSI インターフェイスボードは、パソコン本体の PCI スロットに取り付けます。取り付け方は、一般の PCI ボードと同様です。

⚠ 注意



PCI ボードの取り付けや取り外しを行うときは、指をぶつけたり、切ったりしないように注意してください。

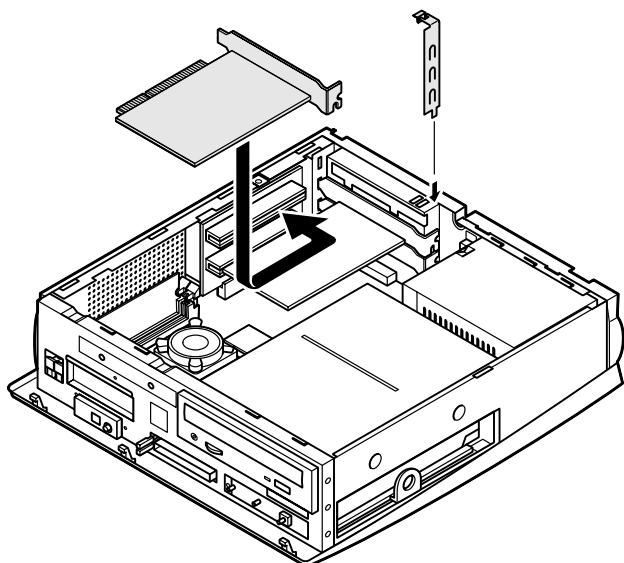
1

正しい手順で本体のルーフカバーを取り外す

2

正しい手順で、SCSI インターフェイスボードを PCI スロットに取り付ける

PCI スロットのスロットカバーを取り外してから、SCSI インターフェイスボードをスロットに慎重に差し込み、固定します。



3

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

✓ チェック!!

SCSI インターフェイスボードを取り付ける際は、本体のカバーを開けて作業します。



参照

ルーフカバーの外し方 → PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.29)

✓ チェック!!

ディスプレイケーブルなど本体背面に接続されているケーブルは、本体からすべて取り外してください。

机やテーブルを傷つけたりしないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。



参照

ボードの取り付け方について詳しくは → 「PART7 PCI ボードを使う」(p.65)

✓ チェック!!

SCSI インターフェイスボードは、しっかり差し込んでください。しっかり差し込んでおかないと故障の原因になります。

SCSI インターフェイスボードを取り付けるときには、必ず SCSI インターフェイスボードに添付のマニュアルもご覧ください。



参照

ルーフカバーの取り付け方 → PART 2 の「本体の開け方と閉め方」(p.29)

SCSI 機器を接続する

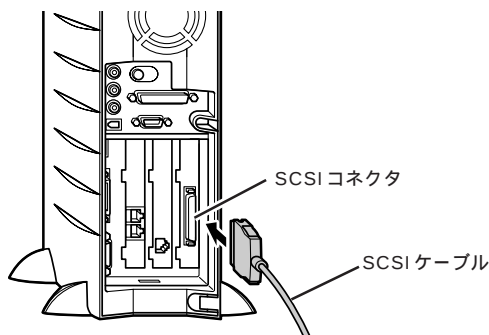
SCSI インターフェイスボードを取り付けたら、SCSI ケーブルを使ってパソコン本体と SCSI 機器を接続します。

1

SCSI 機器の SCSI ID を設定する

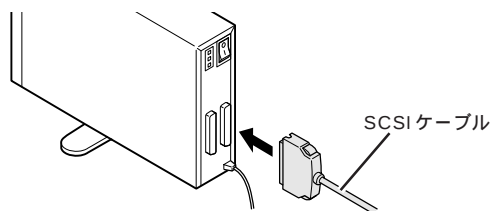
2

本体に取り付けた SCSI インターフェイスボードの SCSI コネクタに SCSI ケーブルのプラグを差し込む



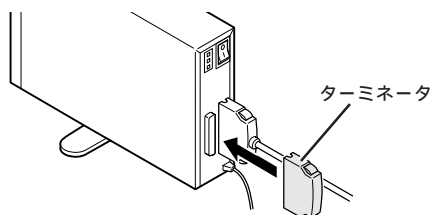
3

SCSI 機器の SCSI コネクタに、SCSI ケーブルのもう片方のプラグを差し込む



4

SCSI 機器の残りの SCSI コネクタに、ターミネータを差し込む



SCSI ID の設定方法については、各 SCSI 機器に添付のマニュアルをご覧ください。

✓チェック!!

- ・接続はパソコン本体と SCSI 機器の電源を切ってから行ってください。
- ・SCSI ケーブルのプラグは、逆向きに差し込めないようになっています。向きをよく確認して、無理に押し込まないようにしてください。

コネクタによっては、左右のフックでプラグが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

SCSI 機器の SCSI コネクタは通常 2 つ用意されています。どちらのコネクタを使っても構いません。

複数の SCSI 機器を接続する場合には、ターミネータのかわりにもう 1 本の SCSI ケーブルを差し込み、数珠つなぎの方法で SCSI 機器を接続していきます。そして終端となる機器にターミネータを差し込みます。

SCSI 機器がうまく動かないときは

取り付けた SCSI 機器が認識されないときには、次の点をチェックしてみてください。

● 電源を入れる順序は正しいですか？

SCSI インターフェイス対応機器を取り付けたときは、本体の電源を入れる前に SCSI 機器の電源を入れておかないと、本体の起動時に認識されません。電源を入れる順序をまちがっていた場合は、一度、本体の電源を切ってから SCSI 機器の電源を入れ、その後もう一度本体の電源を入れ直してください。

● ケーブルがきちんと接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンを移動したときなど、ケーブルが外れかかっていたりすることがよくあります。SCSI インターフェイスボードと各機器、または各機器どうしを接続しているケーブルやターミネータが、きちんと接続されているかどうか、確認してください。

● ケーブルが長すぎませんか？

また、SCSI インターフェイスや機器に対応したケーブルを使っていますか？

SCSI-2 のデジチェーンには、ケーブルの総延長が 3m 以内という制限があります。短いケーブルなどを使って、制限を超えない総延長にしてください。また、SCSI ケーブルは取り付ける SCSI 機器のインターフェイスによって使用できるケーブルが異なります。機器のコネクタの形をよく確認して適したものを使用してください。機器によっては変換アダプタが必要な場合もあります。

● SCSI インターフェイスボードは認識されていますか？

SCSI インターフェイスボードのリソースの設定、ドライバの組み込みが正しくできていない場合、SCSI インターフェイスボードが認識されません。「コントロールパネル」の「システム」の「デバイスマネージャ」で確認してください。正しく認識されていない場合には、SCSI インターフェイスボードのところに、赤い「×」や黄色い「！」のマークが表示されます。

● SCSI ID の設定は正しくできていますか？

複数の機器で同じ番号を設定していたりすると、各機器を認識できません。各機器の SCSI ID の設定を確認してください。

参照

使用できるケーブルについて → SCSI インターフェイスボードのマニュアル、SCSI インターフェイス対応機器のマニュアル

参照

正しく認識されない場合の対処 → PART 11 の「リソースに関する問題」(p.103)、「サポートセンター」-「トラブル解決 Q&A」-「周辺機器」または Windows の「ヘルプとサポート」

P A R T

10

ハードディスクを増設する

データをたくさん保存したり、多くのアプリケーションをインストールしていくと、だんだんハードディスクがいっぱいになってきます。もっとたくさんの容量が必要な場合はハードディスクを増設します。このパソコンでは、ハードディスクは外部機器として接続します。

ハードディスクを増設するには

このパソコンにハードディスクを増設する方法はいくつかありますが、ここではPCIスロット対応のSCSIインターフェイスボードを使って、本体の外側に設置するタイプのハードディスクを接続する手順を説明します。

必要なものを用意する(→ p.89)

ハードディスクに添付のマニュアルを読み、スイッチなどの設定が必要ならば設定しておきます。パソコン本体の電源は切っておきます。また、SCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブルなどが必要です。

本体に SCSI インターフェイスボードを取り付ける(→ p.90)

本体のPCIスロットに、SCSIインターフェイスボードを取り付け、使用可能な状態にします。

増設ハードディスクをボードの SCSI コネクタに接続する(→ p.90)

取り付けたSCSIインターフェイスボードのコネクタに、SCSI機器接続ケーブルを使ってハードディスクを接続します。

増設ハードディスクの電源を入れる

パソコン本体の電源を入れる

ハードディスクをフォーマットする(→ p.92)

パソコンの電源を入れて、増設したハードディスクをフォーマットします。

✓チェック!!

- ・このパソコンでは、本体に内蔵するタイプのハードディスクは増設できません。
- ・標準で本体に内蔵されているハードディスクを交換するとサポートの対象外になります。

📖参照

SCSI インターフェイスボードの取り付け→「PART9 SCSI インターフェイス対応機器を使う」(p.79)

📖参照

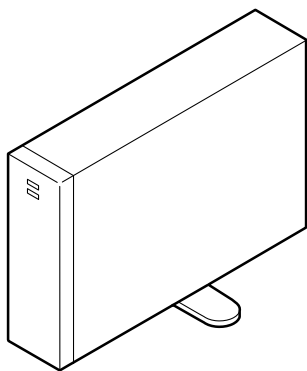
フォーマットのしかた→このPARTの「ハードディスクをフォーマットする」(p.92) ハードディスクに添付のマニュアル

用意するもの

作業を始める前に、あらかじめ、市販の外付け用ハードディスクやSCSIインターフェイスボードなどを購入して、用意しておきます。

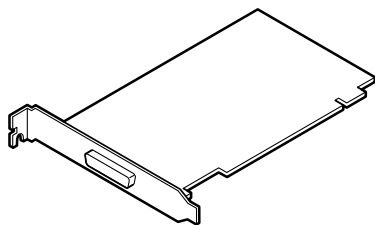
●ハードディスク

市販の「SCSIインターフェイス対応」の外付け用ハードディスクを用意します。容量や性能、大きさ、形などの違いにより、さまざまな種類のハードディスクがありますので、用途に合わせて、適切なものを選びましょう。



●SCSIインターフェイスボードなど

ハードディスクをパソコン本体に接続するために、市販のSCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブル、ターミネータ(終端BOX)などが必要です。PART9の説明や機器に添付のマニュアルをご覧ください。SCSIインターフェイスボードにはPCカードスロットにセットできるタイプ(SCSIカード)もあります。



●ハードディスクやボードのマニュアル

ハードディスクとSCSIインターフェイスボードの組み合わせによっては、うまく接続できなかったり、専用の変換コネクタが必要になったりするので、購入する前にお店で確認してください。

📖 参照

SCSIインターフェイスボード→
「PART9 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.79)

本体にハードディスクを接続する

パソコン本体に SCSI インターフェイスボードを取り付けた後で、ボードの SCSI コネクタにハードディスクを接続します。

1

本体とハードディスクの電源が切れていることを確認する

2

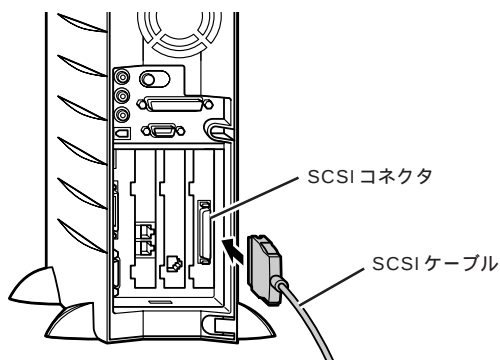
正しい手順で、本体に SCSI インターフェイスボードを取り付け、必要な設定を行う

3

接続しようとするハードディスクの SCSI IDを確認し、必要ならば設定を変更する
0 ~ 6 のいずれかの番号に設定します。他の SCSI 機器も接続している場合には、それらの機器の番号と重複しないように気をつけてください。

4

本体に取り付けた SCSI インターフェイスボードの SCSI コネクタに SCSI 機器接続ケーブルのプラグを差し込む



外付け用のハードディスクを増設するときには、必ずハードディスクに付属のマニュアル、SCSI インターフェイスボードに付属のマニュアルもご覧ください。

✓チェック!!

SCSI インターフェイスボードを取り付ける際は、本体のカバーを開けて作業します。

📖参照

SCSI インターフェイスボードの取り付けと設定→「PART9 SCSI インターフェイス対応機器を使う」(p.79)

SCSI 機器は、SCSI ID という 0 ~ 7 の番号で装置を識別します。ハードディスクにはこの番号を設定するボタンが付いているので、それを使って設定してください。

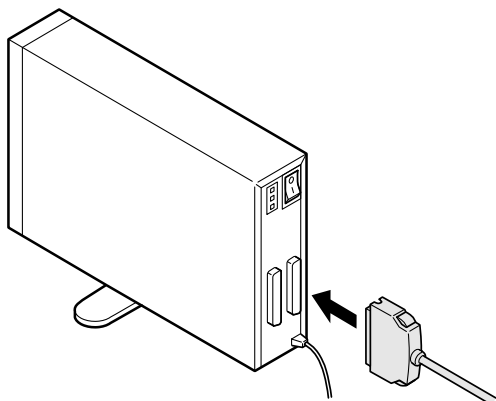
✓チェック!!

SCSI 機器接続ケーブルのプラグは、逆向きに差し込めないようになっています。向きをよく確認して、無理に押し込まないようにしてください。

コネクタによっては、左右のフックでプラグが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

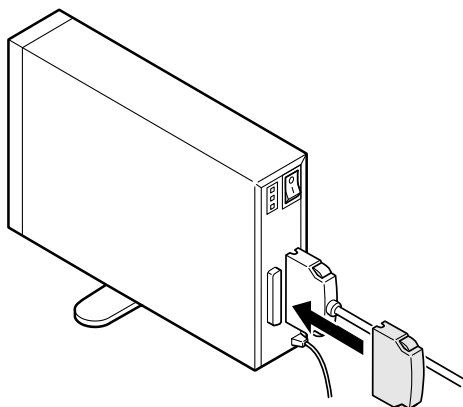
5

増設ハードディスクのSCSIコネクタに、SCSI機器接続ケーブルのもう片方のプラグを差し込む



6

増設ハードディスクの残りのSCSIコネクタに、ターミネータを差し込む



7

必要に応じて、フォーマットの作業に進む

ハードディスクのSCSIコネクタは通常2つ用意されています。どちらのコネクタを使ってもかまいません。

✓チェック!!

ハードディスクを接続するときは、ハードディスクに衝撃を加えないように十分取り扱いに気をつけてください。

📖 参照

ターミネータについては→PART9の「SCSIに関する基礎知識」(p.81)

✓チェック!!

ターミネータを取り付けないと、ハードディスクが正しく認識されない場合があります。

ハードディスクのフォーマットについては、ハードディスクに付属のマニュアルなどをご覧ください。

ハードディスクをフォーマットする

一般的に、ハードディスクは取り付けただけでは使えません。情報を保存するためにハードディスクの区画整理をして、番地をつける「フォーマット作業」が必要です。

ハードディスクのフォーマットは次の手順で行います。

領域作成の準備をする(→ p.94)

以前使っていたことのあるハードディスクを接続した場合は、あらかじめ、そのハードディスク内のすべての領域をいったん削除します。



領域を作成する(→ p.96)

パソコンで使用するハードディスクの領域を設定します。ひとつのハードディスクをいくつかの領域(パーティション)に分けて別のドライブのように扱うことができます。



増設したハードディスクを確認する(→ p.98)



ドライブをフォーマットする(→ p.99)

データをハードディスクに保存できるように区画ごとに番地をつけ、またどのデータをどこにしまったかを記録しておく、一覧表のようなものを作成します。



スキャンディスク(→ p.100)

ハードディスクに壊れている部分がないかどうか、問題なく使えるかどうかをチェックします。破損している部分が見つかった場合には、自動的にその部分を使わないように設定します。

フォーマットには時間がかかります。そのため、フォーマット済みの状態で販売しているハードディスクもあります。この場合にはフォーマットの作業は必要ありません。ハードディスクのマニュアルで確認してください。

チェック!!

すでに使用されているハードディスクをフォーマットすると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。必要なデータは、CD-R、CD-RW、MOディスクなどにバックアップしておいてください。

参照

バックアップ→『使っておぼえるパソコンの基本』前編PART6の「大切なデータの保管方法」、『困ったときのQ & A』PART1の「データとインターネット設定のバックアップ」
「添付ソフトの使い方」・「バックアップ-NX」

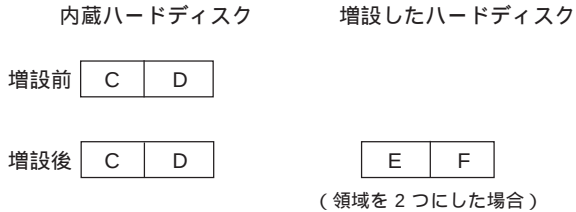
チェック!!

- ・すでにPC-9800シリーズ用にフォーマットされているときでも、もう一度領域を作成しフォーマットする必要があります。
- ・ハードディスクのボリュームラベルが全角文字または半角カタカナで入力されているときは、領域の削除ができません。「マイコンピュータ」でハードディスクドライブのアイコンを右クリックして、「プロパティ」で半角英数字に入力し直すかボリュームラベルを削除してください。
- ・本体内蔵ハードディスク内に論理MS-DOSドライブを持たない拡張MS-DOS領域があるときは、ハードディスクを増設する前に削除してください。

増設したドライブのドライブ名について

ハードディスクを増設したときに、通常(基本 MS-DOS 領域を作成しない場合)は、あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクの最後のドライブ名に続けてドライブ名が割り当てられます。

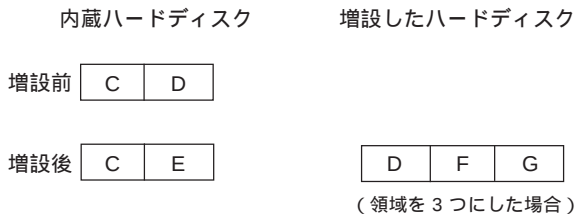
基本 MS-DOS 領域を作成しない場合



ハードディスクの領域を確保するときに基本 MS-DOS 領域を作成した場合は、複数の領域を作成したドライブのドライブ名が変更されます。以下の順序でドライブ名が割り当てられますので、ハードディスクを増設した後は、ハードディスクのドライブ名を一度確認してください。

内蔵ハードディスクの先頭ドライブ
 増設したハードディスクの先頭ドライブ
 内蔵ハードディスクの残りのドライブ
 増設したハードディスクの残りのドライブ

基本 MS-DOS 領域を作成する場合



ハードディスクを増設してドライブ番号が追加されると、CD-R/RW with DVD-ROM ドライブ(購入時は E ドライブ)などのドライブ番号も変更されます。CD-R/RW with DVD-ROM ドライブを指定するようなアプリケーションをお使いの場合は注意してください。

領域作成の準備をする

1

ハードディスクの電源を入れる

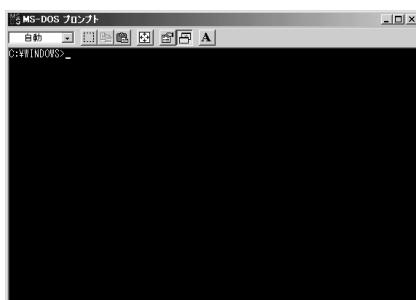
2

パソコンの電源を入れる

3

「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」-「アクセサリ」にポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックする

MS-DOSプロンプトの画面が表示される



4

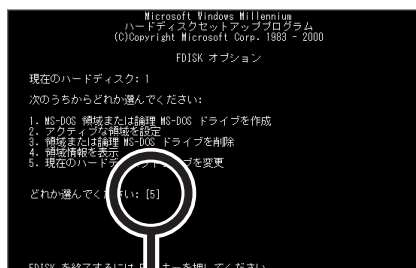
(8.4Gバイト以下のハードディスクの場合)
キーボードからFDISK /xと入力し、【Enter】を押す
(8.4Gバイトを超えるハードディスクの場合)
キーボードからFDISK と入力し、【Enter】を押す

「大容量ディスクのサポートを可能にしますか(Y/N)」と表示される。

5

キーボードからYを入力し、【Enter】を押す

「FDISK オプション」の画面が表示される



6

キーボードから5を入力し、【Enter】を押す

✓チェック!!

手順4でのハードディスクの容量は
1Gバイト=1,000,000,000バイト換算です。

Yを選択すると、FAT32でフォーマットされます(ただし、512Mバイトより小さい領域を作成すると、ここでYを選択していてもFAT16でフォーマットされます)。Nを選択すると、FAT16でフォーマットされます(ただし、2,047Mバイト以下の領域しか作成できません)。なお、2,048Mバイト以上の領域は、FAT32でないと作成できません。

「現在のハードディスクドライブを変更」の画面が表示される。



7
増設したハードディスクの番号(通常は「2」)を入力し、【Enter】を押す

画面には接続されているハードディスクが一覧表示されます。この中から増設したハードディスクを探して、その番号を入力します。通常は「2」と入力します。

FDISK オプションの画面に戻る



いま入力した番号が「現在のハードディスク」の右に表示される

買ってきたばかりのハードディスクを接続して使うときは、以下の手順は不要です。このまま、次ページの「領域を作成する」に進んでください。以前使っていたハードディスクを接続した場合で、ハードディスクに領域が設定されているときは、手順8からの記述にしたがって領域を削除してください。

8
キーボードから 3 を入力し、【Enter】を押す

領域削除の画面が表示される。

9
キーボードから 2 を入力し、【Enter】を押す

「削除した拡張 MS-DOS 領域のデータはなくなります。続けますか (Y/N)」と表示される。

10
キーボードから Y を入力し、【Enter】を押す

「拡張 MS-DOS 領域を削除しました。」と表示される。

11
キーボードの【Esc】を押す

FDISK オプション画面が表示される。

✓チェック!!

「1」は、あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクです。ドライブをまちがえないように、十分注意してください。

✓チェック!!

すでに使用しているハードディスクの領域を削除すると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。十分気をつけてください。

論理ドライブが設定されているときは、手順9の前に3を入力し、拡張MS-DOS領域内の論理MS-DOSドライブをすべて削除してください。また、基本MS-DOS領域が設定していれば、手順11のあとにそれも削除してください。

✓チェック!!

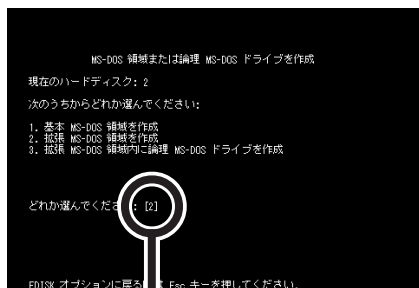
FDISKを終了しないで次の手順に進んでください。

領域を作成する

1

キーボードから 1 を入力し、【Enter】を押す

右のような画面が表示される



2

キーボードから 2 を入力し、【Enter】を押す

「領域のサイズをMバイトが全体に対する割合(%)で入力してください。拡張 MS-DOS 領域を作ります」と表示される。

3

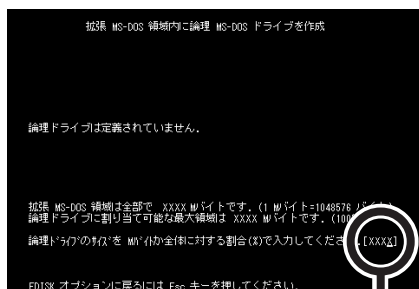
キーボードの【Enter】を押す

「拡張 MS-DOS 領域を作成しました。」と表示される。

4

キーボードの【Esc】を押す

作成するドライブのサイズを入力する画面が表示される



5

サイズを入力して、【Enter】を押す

「論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました」と表示される。

✓チェック!!

領域作成の途中で電源を切ったりすると、ハードディスクが使えなくなってしまうこともありますので、気をつけてください。

「領域作成の準備をする」の手順5で N を入力したとき、ひとつの領域の大きさは 2,047M バイトまでです。それより大きなハードディスクを使う場合には、領域を分けて作成します。

6

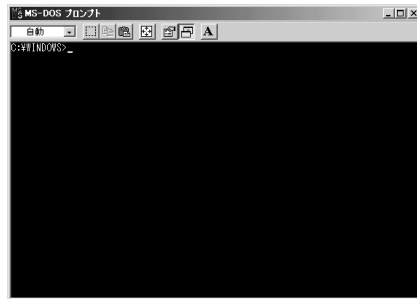
拡張 MS-DOS 領域がなくなるまで手順 5 を繰り返し、すべての拡張 MS-DOS 領域を論理ドライブに割り当てる

「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています」と表示される。

7

キーボードの【Esc】を 3 回押す

MS-DOS プロンプト
の画面に戻る



8

キーボードから EXIT と入力し、【Enter】を押す

Windows Me の画面に戻る。

9

「スタート」をクリックし、「Windows の終了」をクリックする

「Windows の終了」画面が表示される。

10

「再起動」を選択し、「OK」をクリックする

Windows Me が再起動する。

ここで、新しく作成した論理ドライブ名をメモにひかえておいてください。フォーマットするときに必要です。

ハードディスクの領域

拡張 MS-DOS 領域

D	E	
---	---	-------

論理 MS-DOS ドライブ

参照

ハードディスクの増設によるドライブ名の変更について→このPARTの「増設したドライブのドライブ名について」(p.93)

増設したハードディスクを確認する

ハードディスクを増設したあとでWindowsのマイコンピュータを見ると、増設した分だけ、ハードディスクアイコンが増えて表示されます。

1



「マイ コンピュータ」をダブルクリックする

2

増設した分だけハードディスクアイコンが増えていることを確認する



「領域を作成する」(p.96)の手順で、増設したハードディスクを複数の領域に分割した場合は、その分だけハードディスクアイコンも多く表示されているはずです。

もしも表示されていない場合は、増設に失敗しています。

もう一度、「領域作成の準備をする」(p.94)の手順からやり直してみてください。

または、ケーブルが正しく接続できているか、確認してください。

ドライブをフォーマットする

続いてWindows Meで、増設したハードディスクをフォーマットします。

データをハードディスクに保存できるように、Windows Meで区画ごとに番地をつけ、またどのデータをどこにしまったかを記録しておく、一覧表のようなものを作成します。



2 「ファイル」をクリックし、「フォーマット」をクリックする

フォーマットの画面が表示される。



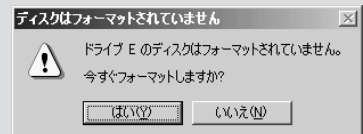
3 「通常フォーマット」をクリックする

4 「開始」をクリックする

✓チェック!

すでに使用されているドライブをフォーマットすると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。十分気をつけてください。

増設したドライブが、どれかわからない場合には、マイコンピュータのハードディスクのアイコンを次々とダブルクリックしてみてください。増設したハードディスクの場合には、未フォーマットであることを示すウィンドウが表示されます。



このウィンドウが表示されたら、「いいえ」をクリックし、ウィンドウを閉じてください。

確認の画面が表示される。



5

「OK」をクリックする

しばらくするとフォーマットが終了し、フォーマットの結果が表示される。



6

「閉じる」をクリックする

スキャンディスクの実行をうながす画面が表示される。



7

「OK」をクリックする

Windows のヘルプが表示される。

8

表示されたヘルプの内容にしたがってスキャンディスク
を実行する

9

「フォーマット」の画面をクリックする

10

「閉じる」をクリックする

スキャンディスクが正常に終了したら、フォーマット作業は終わりです。

スキャンディスクは、ハードディスクに壊れている部分がないか、問題なく使えるかをチェックするものです。破損している部分が見つかった場合には、自動的にその部分を使わないように設定します。

P A R T

11

機器を取り付けた後で

手順通りに作業したのに周辺機器が使えないときや、パソコンが動かなくなったといったときには、このPARTを読んでみてください。

- 困ったときのチェックポイント
- リソースに関する問題

困ったときの チェックポイント

増設した周辺機器やパソコンがうまく動かないときは、次の点をチェックしてみてください。

● 周辺機器に添付のマニュアルに沿って正しく取り付けましたか？

周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しく取り付けたか、正しく設定したかももう一度確認してください。またそのマニュアルにQ&A情報があれば参照してください。

● 電源は入っていますか？

外付けの周辺機器の場合には、取り付けた周辺機器の電源が入っていることを確認してください。

● 取り付けた周辺機器は、このパソコンで使えるものですか？

取り付けた周辺機器がこのパソコンで使えるものかどうか、周辺機器のマニュアルを読んだりメーカーへ問い合わせ、確認してください。

また、その機器がWindows Meに対応しているかも確認してください。

● ケーブルは正しく接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンや周辺機器を動かしたときなどに、ケーブルが外れたり、ずれたりしていることがよくあります。ケーブルがきちんと接続されているか、確認してください。

● 本体内部のケーブル類はきちんと接続されていますか？

本体内部に機器を取り付けたときに、気づかないうちに内部の信号ケーブルなどを引っぱって、接続がゆるんでしまうことがあります。本体内部のケーブル類がきちんと接続されているかどうか、確認してください。

● ドライバは組み込みましたか？

周辺機器によっては、機器を取り付けた後、パソコン側にドライバ(やソフト)を組み込む必要のあるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しくドライバを組み込んでください。

ドライバの情報は、このパソコンの「サポートセンタ」にあります。また、このパソコンに入っている追加情報や周辺機器のReadmeファイルに書いてあることがあります。

周辺機器のドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることもあります。「ドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、ドライバを最新ののものにするとうまく動くようになることもあります。周辺機器のメーカーに問い合わせ、最新のドライバを入手してください。

📖 参照

・ドライバについて→PART2の「ドライバなどをインストールする」(p.25)

・このパソコンのドライバ情報→「サポートセンタ」-「トラブル解決Q&A」-「追加情報」-「周辺機器をしようとしたら...」

● 周辺機器を、一度に複数取り付けませんでしたか？

周辺機器を一度に複数取り付けると、不具合があったとき、原因究明が困難になります。このような場合は、取り付けた機器をいったん全部外し、1つずつ取り付けてパソコンの動作を確認してください。

● 設定はしましたか？

接続したあとで設定の必要な機器もあります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、設定をしてください。

● 他の機器とリソースが競合していませんか？

システムのリソースが足りない場合、他の使用していないリソースを一時的に外し、そのリソースを割り当てる必要があります。リソースの割り当ては、デバイスマネージャを使って変更します。

📖 参照

リソースの問題について→次のページの「リソースに関する問題」、「サポートセンタ」-「トラブル解決Q&A」-「周辺機器」またはWindowsの「ヘルプとサポート」

● 機器を取り外すときに正しい手順で取り外しましたか？

タスクトレイにが表示されている機器は、正しい手順で取り外さないと正常にパソコンや機器が動作しなくなることがあります。

● 休止状態またはスタンバイ状態のときに、周辺機器の取り付け/取り外しをしませんでしたか？

休止状態またはスタンバイ状態のときに、周辺機器の取り付け/取り外しを行うと、休止状態またはスタンバイ状態にする前の内容が失われたり、復帰できなかったりすることがあります。周辺機器を休止状態またはスタンバイ状態にする前の状態に戻してから、電源を入れ直してください。

リソースに関する問題

パソコンには、周辺機器が使用するための「リソース」という概念があります。ここでは、少しでもこのリソースについて説明します。

リソースって何？

リソースは、パソコンの中心となる「CPU」と周辺機器が、円滑に情報をやりとりするために必要な設定項目です。大きく「割り込みレベル(IRQ)」、「DMAチャネル」に分けられます。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定を割り当てなければいけませんが、リソースの数は限られており、このパソコンのご購入時には、すでにいくつかのリソースが使用されています。周辺機器を増設したら、それらの機器に空いているリソースを割り当てることになるのです。

✓チェック!!

リソースについて詳しく知りたい方は、市販のWindowsの解説本やパソコン専門誌などをご覧ください。

📖参照

ご購入時のリソースの割り当て → PART 14 の「このパソコンが使用しているリソース」(p.134)

リソースの競合とは

周辺機器を増設した際、通常は、パソコン(Windows)が自動的にこれらのリソースの設定を管理するので、自分で設定を変更したり、確認する必要はほとんどありません。

ところが、機器によっては、パソコンまかせだとうまく設定できないことがあります。設定がうまくできずに、同じリソースが複数の機器に重複して割り当てられている状態を「リソースの競合」といいます。リソースが競合していると、機器が正常に使用できなかったり、システム全体の動作が不安定になってしまいます。

Windowsなどでは、ひとつの割り込みレベルを複数の機器で使用できることがあります。このようにリソースを共有することを「リソースをシェアする」と表現します。この場合は、そのまま機器を利用できます。

増設したPCIボードや周辺機器にリソースの競合が起こっているかどうかは、「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」で調べることができます。

アイコンに「！」が付いて表示されている



デバイスマネージャを表示したときに、その機器のアイコンに「！」マークや「×」マークが付いていたら、その機器の「プロパティ」を表示してみます。「デバイスの状態」の欄に「競合」を示すメッセージが表示されていたら、リソースが競合しています。

✓チェック!!

ご購入時の状態では、次の箇所にマークがついていますが問題ありません。

- ・PS/2 互換マウスポートに黄色の「！」
- ・「ネットワークアダプタ」-「Microsoft 仮想プライベートネットワークアダプタ」に赤色の「×」
- ・USB 互換デバイスに緑色の「？」(ワイヤレスキーボードのみ)

リソースが競合していたら

増設した周辺機器のリソースが競合していて使えないときは、リソースの割り当てを変更する必要があります。

たとえば、当面使わない機器を一時的に「使用しない」設定に変えることで、その機器が使用していたリソースを解放して、増設した周辺機器に割り当て直すことができます。また、競合している相手の機器のリソースの割り当てを変更することで使用できるようになる場合もあります。

リソースの割り当ての変更やリソースの解放は、デバイスマネージャで行います。

✓チェック!

- ・リソースの競合などを避けるため、ある機器のリソースを解放すると、その機器は使えなくなります。再びその機器を使う場合には、リソースを設定し直してください。
- ・機器によっては、リソースの割り当て方に制限がある場合があります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

デバイスのリソース設定の変更

通常、プラグ&プレイ対応のデバイスは、デバイスマネージャによって、自動的に設定されています。リソース設定が変更できないデバイスはそのままにして、変更できるデバイスを設定変更します。

ここではプリンタポートのリソースを変更してみます。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックして「コントロールパネル」を開きます。
- 2 「システム」をダブルクリックします。



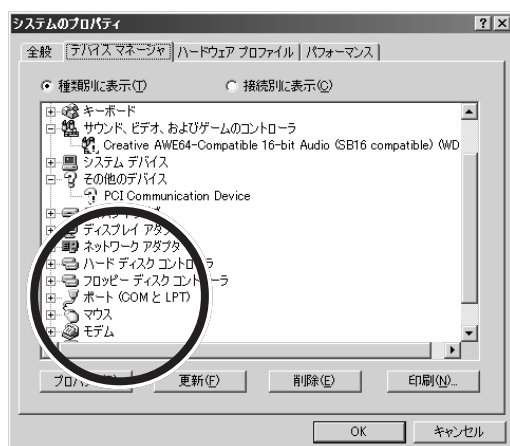
✓チェック!

コントロールパネルに「システム」が表示されていないときは、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

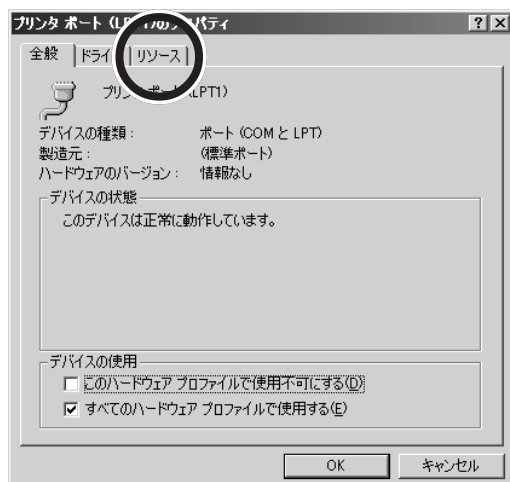
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。



- 4 「ポート (COM と LPT)」をダブルクリックします。



- 5 「プリンタポート (LPT1)」をダブルクリックします。
- 6 「リソース」タブをクリックします。



「リソース」タブが表示されます。

参照

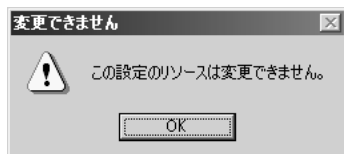
このパソコンのリソースについて → PART14 の「このパソコンが使用しているリソース」(p.134)

7 「自動設定」のチェックを外します。



「設定の変更」ボタンが有効になります。

ここで、「リソースの種類」から変更したい「I/O の範囲」または「割り込み要求」をクリックして、「設定の変更」をクリックすると、リソースの変更ができます。ただし、次のようなメッセージが表示されたデバイスは、リソースの変更はできません。



チェック!

デバイスによっては、readme ファイル(「はじめにお読みください」)に変更方法が記載されていることがあります。

P A R T

12

ハードウェアの活用術

ここでは、マウス、キーボード、ハードディスクなど、このパソコンのハードウェアを使うときのポイントについて説明しています。

- マウス
- キーボード
- ハードディスク
- 省電力機能

マウス

スクロールボタンを使って画面を上下左右にスクロールすることができます。

✓チェック!!

コントロールパネルの「マウスのプロパティ」画面では、ダブルクリックの速さの調整、マウスポインタの形の変更や動きの調整、左ききの方のためのマウスの設定などができます。

📖 参照

- ・マウスの使い方について→「パソコンのいろは」、『使っておぼえるパソコンの基本』後編の「マウス」
- ・マウスの設定→🖱️「添付ソフトの使い方」-「マウスの設定」

スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、画面を上下左右にスクロールさせたり、画面を拡大縮小させることができます。

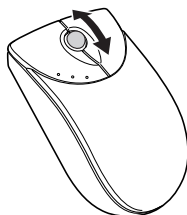
✓チェック!!

スクロールボタンの機能に対応していないアプリケーションではスクロールボタンは使えません。

画面を上下方向にスクロールする

アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックしてアクティブにする。

スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く。

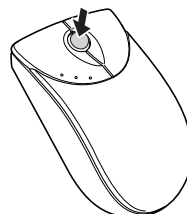


前方に押すと画面が上にスクロールし、手前に引くと画面が下にスクロールします。
スクロールボタンを押しつづけると、画面が連続的にスクロールします。

画面を上下、左右方向にスクロールする

スクロールさせたい画面にマウスポインタを移動する。

スクロールボタンを真下に押す。

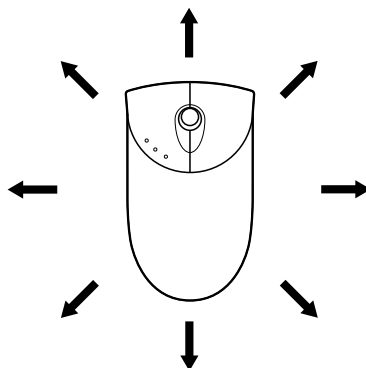


マウスポインタの形が🖱️や🖱️のように変わります。

✓チェック!!

スクロールボタンは、真下に押し込むようにしてください。スクロールボタンを前後に動かすと、通常の上下のスクロールになります。

🖱️や🖱️が表示されたらスクロールしたい方向にマウスを動かす。



マウスを動かした方向に画面がスクロールしていきます。

もう一度スクロールボタンを押すと、マウスポインタの形が元に戻ります。

✓チェック!!

・アプリケーションによってスクロールできる方向は異なります。

・🖱️が表示されているときは上下にだけスクロールすることができます。

ズーム機能を使う

✓チェック!

アプリケーションによっては、この機能は使えません。

拡大、縮小したい画面にマウスポインタを動かす。

キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く。

前方に押すと画面の表示が拡大し、手前に引くと画面の表示が縮小します。

キーボード

各キーの名称と一般的な機能を説明します。

参照

キーボードの使い方、日本語入力のしかた→「パソコンのいろは」、『使っておぼえるパソコンの基本』後編の「文字入力」

チェック!

スタートメニューに「VALUESTARを使う準備をします」があると、このパソコンに日本語入力できる準備ができていないため、日本語入力できません。スタートメニューにある場合は、「スタート」ボタン→「VALUESTARを使う準備をします」をクリックして画面の指示にしたがって操作し、このパソコンを使う準備を完了させてください。

キーの役割

一般的なキーの役割です。

キーボードのキーは、一般的に次のように2種類に分けられます。

・文字を入力するキー

英数字やカタカナ、記号などの文字を入力します。下の図で白くなっている部分のキーです。

・コンピュータに指示を与えるためのキー

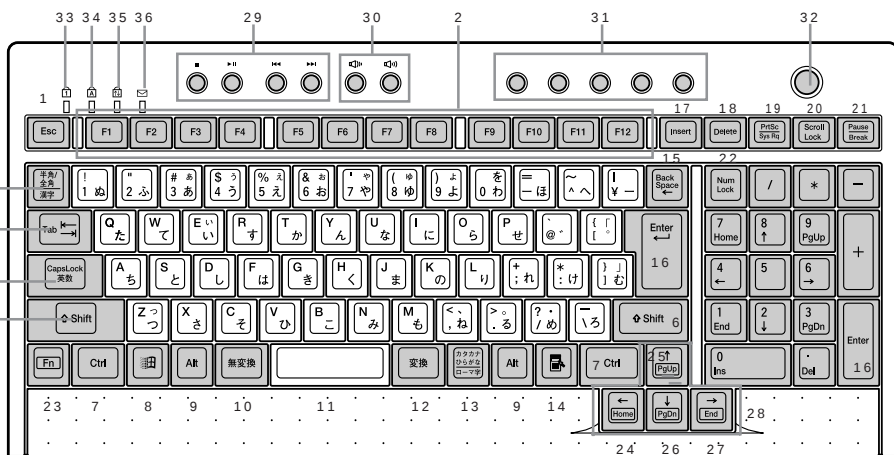
コンピュータに直接指示を与えるためのキーです。下の図でグレーの色が付いている部分のキーです。

このキーの働きは、お使いになるアプリケーションによって違います。詳しくは、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

キーの名称

キーボード正面

- 1 【Esc】: エスケープキー
- 2 【F1】～【F12】: ファンクションキー
- 3 【半角 / 全角 / 漢字】: 半角 / 全角 / 漢字キー
- 4 【Tab】: タブキー
- 5 【CapsLock】: キャップスロックキー
- 6 【Shift】: シフトキー
- 7 【Ctrl】: コントロールキー
- 8 【】: Windows キー
- 9 【Alt】: オルトキー
- 10 【無変換】: 無変換キー
- 11 スペースキー
- 12 【変換】: 変換キー
- 13 【カタカナ / ひらがな / ローマ字】: カタカナ / ひらがな / ローマ字キー
- 14 【】: アプリケーションキー
- 15 【BackSpace】: バックスペースキー
- 16 【Enter】: エンターキー
- 17 【Insert】: インサートキー
- 18 【Delete】: デリートキー
- 19 【PrtSc/SysRq】: プリントスクリーンキー / システムリクエストキー
- 20 【ScrollLock】: スクロールロックキー



- 21 【Pause/Break】: ポーズ / ブレークキー
- 22 【NumLock】: ニューメリックロックキー
- 23 【Fn】: Fn キー
- 24 【Home/ ←】: ホームキー / カーソルキー
- 25 【PgUp/ ↑】: ページアップキー / カーソルキー
- 26 【PgDn/ ↓】: ページダウンキー / カーソルキー
- 27 【End/ →】: エンドキー / カーソルキー
- 28 【↑】【↓】【←】【→】: カーソルキー
- 29 CD/DVD プレーヤボタン
- 30 ボリュームボタン
- 31 ワンタッチスタートボタン
- 32 電源スイッチ(ワイヤレスキーボードの場合)または
【スリープ】ボタン(USBキーボードの場合)
- 33 ニューメリックロックキーランプ
- 34 キャップスロックキーランプ
- 35 スクロールロックキーランプ
- 36 メール着信ランプ

USBキーボード
のみ

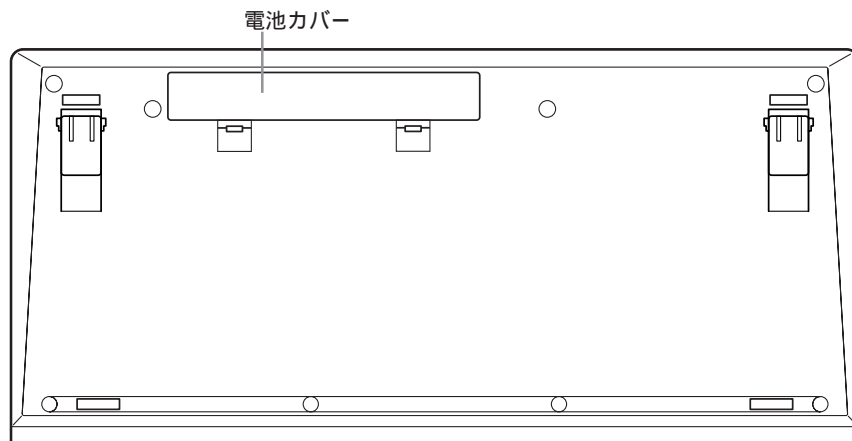
キーボード裏面(USB キーボードの場合)

キーボード裏面には、USBコネクタが2つあります。
このコネクタには、添付のマウスをはじめとする
USB 対応機器が接続できます。

✓チェック!!

この USB コネクタには、限られた機器しか接続でき
ません。接続できる機器については、「PART3 USB
対応機器を使う」(p.35)をご覧ください、確認してくだ
さい。

キーボード裏面(ワイヤレスキーボードの場合)



キーのロック

【NumLock】と【CapsLock】がロックされているか
いないかでキーの機能は異なります。
ロック状態は【NumLock】ではキーを押すたびに、
【CapsLock】は【Shift】を押したままキーを押すと
切り替わります。

それぞれのキーがロックされているときには、液晶
ディスプレイ正面のランプ(ワイヤレスキーボードの
場合)またはキーボード正面のランプ(USBキーボ
ードの場合)が点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【NumLock】	テンキーから数字が入力できます。	テンキーの数字の下に表示されている 機能が使えます。
【CapsLock】	アルファベットが表示されているキー を押すと大文字が入力されます。	アルファベットが表示されているキー を押すと小文字が入力されます。

アプリケーションキーとWindows キーについて

アプリケーションキーとWindows キーはWindows Me で使用できるキーです。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、標準で次のような機能が割り当てられています。

■ アプリケーションキー ()

アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じ状態になります。

■ Windows キー ()

Windows キーを押すと、「スタート」メニューが表示されます。

Windows キーを押しながら次のキーを押すと、次のような機能を利用することができます。

- | | |
|--|---|
| 【  】 + 【 R 】 | 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示する |
| 【  】 + 【 M 】 | 現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する |
| 【 Shift 】 + 【  】 + 【 M 】 | 【  】 + 【 M 】でアイコン化しているウィンドウを元に戻す |
| 【  】 + 【 F1 】 | Windows のヘルプを起動する |
| 【  】 + 【 F 】 | ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する |
| 【 Ctrl 】 + 【  】 + 【 F 】 | コンピュータを検索するウィンドウを表示する |
| 【  】 + 【 Tab 】 | タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える |

✓ チェック!!

キーボードの詳細な設定については、コントロールパネルの「キーボードのプロパティ」ウィンドウまたは「テキストサービス」ウィンドウ(Office XPモデルの場合)で行います。

📖 参照

キーボードの設定 →  「添付ソフトの使い方」-「キーボードの設定」

Fn キーについて

Fn キーを押しながら次のキーを押すと、キーの役割を変えることができます。

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 【 Fn 】 + 【 Pause 】 | 【 Break 】を押したときと同じです () |
| 【 Fn 】 + 【 PrtSc 】 | 【 SysRq 】を押したときと同じです () |
| 【 Fn 】 + 【 ← 】 | 【 Home 】を押したときと同じです。 |
| 【 Fn 】 + 【 → 】 | 【 End 】を押したときと同じです。 |
| 【 Fn 】 + 【 ↑ 】 | 【 PgUp 】を押したときと同じです。 |
| 【 Fn 】 + 【 ↓ 】 | 【 PgDn 】を押したときと同じです。 |

() の操作ができるのは、ワイヤレスキーボードのみです。

✓ チェック!!

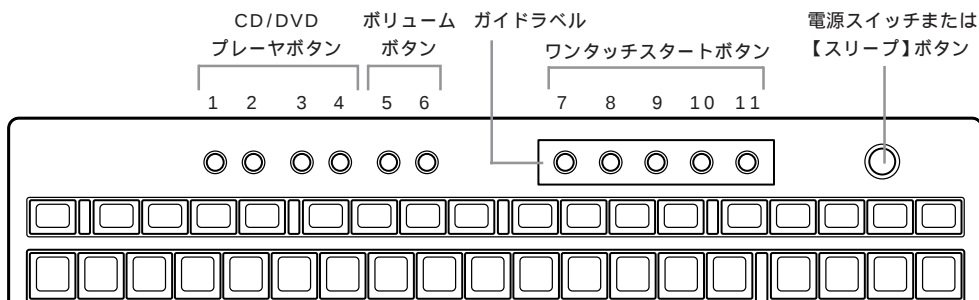
キーボードの詳細な設定については、「キーボードのプロパティ」画面で設定します。「キーボードのプロパティ」ウィンドウでは、文字入力やカーソル点滅の速度の調整、日本語入力システムの設定などができます。

📖 参照

「キーボードのプロパティ」で設定する →  「添付ソフトの使い方」-「キーボードの設定」

ワンタッチスタートボタンの名前と役割

キーボード上部にある、ボタンを押すだけでアプリケーションを起動できるボタンを「ワンタッチスタートボタン」といいます。「CD/DVD プレーヤボタン」「ボリュームボタン」「ワンタッチスタートボタン」はキーボード上部に並んでいます。



CD/DVD プレーヤボタン

音楽CDやフォトCD、カラオケCD、ビデオCD、DVD-Videoディスクなどの再生をコントロールできます。

各ボタンの役割は次のとおりです。

- 1 【■】: 停止
- 2 【▶▶】: 再生 / 一時停止
- 3 【◀◀】: 前のトラック / 巻き戻し
- 4 【▶▶】: 次のトラック / 早送り

✓チェック!

- ・このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」は削除しないでください。CD/DVD プレーヤボタンの一部の機能が利用できなくなります。
- ・CD-R/RW モデルでは、DVD-Video ディスクは再生できません。

ボリュームボタン

パソコンから出る音楽CDやビデオCDなどの音の大きさを調節できます。

各ボタンの役割は次のとおりです。

- 5 【◀】: ボリュームダウン
- 6 【▶】: ボリュームアップ

ワンタッチスタートボタン

- 7 【メール】ボタン
このボタンを押すと、「Outlook Express」が起動します(ご購入時の状態では、メールボタンのご案内が表示されます)。
- 8 【インターネット】ボタン
このボタンを押すとインターネットエクスプローラが起動します(ご購入時の状態では、「インターネット無料体験」がスタートします)。
- 9 【サポート】ボタン
このボタンを押すと、「サポートセンタ」が起動します。
- 10 【121ware】ボタン
このボタンを押すと、NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」を見ることができます。
- 11 【ユーザ】ボタン
購入時には何も登録されていません。好きなアプリケーションを登録できます。

電源スイッチ(ワイヤレスキーボードの場合)

パソコン本体の電源を入れるスイッチ。休止状態からの復帰にも利用します。なお、電源を切るときは、Windows Meの「スタート」メニューで「Windowsの終了」をクリックして「終了」を選んで「OK」をクリックします。電源スイッチを切る/入れる操作はコンピューターに負担をかけるので、少なくとも5秒以上の間隔をあけてください。

✓チェック!

電源スイッチを4秒以上押し続けると強制終了しますので注意してください。

【スリープ】ボタン(USB キーボードの場合)

パソコン本体をスタンバイ状態にします。

ガイドラベル

ワンタッチスタートボタンにどんなアプリケーションが割り当てられているかを示すラベルです。

✓チェック!

- ・Windows Meのセーフモードなど、Windows Meのキーボードドライバが動作しない状態では、CD/DVD プレーヤボタン、ボリュームボタン、ワンタッチスタートボタン、電源スイッチ(または【スリープ】ボタン)の機能は使えません。
- ・【メール】ボタンと【インターネット】ボタンは、「インターネットするならBIGLOBE(BIGLOBE インターネット接続ツール)」を使ってBIGLOBEに入会すると、【メール】ボタンではOutlook Express が起動するようになり、【インターネット】ボタンではBIGLOBE かんたん接続ナビで接続した後、インターネットエクスプローラが起動するようになります。それ以外の方法でプロバイダに入会した場合に【メール】ボタンと【インターネット】ボタンでOutlook Express とインターネットエクスプローラを起動させるには、ワンタッチスタートボタンの設定が必要です。

📖 参照

ワンタッチスタートボタンの設定 → 添付ソフトの使い方 - 「ワンタッチスタートボタンの設定」

PC-9800 シリーズの キーボードとのキーの違い

PC-9800シリーズに添付されているキーボードとこのパソコンのキーボードとのキーの違いは以下のとおりです。

PC-9800シリーズのキーボード	本機のキーボード	備 考
【リターン】	【Enter】	
【GRPH】	【Alt】	
【BS】	【BackSpace】	
【STOP】	【Pause】	
【CAPS】	【Shift】+【CapsLock】	大文字
【CTRL】	【Ctrl】	
【DEL】	【Delete】	
【ESC】	【Esc】	
【f・1】-【f・10】	【F1】-【F10】	
【vf・1】-【vf・2】	【F11】-【F12】	
【INS】	【Insert】	
【SHIFT】	【Shift】	
【COPY】	【PrtSc】	
【TAB】	【Tab】	
【XFER】	【変換】	
【NFER】	【無変換】	
【CTRL】+【XFER】	【Alt】+【半角/全角】 または【半角/全角】	日本語入力
【かな】	【Ctrl】+【英数】	

ハードディスク

ここでは、このパソコンに内蔵のハードディスクの使用上のポイントについて説明しています。

概要

ハードディスクは、外部記憶装置のひとつです。正確に表現すれば、実際に磁器を利用してデータを記録する円盤(ディスク)と、ディスクを高速に回転させて、データの読み書きをするヘッドやアーム、モーターなどからなる装置全体を指し、ハードディスク装置といえます。ディスクと磁気ヘッドなどの装置は、密封された容器に収められているために、他の外部記憶装置のメディアのように、記憶媒体(ディスク)自体を単独で取り出すことはできません。しかし、ディスクを高速で回転できるために、フロッピーディスクや光磁器ディスクなどに比べて、読み書きするスピードは格段に速くなります。

ハードディスクは外部記憶装置のひとつには違いますが、CPUやメモリとともに、パソコンの中心的存在です。オペレーティングシステム(OS)やアプリケーションソフトなどは、すべてハードディスクに格納されます。ハードディスクのドライブ名は、通常は「C」や「D」です。Cドライブには、Windowsをインストールします。

ハードディスクの取り扱い上の注意

ハードディスクは、たいへん精密な機械です。取り扱いには、次のことに十分注意してください。

- ・電源が入っているときは、本体に振動や衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。
- ・電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。
- ・電源を切るときは、『はじめにお読みください』の「電源の入れ方と切り方」で説明されている手順に従ってください。
- ・温度・湿度条件を守ってください。
温度 10 ~ 35、湿度 20% ~ 80%(ただし、結露しないこと)
- ・ゴミやホコリの多い場所での使用・保管は避けてください。

参照

ハードディスクを増設する→「PART10 ハードディスクを増設する」(p.87)

ハードディスク内のデータのバックアップはこまめにとる

このパソコンに内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしが空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして消滅してしまい、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。

参照

バックアップ→『使っておぼえるパソコンの基本』前編PART6の「大切なデータの保管方法」、『困ったときのQ & A』PART1の「データとインターネット設定のバックアップ」 添付ソフトの使い方「バックアップ-NX」

省電力機能

パソコンを使っていないときに、消費電力を節約する省電力機能について説明します。

概要

作業を中断したいことがあるたびにパソコンの電源を切る場合、電源を切る前にデータを保存したり、次に電源を入れたときにWindowsが起動するのに時間がかかるなど手間が多いものです。このパソコンには、こうした手間をかけずに消費電力を抑え、すぐに作業を再開できる「省電力機能」があります。

電源の状態

パソコンの電源の状態には、次の4種類があります。

●電源が入っている状態

パソコンの電源を入れて、Windowsが起動している状態です。

●電源が切れている状態

Windowsを終了して、パソコンの電源を切った状態です。

●休止状態

作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずにパソコンの電源を切ります。消費電力は、Windowsを終了してパソコンの電源を切ったときとほとんど同じです。普通に電源を切るのとは異なり、Windowsを終了せずに電源を切るため、休止状態から元の状態に戻すときにWindowsが起動する時間は省かれます。ただしスタンバイ状態から元の状態に戻すよりも時間がかかります。

購入時には、マウスやキーボードを操作しなかったり、ハードディスクなどへのアクセスがない状態が20分以上続くと、自動的に「休止状態」になるように設定されています。

●スタンバイ状態

ディスプレイの表示を消し、ハードディスクの電源を切りますが、パソコンの電源は完全に切れているわけではありません。作業中のデータをメモリに保存しているためわずかに電力を消費しますが、すぐに作業を再開できます。

このような、休止状態にする機能やスタンバイ状態にする機能などを「省電力機能」といいます。

省電力機能の特徴

	休止状態	スタンバイ状態
電力	スタンバイ状態に比べ消費しない	わずかに消費する
復帰までの時間()	約30秒	約20秒
こんなときに便利	長時間作業を中断するとき	すこしの間作業を中断するとき

() 復帰までの時間は、使用環境により異なるため、おおよその目安にしてください。

✓チェック!!

- ・アプリケーションによっては、休止状態のことを「ハイバネーション」、スタンバイ状態のことを「サスペンド」、休止状態やスタンバイから復帰させることを「レジューム」と呼ぶこともあります。
- ・Windows Meで電力を節約する機能を使うための電源管理のモードは、ACPIモードです。APMモードは使用できません。

用語

ACPIモード

ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)を使って電源の管理を行うモードです。ACPIとは、パソコンや周辺機器の電源の管理をOSで行うためのしくみです。

用語

APMモード

APM(Advanced Power Management)を使って電源の管理を行うモードです。APMとは、パソコンや周辺機器の電源の管理をBIOSやデバイスドライバなどのソフトウェアで行うためのしくみです。

電源ランプ、ディスプレイの表示

電源の状態によって、電源ランプ、ディスプレイの表示は次のように変化します。

●液晶ディスプレイセットモデルの場合

電源の状態	パソコン本体の電源ランプ	ディスプレイの電源ランプ	ディスプレイの表示
入っている	緑色に点灯する	緑色に点灯する	表示される
切れている	消灯する	消灯する	何も表示されない
休止状態	消灯する	消灯する	何も表示されない
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない

●CRTディスプレイセットモデルの場合

電源の状態	パソコン本体の電源ランプ	ディスプレイの電源ランプ	ディスプレイの表示
入っている	緑色に点灯する	緑色に点灯する	表示される
切れている	消灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない
休止状態	消灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない

別売のディスプレイの場合は、異なることがあります。

省電力機能を使う

休止状態やスタンバイ状態にできないとき

次のようなときには、休止状態やスタンバイ状態にできなかったり、休止状態やスタンバイ状態から復帰するときに作業前の内容が復元できなかったり、パソコンが正しく動作しなかったりします。このようなときは休止状態やスタンバイ状態にしないください。また、自動的に休止状態やスタンバイ状態になる設定も行わないください。

チェック!

このパソコンは、ご購入時には、マウスやキーボードからの入力やハードディスクへのアクセスがない状態が20分以上続くと、自動的に休止状態になるように設定されています。自動的に休止状態にならないようにするには、この項の「省電力の設定を変える」をご覧ください。

- ・休止状態またはスタンバイ状態に対応していないPCカード(LANカードを含む)を使用しているとき
 - ・SCSI インターフェイスを使って周辺機器を接続しているとき
 - ・プリンタが出力しているとき
 - ・音声や動画を再生しているとき
 - ・フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROMなどを読み書きしているとき
 - ・休止状態またはスタンバイ状態に対応していないアプリケーションや周辺機器を使っているとき
 - ・「デバイスマネージャ」でドライバなどの設定をしているとき
 - ・「プリンタウィザード」や「ハードウェアウィザード」、「モデムウィザード」を実行しているとき
 - ・モデムを使ってインターネットに接続しているとき
 - ・LANを使ってネットワークにアクセスしているとき
- また、休止状態やスタンバイ状態にする前の内容の記憶中または復元中に、次の操作を行わないください。
- ・フロッピーディスク、CD-ROM などを入れ替える
 - ・PCカードの抜き差しをするなど、このパソコンの環境を変更する

休止機能

● 休止状態にする

購入時の状態では、休止状態するには次の2つの方法があります。

- ・「Windowsの終了」ウィンドウで「休止状態」を選ぶ
「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック
「休止状態」を選び、「OK」をクリック

- ・一定時間後に自動的に休止状態にする
このパソコンは、ご購入時には、マウスやキーボードからの入力やハードディスクへのアクセスがない状態が20分以上続くと自動的に休止状態になるように設定されています。

参照

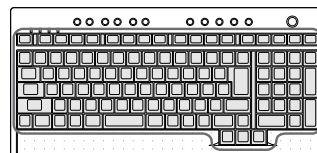
自動的に休止状態にならないように設定を変更する→この項の「省電力の設定を変える」(p.119)

● 休止状態にする前の状態に戻す

休止状態にする前の状態に戻すには、次の4つの方法があります。

- ・パソコン本体の電源スイッチを押す
- ・キーボードの電源スイッチを押す(ワイヤレスキーボードのみ)
- ・リモコンの【電源】ボタンを押す(液晶ディスプレイがセットのリモコン添付モデルのみ)
- ・FAX モデムによるリング機能を使う
パソコンに電話がかかってきたときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

このときパソコン本体は復帰しても画面がまっくらな場合は、マウスを動かすか、キーボードのいずれかのキー()を押してください。



()この中の
いずれかの
キー

スタンバイ機能

● スタンバイ状態にする

購入時の状態では、スタンバイ状態にするには次の方法があります。

- ・「Windows の終了」ウィンドウで「スタンバイ」を選ぶ

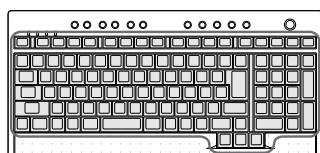
「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック

「スタンバイ」を選択して、「OK」をクリック

● スタンバイ状態にする前の状態に戻す

スタンバイ状態にする前の状態に戻すには、次の3つの方法があります。

- ・マウスを動かすか、キーボードのいずれかのキー()を押す

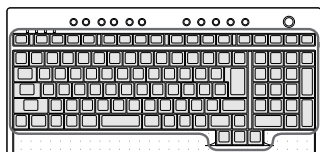


()この中の
いずれかの
キー

それでも画面が表示されない場合は、もう一度同じ操作をしてください。

- ・リモコンのスティックを動かす(液晶ディスプレイがセットのリモコン添付モデルのみ)
なお、CRTディスプレイセットモデルの場合は、リモコンを操作してもスタンバイ状態にする前の状態に戻すことはできません。上記のマウス、キーボードを使った方法で戻してください。
- ・FAX モデムによるリング機能を使う
パソコンに電話がかかってきたときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

このときパソコン本体は復帰しても画面がまっくらな場合は、マウスを動かすか、キーボードのいずれかのキー()を押してください。



()この中の
いずれかの
キー

省電力機能を使うときの注意

● 休止状態にするときの注意

通信ソフトやモデムなどを使ってインターネットに接続している場合は、休止状態にすると強制的に通信が切断されることがあります。休止状態にする前に必ず通信を終了させてください。

● スタンバイ状態にするときの注意

- ・通信ソフトやモデムなどを使ってインターネットに接続しているときは、必ず通信を終了させてからスタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・CD の再生中にスタンバイ状態にした場合、CD は再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前に CD の再生を止めてください。
- ・CD-ROM ドライブにフォト CD などが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰に時間がかかることがあります。
- ・スタンバイ状態のときでも、使用環境、温度などによっては、ファンは回りつづけることがあります。

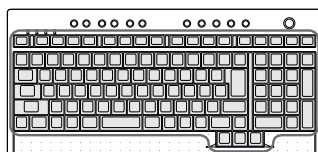
● 休止状態またはスタンバイ状態になっているときの注意

- ・パソコン本体へ周辺機器を取り付けたり、パソコン本体から周辺機器を取り外したりしないでください。
- ・スタンバイ状態になっているときに次のことが起こると、電源が切れた状態になるため、スタンバイ状態にする前の内容は失われます。
 - 電源ケーブルが本体や AC コンセントから外れた
 - 停電が起きた
 - 電源スイッチを 4 秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったこのような場合は、次に電源を入れたときに、「Windows が正しく終了されませんでした...」と表示されますので、画面の指示にしたがってください。

省電力状態からの復帰がうまくいかなかったときは

次のような場合には、省電力状態からの復帰が正しく実行されなかったことを示しています。

- ・復帰直後にアプリケーションが正常に動作しない
- ・休止状態またはスタンバイ状態にする前の内容を復元できない
- ・パソコンの電源スイッチ、キーボードの電源スイッチ(ワイヤレスキーボードのみ)、リモコンの【電源】ボタン(液晶ディスプレイがセットのリモコン添付モデルのみ)を押しても復帰しない(休止状態のみ)
- ・マウスを動かしたり、キーボードのいずれかのキー()を押しても復帰しない。それでも画面が表示されないの、もう一度同じ操作をしたが復帰しない(スタンバイ状態のみ)



()この中の
いずれかの
キー

● 休止状態からの復帰がうまくいかなかったときには

『困ったときのQ&A』PART2の「省電力機能」をご覧ください。

● スタンバイ状態からの復帰がうまくいかなかったとき

電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、再度電源を入れてください。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、ご購入時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は再設定してください。

また、MS-DOSプロンプトがアクティブのときにスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態から復帰させても画面が復帰しないことがあります。この場合は【Alt】を押しながら【Tab】を押してタスクを切り替えることで正常に動作します。

省電力の設定を変える

省電力の設定は「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。

自動的に休止状態やスタンバイ状態にならないように設定する

アプリケーションや周辺機器によっては、休止状態やスタンバイ状態に対応していないものもあります。このようなアプリケーションや周辺機器を利用するときは、自動的に休止状態やスタンバイ状態にならないように設定を変更する必要があります。また、休止状態やスタンバイ状態になる時間を変更することもできます。

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリック

「電源の管理」アイコンをダブルクリック

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

✓チェック!

「コントロールパネル」に「電源の管理」アイコンが表示されていない場合は、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

「電源設定」タブをクリック

休止状態にならないようにするには「システム休止状態」で「なし」を選択します。スタンバイ状態にならないようにするには「システムスタンバイ」で「なし」を選択します。

✓チェック!

休止機能を使いたくない場合は、「休止状態」タブで「休止状態をサポートする」のをにしてください。

「OK」をクリック

その他の設定を変更する

「電源の管理」では、次の設定も変更できます。

・ 省電力の設定ファイルの変更

省電力の設定にファイル名をつけて保存できます。また、保存したファイルの設定を変更できます。

・ 電源スイッチの役割

本体の電源スイッチを押したときの動作の設定をします。

📖 参照

「電源の管理」での設定 → Windows の「ヘルプとサポート」、サポートセンタ

P A R T

13

さらに広がるパソコンワールド

ここでは、パソコンの使い方を広げるアプリケーションを紹介します。自分流にパソコンを使いこなすための参考にしてください。

- 携帯電話と連携する
- インターネットで映像を楽しむ
- CD-R や CD-RW にデータを書き込む

携帯電話と連携する

このパソコンでは、携帯電話に登録されている予定表や連絡先、画像などのデータを編集できます。編集したデータは、iモード機能のある携帯電話で閲覧できます。

携帯電話に登録されている情報を編集する

このパソコンと携帯電話を接続して、携帯電話に登録されている電話番号や連絡先などの情報をパソコン上で編集できます。「携快電話 4N」というアプリケーションを使います。「携快電話 4N」では、着信メロディやメール、待ち受け画面、ブックマークなどの編集もできます。



「携快電話 4N」を使うには

・「携快電話 4N」は、購入時にはこのパソコンにインストールされていません。このパソコンに添付のアプリケーション CD-ROM からインストールしてお使いください。

参照

「携快電話 4N」のインストール → 「サポートセンタ」・「アプリケーションの追加と削除」・「携快電話 4N」

・このパソコンと携帯電話を接続するためのケーブルが必要になります。別売の携帯電話接続ケーブル（PC-VS-K10 または PC-VS-K11）を購入してください。なお、携帯電話の機種によって接続できるケーブルが異なります。ご購入の際は、販売店にてよく確かめください。

・「携快電話 4N」に対応している携帯電話の機種、注意事項などの情報は、次のReadmeファイルをご覧ください。

携快電話 4N の Readme ファイル

「スタート」・「プログラム」・「携快電話 4N」・「Readme」（「携快電話 4N」をこのパソコンにインストールしてからご覧ください）

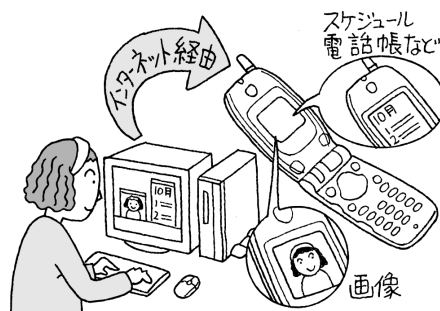
参照

携快電話 4N の詳しい使いかた → 携快電話 4N のヘルプまたは、添付ソフトの使い方・「携快電話 4N」または「携快電話 4N ユーザーズガイド」

パソコンで作成したデータを i モード機能のある携帯電話で閲覧する

このパソコンにインストールされているスナップショットを使うと、パソコンで作成した画像をインターネット経由で、iモード機能のある携帯電話で見ることができます。

また、インターネット上のサイト、NEC PC オーナースケジューラを利用すると、自分の予定表や連絡先のデータをそこに登録して、iモード機能のある携帯電話で見ることができます。



携帯電話でデータを閲覧できるようにするための準備

携帯電話でデータを閲覧できるようにするには、次の準備が必要です。

- ・ i モード機能のある携帯電話（別売）を準備する
- ・ インターネットに接続できる環境にする
プロバイダに入会してインターネットに接続できるように設定しておきます。
- ・ 閲覧したいデータを置いておく場所を確保する
i モード機能のある携帯電話で閲覧したいデータを置いておく場所を確保するには、自分のホームページスペースを開設する方法と、NEC PC オーナースケジューラを利用する方法があります。

・スナップショットの画像をおくための自分のホームページスペースを開設する

FTP プロトコル(インターネット上でファイルを転送するための規格)に対応した、インターネットに公開可能なホームページスペースを開設しておきます。ここでいうホームページスペースとは、プロバイダに入会して開設する個人ホームページのことです。開設した個人ホームページに、自分の予定表や画像などのデータを登録し、携帯電話からそのホームページを閲覧します。

・NEC PC オーナーズスケジューラに登録する

「NEC PC オーナーズスケジューラ」は、予定表、アドレス帳などの情報を、まとめて管理するためのホームページです。自分の情報にアクセスするには、メンバー名とパスワードが必要なので、他人に勝手に見られることはありません。

自分の情報を仲間に公開すれば、グループ内で情報共有することもできます。このグループ機能を使えば、仲間との予定の調整と自分のスケジュールの管理が同時にできます。

NEC PC オーナーズスケジューラの基本サービスへの登録は無料です。

準備ができたなら、見たい情報の操作手順を確認してください。

写真などの画像を携帯電話で見る

携帯電話で見たい画像を用意する

デジタルカメラで撮影した写真などの画像ファイルをパソコンに取り込んでおきます。

携帯電話で見られるように画像を編集する

画像を編集するには、「スナップショット」を使います。「スナップショット」では、各機種に対応したサイズに画像データを再編集したり、EZweb、J-Sky WEB機能を持つ携帯電話で見られるように、画像を編集したりできます。

 参照

「スナップショット」の詳しい使いかた →  「添付ソフトの使い方」・「スナップショット」または「スナップショット」のヘルプ

画像データを個人ホームページに登録する

BIGLOBE に入会している場合は、BIGLOBE の i モード向けサービス「らくらくピクチャー・ミニ for i モード」(有料)が利用できます。「らくらくピクチャー・ミニ for i モード」では、アルバム形式でホームページに画像を登録できます。

その他のプロバイダに入会した場合は、開設した個人ホームページに登録します。ホームページへの登録方法は、各プロバイダに確認してください。

 参照

「らくらくピクチャー・ミニ for i モード」について

→ <http://itool.kingdom.biglobe.ne.jp/album/>(トップページ URL)

→ <http://itool.kingdom.biglobe.ne.jp/album/manual.html>(操作方法の URL)

登録したデータを携帯電話の i モード機能で見る

ホームページのアドレスを携帯電話に入力します。

パソコンで作成した予定表や連絡先などをiモード機能のある携帯電話で見る

NEC PCオーナーズスケジューラに予定表などの情報を登録する

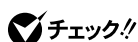
NEC PCオーナーズスケジューラにアクセスし、情報を登録します。



参照

NEC PC オーナーズスケジューラの URL

→ http://www.biglobe.ne.jp/nec_pc/imodel/schedule/



チェック!!

NEC PC オーナーズスケジューラを利用するには、BIGLOBEのCYBER PLAZAメンバーシップへの登録(無料)が必要です。

NEC PC オーナーズスケジューラ(正式名称: NEC PCオーナーズスケジューラ by BIGLOBE スケジューラ)は、BIGLOBEのサービス「BIGLOBEスケジューラ」を利用して実現しています。NEC PCオーナーズスケジューラを利用する際の規約や説明文などには「BIGLOBE スケジューラ」と表示されていることがあります。

登録したデータを携帯電話のiモード機能で見る

ホームページのアドレスを携帯電話に入力して、NEC PCオーナーズスケジューラにアクセスします。メンバー名とパスワードを入力すると、登録したデータが見られます。



参照

NEC PC オーナーズスケジューラの操作方法 → NEC PC オーナーズスケジューラのヘルプ

インターネット で映像を楽しむ

このパソコンでは、USBカメラなどで撮影した画像、デジタルビデオカメラで撮影した映像などをインターネットに公開できます。インターネットに公開した画像や映像は、iモード機能のある携帯電話や他のパソコンで楽しむことができます。

いまこの瞬間をインターネット で中継 ~ライブフォト/i~

このパソコンに添付されている「ライブフォト/i」を使うと、USBカメラなどからパソコンに取り込んだ画像を「ライブカメラ」(世界中のさまざまな場所からリアルタイムの景色や室内の様子を発信するインターネットのサービス)としてインターネットに公開できます。インターネットに公開した画像は、外出先からiモード機能のある携帯電話などで閲覧できます。ADSL接続などのインターネットに高速に常時接続できるサービスを利用すると、より快適に「ライブカメラ」が楽しめます。

✓チェック

- ・ライブフォト/iは娯楽目的に開発されたソフトウェアであり、ホームセキュリティ、介護、医療、その他業務目的等の使用はしないでください。
- ・使用に際しては、第三者の権利、肖像権、プライバシーの侵害とならないよう充分ご注意ください。

「ライブフォト/i」を使うと、次のようなことができます。

- ・留守中の家の様子を外出先からチェック
- ・大好きなペットがいま何をしているかがわかる
- ・パーティーの様子を実況中継

携帯電話などで画像を閲覧できるようにするために必要なもの、準備

- ・iモード機能のある携帯電話(別売)
- ・USBカメラや低画素数のデジタルカメラ(別売)
動作確認済機種については、ライブフォト/iを起動すると表示される電子マニュアルで紹介しているホームページでご確認ください。
- ・プロバイダに入会して、画像を置くための自分のホームページを開設する

なお、ライブフォト/iの詳しい使いかたや必要な準備については、ライブフォト/iをインストールして、起動すると表示される電子マニュアル「はじめよう!ライブカメラ」をご覧ください。

「ライブフォト/i」をインストールする

「ライブフォト/i」は、購入時にはこのパソコンにインストールされていません。添付のアプリケーションCD-ROMからインストールしてお使いください。

📖参照

「ライブフォト/i」のインストール→「サポートセンター」-「アプリケーションの追加と削除」-「ライブフォト/i」

インターネットに映像を公開 する ~ビデオ登録君~

このパソコンに添付されている「ビデオ登録君」と、BIGLOBEの映像配信サービス「My放送局」(有料)を使うと、あなたがデジタルビデオカメラで撮影した映像などをインターネットに公開できます。結婚式、運動会、自分の趣味や特技をアピールしたものなどさまざまな映像をインターネットに公開して、家族や親戚、仲間同士で楽しむことができます。

ADSL接続などのインターネットに高速に常時接続できるサービスを利用すると、より大きく、なめらかな映像を楽しむことができます。

映像を他のパソコンで閲覧できるようにするために必要なもの、準備

- ・デジタルビデオカメラ(別売)
- ・BIGLOBE に申し込み、「My 放送局」に登録する

「ビデオ登録君」を使って映像をインターネットに公開するには、「My 放送局」へ映像を置くための設定などが必要です。詳しくは、「ビデオ登録君」をインストールして、起動すると表示される電子マニュアル「はじめよう！インターネットで映像配信」をご覧ください。

✓チェック!!

- ・あなたがテレビ放送や録画物などから取り込んだ映像や音声は、個人として楽しむなどのほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。
- ・使用に際しては、第三者の権利、肖像権、プライバシーの侵害とならないよう充分ご注意ください。

「ビデオ登録君」を使うと、次のようなことができます。

- ・年賀状の代わりに、ビデオメールでごあいさつ
- ・運動会で活躍の様子を、離れて住んでいるおじいさんおばあさんに報告する
- ・旅先で撮った映像をすかさず公開して、仲間に見てもらおう

「ビデオ登録君」をインストールする

「ビデオ登録君」は、購入時にはこのパソコンにインストールされていません。添付のアプリケーションCD-ROM からインストールしてお使いください。

📖 参照

「ビデオ登録君」のインストール →  「サポートセンタ」-「アプリケーションの追加と削除」-「ビデオ登録君」

インターネットで映像を快適に楽しむためのヒント

「ブロードバンド」とは、インターネットへの高速な接続を実現する回線のことです。「ブロードバンド」によって、インターネットでより大きく、なめらかな映像を観たり、容量の大きなファイルを短い時間でやりとりしたりできるようになります。

「ブロードバンド」に対応したサービスにはさまざまな種類があります。最近では、ADSL(エーディーエスエル)と呼ばれる、電話回線を利用してインターネットへの高速な接続を実現できるサービスの普及がはじまっています。これらのサービスでは、月々のインターネット接続料金が定額になっているものが多いため、時間を気にせずに好きなだけインターネットを楽しむことができます。

CD-RやCD-RW にデータを書き 込む

このパソコンではCD-RやCD-RWというメディア(記録媒体)に大量にデータを書き込むことができます。ここではCD-RやCD-RWにデータを書き込むときのポイントなどについて説明します。

CD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブでは、CD-RやCD-RWという持ち運び可能なメディアに大量のデータ(650Mバイトなど)を記録できます。また、多くのCD-ROMドライブで読み込むことができるため、CD-ROMドライブのある他のパソコンとのデータの受け渡しに適しています。

CD-RとCD-RWの特長

このパソコンのCD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブでデータを書き込む(記録する)ことができるメディアには、CD-R(CD-Recordable)とCD-RW(CD-ReWritable)があります。それぞれ、次のような特長があります。

- ・CD-R(CD-Recordable)
 - 一度だけデータを書き込むことができる(書き換え不可)
 - CD-ROMドライブで読み込みが可能
 - メディアが安価
- ・CD-RW(CD-ReWritable)
 - データを繰り返し書き換えることができる

CD-RやCD-RWにデータを書き込むソフトについて

CD-RWやCD-Rにデータを書き込むためには、専用のアプリケーション(ライティングソフト)が必要です。このパソコンには、次の2種類のライティングソフトが用意されています。それぞれに特徴がありますので、目的に応じて適した方をお使いください。

● Easy CD Creator

Easy CD Creatorには、次のような特徴があります。

- ・データを書き込むときに、Easy CD Creatorを起動させる必要がある
- ・いろいろな形式のCDをガイドに沿って簡単に作成できる
- ・作成したCDを他のパソコンでそのまま読み込むことができる
- ・大きなデータをまとめて書き込むのに適している
- ・デジタルカメラで撮った写真データなどの受け渡しに適している

参照

Easy CD Creatorの操作について→「スタート」-「プログラム」-「Adaptec Easy CD Creator 4」-「クイックリファレンス」

● DirectCD

DirectCDは、ご購入時ではインストールされていません。DirectCDを使うには、添付のアプリケーションCD-ROMからインストールします。

参照

DirectCDのインストール方法→「サポートセンタ」-「アプリケーションの追加と削除」-「DirectCD」

DirectCDには、次のような特徴があります。

- ・書き込む前に、メディアをDirectCD専用フォーマットする必要がある
- ・マイコンピュータやエクスプローラ、アプリケーションなどからデータを直接書き込める
- ・作成したメディアを他のパソコンで読み込むには、CD-Rの場合は、DirectCDでの処理が必要。CD-RWの場合は、UDF Readerのインストールが必要。
- ・いろいろなデータを頻繁に書き込むのに適している
- ・データのバックアップに適している
- ・バックアップ-NXを使ってバックアップをするのに適している

参照

DirectCDの操作について→「スタート」-「プログラム」-「Adaptec Direct CD」の「Direct CD ヘルプ」または「クイックリファレンス」

● データを書き込む際の注意

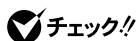
- ・ 書き込みを行う前には必ず、他のアプリケーションを終了し、スクリーンセーバーや常駐プログラムを解除してください。
- ・ 書き込みに失敗した CD-R は再生できなくなります。書き損じによる CD-R の補償はできませんのでご注意ください。
- ・ データを書き込むときは、書き込み中に休止状態またはスタンバイ状態にならないように、省電力の設定を「なし」に設定してください。
- ・ 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他の CD-ROM ドライブ、CD-R ドライブ、CD-RW ドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。



自動的に休止状態にならないように設定する → PART12 の「省電力の設定を変える」(p.119)

他の CD-ROM ドライブで メディアを読み込むときの注意

このパソコンの CD-R/RW with DVD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブでデータを記録したメディアを、他の CD-ROM ドライブで読み込めるようにするには、書き込みに使用したアプリケーションによっては注意が必要な場合があります。詳しくは、アプリケーションに添付のマニュアルやヘルプで確認してください。また CD-R/RW メディアによっては、お使いの CD-ROM ドライブでは、読み込めない場合があります。マルチリード対応の CD-ROM ドライブであれば読み込むことができます。マルチリード対応の CD-ROM ドライブについては、各メーカーにお問い合わせください。



お客様がオリジナルの CD-ROM、音楽 CD、ビデオ CD などの複製や改変を行う場合、オリジナルの CD 等について著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製等の際は、オリジナルの CD-ROM などの利用許諾条件や複製等に関する注意事項にしたがってください。

P A R T

14

本機の設定を変更する

ここでは、本機の使用環境を設定する BIOS セットアップメニューとこのパソコンのリソースについて説明しています。

通常は、この設定を変更する必要はありません。

- BIOS セットアップメニュー
- このパソコンが使用しているリソース

BIOS セットアップメニュー

「BIOS セットアップメニュー」ではハードウェア環境の確認と変更、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

✓チェック!!

BIOS セットアップメニューは画面上では「Phoenix BIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

BIOS セットアップメニューを使ってできること

次のような設定ができます。

- ・現在の日付と時間の設定
- ・BIOS セットアップメニューで使用する言語の選択
- ・ハードウェア環境の確認と変更
- ・セキュリティの設定
- ・省電力管理の設定
- ・起動の設定

BIOS セットアップメニューを使う

BIOS セットアップメニューの起動とメイン画面

電源を入れ、「NEC」ロゴの画面で「< F2 > キーを押すと、BIOSセットアップメニューを起動します。」と表示されたら、すぐに【F2】を押す。「セットアップを起動しています...」と表示された後、BIOS セットアップメニューが起動します。

✓チェック!!

Windows が起動した場合は、Windows を終了して電源を切り、もう一度手順 からやり直してください。

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ			
メイン	詳細	セキュリティ	省電力管理 起動 終了
システム時刻: システム日付: 言語:	[XX:XX:XX] [XXXX/XX/XX] [日本語 (JP)]	項目ヘルプ <Tab>キー、<Shift-Tab>キー、<Enter>キーは、項目を選択します。	
▶ プライマリマスタ ▶ プライマリスレーブ ▶ セカンダリマスタ ▶ セカンダリスレーブ	[XXXXXX] [XXXXXX] [なし] [なし]		
▶ キーボード機能 起動時の自己診断画面	[使用しない]		
システムメモリ: 拡張メモリ: BIOS リビジョン	640KB × × KB XXXX		
F1 ヘルプ Esc 終了	↑ ↓ 項目の選択 → ← メニューの選択	+/− 値の変更 Enter サブメニューの選択	F9 デフォルトの設定 F10 保存して終了

メニューバー

パラメータ

キーステータスバー

BIOS セットアップメニューの終了

■ 変更した設定を有効にして終了する場合

【F10】を押す。
「セットアップ確認」画面が表示されます。

「はい」を選んで【Enter】を押す。
設定値が保存され、BIOS セットアップメニューが終了します。また、メニューバーの「終了」でも BIOS セットアップメニューを終了することができます。

■ 起動前の設定のまま終了する場合

【←】【→】でメニューバーの「終了」を選ぶ。

【↓】を押して「変更を保存せずに終了する」にカーソルを合わせ【Enter】を押す。

✓チェック!!

ここで「設定が保存されていません！保存してから終了しますか？」と表示された場合は、【←】【→】を押して「いいえ」にカーソルを合わせ【Enter】を押してください。

BIOSセットアップメニューを起動する前の設定のまま（設定の変更を行った場合はすべて無効にして）BIOS セットアップメニューが終了します。

デフォルト値の設定

以下の手順で設定値をデフォルト値（購入時の値）に戻すことができます。

【F9】を押す。
「セットアップ確認」画面が表示されます。

【←】【→】で「はい」を選んで【Enter】を押す。
すべての設定値をデフォルト値（購入時の値）に戻します。また、メニューバーの「終了」でもデフォルト値の設定ができます。

次にメニューバーで選択された各画面について説明します。

BIOS セットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【←】、【→】でメニューバーのカーソルを選択し、【↑】、【↓】で設定項目を選択します。
- ・設定内容(例: システム時計の時、分、秒)のカーソル移動は【Tab】で選択します。設定内容の値は【+】、【-】で変更します。
- ・▶印がついた設定項目は【Enter】でサブメニューを表示し、【Esc】で元の画面に戻ります。

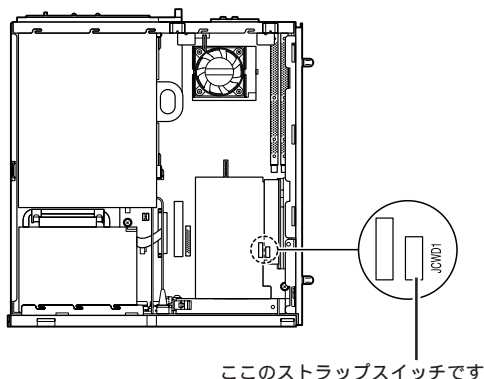
パスワードの解除

このパソコンでは、ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードを設定できます。これらのパスワードを忘れると、パソコンを起動できなくなります。パスワードを忘れた場合は、本体内部のストラップスイッチを使ってパスワードを解除します。

ストラップスイッチ

本体内部には、次の図のようなストラップスイッチがあります。このスイッチを取り外すことでパスワードの解除ができます。

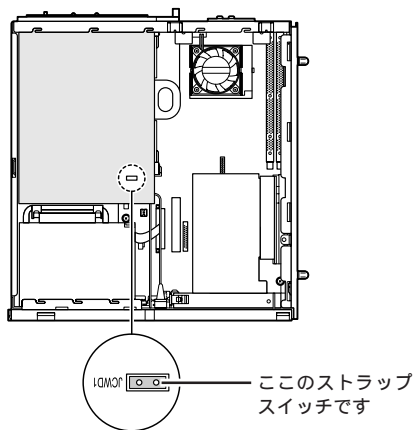
- A タイプ
(VC1000J/8FD、VC800H/8FD1、VT300/0Dの場合)



- B タイプ
(VC1000J/8FD、VC800H/8FD1、VT300/0D以外の場合)

✓チェック!!

ストラップスイッチは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブの下にあります。



パスワードの解除のしかた

⚠ 注意



本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶつかけたり、切ったりしないように注意してください。



このパソコンの使用直後は、CPU や CPU の周辺に触れないでください。CPU が高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。

- A タイプ
(VC1000J/8FD、VC800H/8FD1、VT300/0Dの場合)

このパソコンの電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

正しい手順でルーフカバーを外す。



ルーフカバーの外し方 → PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.29)

FAX モデムボード、LAN ボード(LAN モデルのみ)、地上波 TV& データボード(TV モデルのみ)、BS デジタルチューナボード(BS モデルのみ)を外す。

✓チェック!!

FAX モデムボード、LAN ボード(LAN モデルのみ)、地上波 TV& データボード(TV モデルのみ)、BS デジタルチューナボード(BS モデルのみ)は PART7 で説明している PCI ボードと同じように取り外すことができます。

📖 参照

PCI ボードの外し方 → PART7 の「PCI ボードの取り付けと取り外し」(p.67)

ストラップスイッチを上引き抜く。
指でストラップスイッチを引き抜くことができないときは、ピンセットなどを使ってください。

✓チェック!!

抜いたストラップスイッチはなくさないようにしてください。

手順 で外した PCI ボードをもとどおりに取り付ける。

正しい順序でルーフカバーを取り付ける。

📖 参照

ルーフカバーの取り付け方 → PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.29)

本体背面から外したケーブルをもとどおり接続して、パソコンの電源を入れる。
Windows が起動します。

Windows を終了し、パソコンの電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

手順 、 を行い、手順 で引き抜いたストラップスイッチをもとどおり差し込む。

手順 、 と同じようにルーフカバーを外して、PCI ボードをすべて外します。指でストラップスイッチをもとどおり差し込むことができないときは、ピンセットなどを使ってください。

手順 と同じように PCI ボードをすべて取り付ける。

正しい手順でルーフカバーを取り付ける。

外したケーブルをもとどおりに接続する。

● B タイプ

(VC1000J/8FD、VC800H/8FD1、VT300/0D 以外の場合)

このパソコンの電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

正しい手順でルーフカバーを外す。

📖 参照

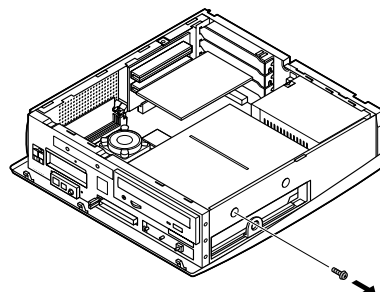
ルーフカバーの外し方 → PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.29)

CD-R/RW with DVD-ROM ドライブを固定しているネジ 1 本を取り外す。

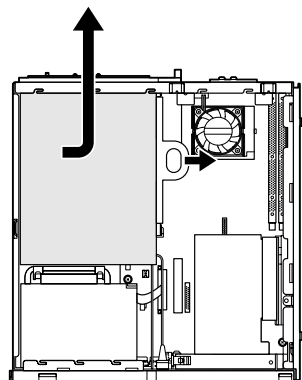
ネジを取り外すには、プラス(+)ドライバーが必要です。

✓チェック!!

外したネジをなくさないように、大切に保管してください。



図のようにレバーを強く右へ引きながら、CD-R/RW with DVD-ROM ドライブを少し右へずらし、本体前面方向へストラップスイッチが見えるところまで移動させる(CD-R/RW with DVD-ROM ドライブに接続されているケーブル類は取り外す必要はありません)。

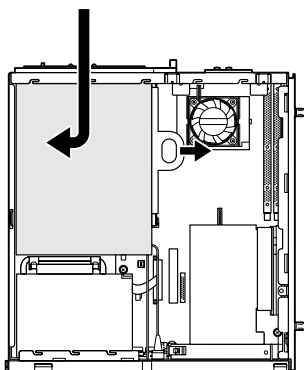


ストラップスイッチを上引き抜く。
指でストラップスイッチを引き抜くことができないときは、ピンセットなどを使ってください。

✓チェック!

抜いたストラップスイッチはなくさないようにしてください。

図のようにレバーを強く右へ引きながら、CD-R/RW with DVD-ROM ドライブを元の位置に戻し、レバーから指をはなす。



手順 で取り外したネジをもとどおりに取り付ける。

正しい順序でルーフカバーを取り付ける。

📖 参照

ルーフカバーの取り付け方 → PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.29)

本体背面から外したケーブルをもとどおり接続して、パソコンの電源を入れる。
Windows が起動します。

Windows を終了し、パソコンの電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

手順 ~ を行い、手順 で引き抜いたストラップスイッチをもとどおりに差し込む。
指でストラップスイッチをもとどおりに差し込むことができないときは、ピンセットなどを使ってください。

手順 、と同じようにCD-R/RW with DVD-ROM ドライブを元の位置に戻し、ネジで固定する。

正しい手順でルーフカバーを取り付ける。

外したケーブルをもとどおりに接続する。

このパソコンが使用しているリソース

このパソコンは、次のようにリソースを使用しています(購入時の設定)

✓チェック!!

リソースについて詳しく知りたい方は、市販の Windows の解説本やパソコン専門誌などをご覧ください。

割り込みレベル(IRQ)

● VT750/0D、VT770/0D 以外の場合

IRQ	機能
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	(空)
4	シリアルポート (COM1)
5	(空)
6	(空)
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	アクセラレータ/IEEE1394 /地上波TV & データボード ¹ /ACPI
10	CardBus/サウンド/USBインターフェイス /SMBus/ACPI/FAXモデムボード
11	LANボード ² /ACPI
12	マウス
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ (プライマリ)
15	IDEコントローラ (セカンダリ)

1 地上波TV& データボードはTVモデルのみ。

2 LANボードはLANモデルのみ。

● VT750/0D の場合

IRQ	機能
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	(空)
4	シリアルポート (COM1)
5	(空)
6	(空)
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	IEEE1394/CardBus /地上波TV & データボード/ACPI
10	USBインターフェイス/CardBus/ACPI
11	FAXモデムボード/サウンド/ACPI
12	マウス
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ (プライマリ)
15	アクセラレータ/ACPI

● VT770/0D の場合

IRQ	機能
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	(空き)
4	シリアルポート (COM1)
5	(空き)
6	(空き)
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	IEEE1394/CardBus /地上波TV & データボード/ACPI
10	アクセラレータ/USBインターフェイス /CardBus/ACPI
11	FAXモデムボード/サウンド /BSデジタルチューナボード/ACPI
12	マウス
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ (プライマリ)
15	(空き)

DMA チャンネル

DMA	機能
#0	(空き)
#1	(空き)
#2	(空き)
#3	(空き)
#4	DMAコントローラ
#5	(空き)
#6	(空き)
#7	(空き)

付 録

- パソコンのお手入れ
- 本体の各部の名称
- リモコンの各部の名称
- 機能仕様
- FAX モデムボード機能仕様
- LAN ボード機能仕様(LAN モデルのみ)

パソコンのお手入れ

パソコンを長く使っていると、本体やディスプレイの汚れが気になるものです。また、マウス内部のローラーやボールにホコリなどがついて汚れてしまうと、マウスの操作がうまくできなくなります。日頃から、お手入れをするように心がけましょう。

⚠ 注意



お手入れの前には、パソコンの電源を切り、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

感電の原因になります。



準備するもの

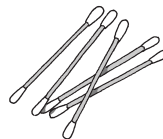
- 軽い汚れのとき
乾いたきれいな布



- 汚れがひどいとき
水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布



- マウスをクリーニングするとき
綿棒



✓ チェック!!

OA機器用クリーニングキットも汚れをふきとるのに便利です。

OA 機器用クリーニングキットについては、ご購入元または NEC にお問い合わせください。

✓ チェック!!

シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や揮発性の有機溶剤を含む化学ぞうきんは、使わないでください。キーボードを傷めたり、故障の原因になります。

📖 参照

NEC のお問い合わせ先 → 『121ware ガイドブック』

電源を切って、電源ケーブルを外す

お手入れの前には、かならず、パソコンの周辺機器やパソコンの電源を切ってください。電源ケーブルはコンセントから抜いてください。

電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

清掃する

パソコン

やわらかい布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

パソコンの内部

長期間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。パソコン内部の清掃については、ご購入元または NEC お問い合わせください。

ディスプレイ

やわらかい布でふいてください。
化学ぞうきんやぬらした布は使わないでください。

✓チェック!!

水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないください。故障の原因になります。

📖 参照

NECのお問い合わせ先 →『121ware ガイドブック』

キーボード

やわらかい布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、ご購入元または NEC お問い合わせください。

マウス

やわらかい布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

マウスの内部

マウスポインタの動きが悪いときは、ボールとローラーもクリーニングしてください。

📖 参照

→「マウスのクリーニング」(次ページ)

電源ケーブル

電源ケーブルのプラグを長期間コンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまる場合があります。定期的にやわらかい布でふいて、清掃してください。

リモコン(TV モデルのみ)

やわらかい布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

ボタンのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、ご購入元または NEC お問い合わせください。

電池切れにご注意(ワイヤレス キーボード・ワイヤレスマウスの場合)

ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスの電池が切れはじめると、文字入力やマウス操作がうまくできなくなります。そんなときのためにも、いつも予備の電池を準備しておくことをおすすめします。

✓チェック!!

- ・キーボードの電池が消耗するとキーを操作するたびに「ピー」というブザー音が鳴ります。そのときは、新しい電池に交換してください。
- ・ワイヤレスマウスの場合、電池がなくなると「マウスの電池が残り少なくなっています。お早めにお取替えください。」というメッセージが表示されますので、新しい電池と交換してください。メッセージが表示されてから約10時間は操作できますが、それ以上経過すると正常に動作しくなくなります。

📖 参照

電池を交換するには→『はじめにお読みください』の「キーボードとマウスの準備をする」

マウスのクリーニング

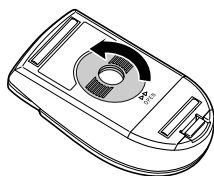
マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。とくに、ローラーやボールに油分が付くと、故障の原因になったりします。ローラーはとくに汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、手順 ~ は省略して構いません。

✓チェック!!

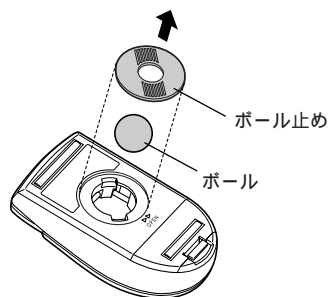
取り外したボールやボール止めは、お子さまが誤って飲みこんだりしないよう、ご注意ください。

パソコンの電源を切る。USB キーボードの場合は、マウスのケーブルをキーボードから外す。

マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる。



ボール止めを取り外し、ボールを取り出す。



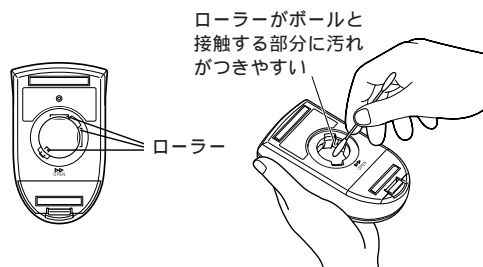
ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす。

水で中性洗剤を洗い落とす。

布で水分をふき取り、風通しの良いところで十分に乾燥させる。

マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす。

汚れが落ちないときは、やわらかい歯ブラシなどで汚れを取る(このとき、歯ブラシに、水やはみがき粉などをつけないでください)。



ボールをマウスに戻す。

ボール止めを取り付け、手順 と逆の方向に回して固定する。

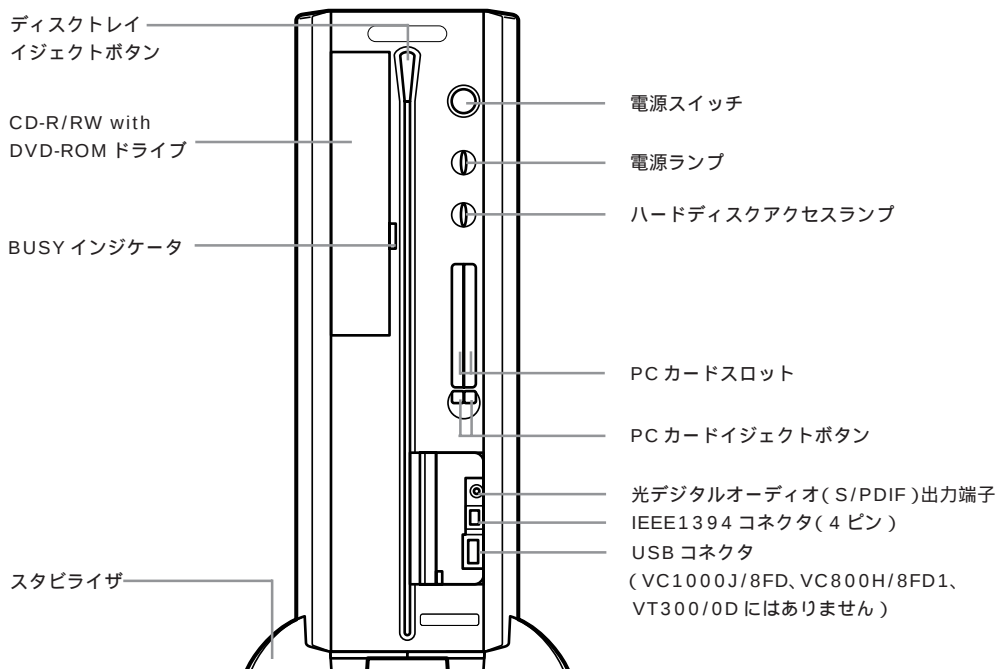
USB キーボードの場合は、マウスのケーブルをキーボードに取り付ける。

✓チェック!!

- ・クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- ・クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
- ・水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装をいためたり、故障の原因となったりします。
- ・ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。

本体の各部の名称

本体前面



電源スイッチ (🔌)

電源を入れるスイッチ。休止状態から復帰するときにも使います。なお、電源を切るときは、Windows Me の「スタート」メニューで「Windows の終了」をクリックして「終了」を選んで「OK」をクリックします。電源スイッチを切る/入れる操作はコンピュータに負担をかけるので、少なくとも5秒以上の間隔をあけてください。

✓チェック!!

ソフトウェアが明らかに停止している状態になった場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けることで、強制的に電源を切ることができます。なお、この場合、作成中のデータなどは消えてしまいますので、正しい方法で操作してください。

停電や、電源ケーブルを抜いているために本体に電源が供給されていないときは、電源スイッチを押しても電源を入れることはできません。

電源ランプ (💡)

電源の入/切状態を表示するランプ。電源を入れると緑色に、スタンバイ状態ではオレンジ色に点灯します。休止状態と電源を切った状態では消灯します。

ハードディスクアクセスランプ (💡)

ハードディスクの動作中に点灯するランプ。

✓チェック!!

点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容が壊れることがあります。

PC カードスロット (📇)

PC カードを取り付けるスロット。2 スロットあります。あらかじめ、PC カードスロットを保護するためにダミーカードがセットされています。PC カードには、メモ리카ードやモデムカード、SCSI インターフェイス対応機器とつなげるためのSCSI カードなどいろいろな種類があります。

PC カードイジェクトボタン

PC カードを PC カードスロットから取り出すときに使うボタン。

光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子 ()
MD デッキや AV アンプなどデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続する端子。ただし、プラグ形状によっては使用できないものがありますので、ケーブルは、よくお確かめになり、ご購入ください。

IEEE1394 コネクタ (4 ピン) ()

IEEE1394 対応機器 (4 ピン) を接続するためのコネクタ。

USB コネクタ ()

USB 対応機器を接続するためのコネクタ。USB コネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。なお、VC1000J/8FD、VC800H/8FD1、VT300/0D には本体前面に USB コネクタはありません。

ディスクトレイイジェクトボタン ()

ディスクをセットするディスクトレイを出し入れするためのボタン。

CD-R/RW with DVD-ROM ドライブ

DVD-ROM や CD-ROM、音楽 CD を入れるところ。また CD-R、CD-RW メディアにデータを記録するところ。

BUSY インジケータ

CD-R/RW with DVD-ROM ドライブがデータを読み書きしているときに点灯します。

チェック!!

点灯中は電源を切ったり、CD-ROM などを取り出したりしないでください。CD-R/RW with DVD-ROM ドライブの故障の原因になります。

スタビライザ

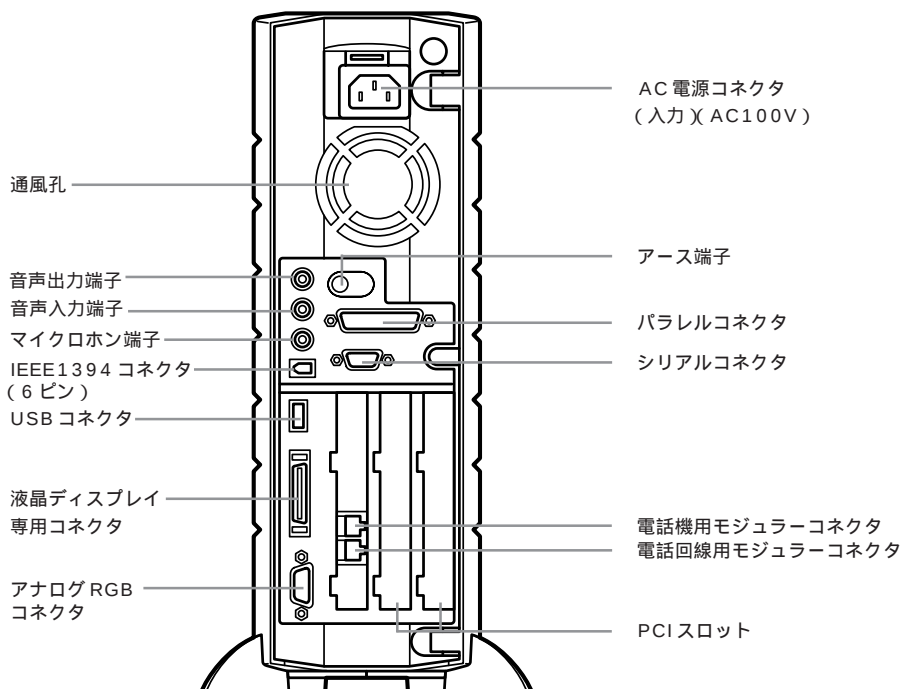
本体を安定して設置するための脚。

チェック!!

スタビライザは必ず付属のネジで本体に固定してください。また、本体を横置きにする場合は、ネジとスタビライザをなくさないよう大切に保管してください。

本体背面

各アイコンの向きは、下の説明と異なることがあります。



AC 電源コネクタ(入力 X AC100V)
ACコンセントから本体に電源を供給するためのコネクタ。添付の電源ケーブルを接続します。
本体添付の電源ケーブルは、AC コンセント側が普通の 2 ピン、本体側が特殊な 3 ピンになっています。

アース端子 (⏏)
アース線を接続するための端子。

パラレルコネクタ (⏏)
プリンタなどを接続するためのコネクタ。

✓チェック!!

PC-9800シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリンタインタフェース変換アダプタ(PK-CA101)が必要です。PK-CA101は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)と同時に取り付けることはできません。

シリアルコネクタ (⏏)
周辺機器を接続するためのコネクタ。
通信を行うときに必要な通信機器や、イメージスキャナなどの周辺機器を接続します。

✓チェック!!

- ・PC-9800シリーズ用の機器を接続する場合は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)が必要です。PK-CA102は別売のプリンタインタフェース変換アダプタ(PK-CA101)と同時に取り付けることはできません。
- ・周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動作しないことがあります。

電話機用モジュラーコネクタ (⏏)
電話機を接続するためのコネクタ。

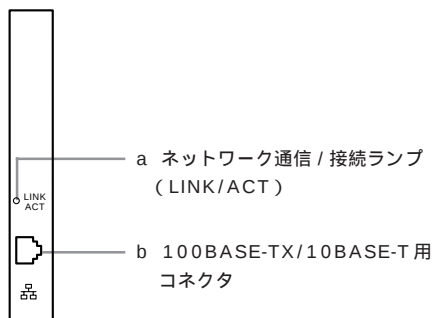
電話回線用モジュラーコネクタ (⏏)
電話回線を接続するためのコネクタ。

PCI スロット
本機の機能を強化したり拡張したりするための各種ボードを、取り付けるためのスロット。高速なデータ転送ができる PCI バスに対応。
モデルにより、購入時に取り付けられている PCI ボードは異なります。詳しくは、次の表をご覧ください。
VC800H/8FD1 では、両側の PCI スロットに PCI ボードを取り付けることができます。

	PCI スロット左側	PCI スロット右側
LAN モデル	LAN ボード(標準)	—
TV モデル	地上波 TV & データボード(標準)	—
BS モデル	地上波 TV & データボード(標準)	BS デジタル チューナボード(標準)

BS デジタルチューナボードについて詳しくは、添付の『パソコンで楽しむ BS デジタル放送』をご覧ください。

LAN ボード (LAN モデルのみ)



a ネットワーク通信 / 接続ランプ (LINK/ACT)

ネットワーク上で読み込みや書き込みが発生すると点滅します。また、ハブ(マルチポートリピータなど)から、リンクパルスを受信すると点灯します。

・100Mbps ネットワーク接続時

緑色に点滅または点灯します。

・10Mbps ネットワーク接続時

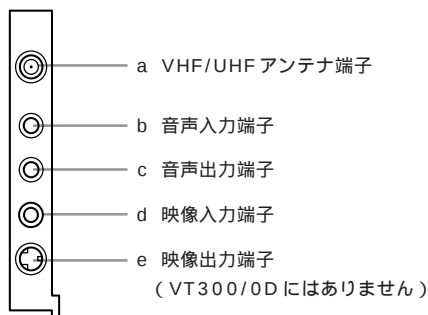
黄色に点滅または点灯します。

ただし、必ずしも本機の読み込みや書き込みとは限りません。

b 100BASE-TX/10BASE-T 用コネクタ (品)

100BASE-TX/10BASE-T 対応のケーブルを接続します。

地上波 TV & データボード (TV モデルのみ)



a VHF/UHF アンテナ端子 (VHF/UHF)

テレビ放送を受信するためのアンテナ端子。VHF と UHF の共用端子です。

b 音声入力端子 ()

テレビやビデオの音声を入力するための端子。

チェック!!

・音声入力端子にビデオなどを接続した場合に、ビットキャストローダーが起動していない状態では、スピーカから音声が出力されることがあります。この場合は、ビデオなどの電源を切るか、音声入力端子から外してください。

・ビットキャストローダーが起動していない場合は、地上波 TV & データボードの音声入力端子は、本体の音声入力端子として扱えます。外部機器から本機に音声を入力する必要がある場合は、地上波 TV & データボードの音声入力端子に接続してください。

c 音声出力端子 ()

VHF/UHFアンテナ端子、または音声入力端子に入力された音声を出力する端子。音声ケーブルで、本体の音声入力端子と接続します。

d 映像入力端子 ()

テレビやビデオの映像を入力するための端子。

e 映像出力端子 ()

このパソコンからテレビに映像を出力するための端子。なお、VT300/0D にはこの端子はありません。

チェック!!

S 映像入力端子のある AV 機器に接続してください。また、TV モデル (VT300/0D を除く) の場合、添付の「VIDEO 変換コネクタ」を使えば、RCA 端子のある AV 機器にも接続できます。詳しくは、PART 1 の「AV 機器を接続する」(p.9)をご覧ください。

通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔。壁などでふさがないように注意してください。

音声出力端子 (ステレオ) ()

添付の外付けスピーカや市販のオーディオ機器などに、音声信号(ステレオ)を出力するためのミニジャック端子。

音声入力端子 (ステレオ) ()

市販のオーディオ機器などから、音声信号(ステレオ)を本体に入力するためのミニジャック端子。

マイクロホン端子 (モノラル) ()

マイクロホンを接続するためのミニジャック端子。

IEEE1394 コネクタ (6 ピン)

IEEE1394 対応機器 (6 ピン) を接続するためのコネクタ。

USB コネクタ ()

USB 対応機器を接続するためのコネクタ。

USB コネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

液晶ディスプレイ専用コネクタ ()

セットの液晶ディスプレイを接続するためのコネクタ。セットの液晶ディスプレイ以外は接続できません。

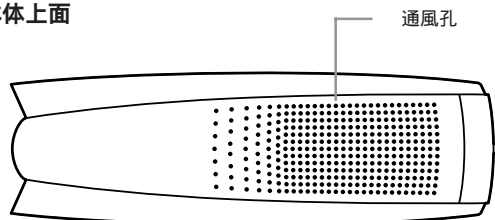
アナログ RGB コネクタ ()

アナログ RGB 対応ディスプレイを接続するためのコネクタ。

✓チェック!!

VC1000J/8FD と VC800H/8FD1 の場合、このコネクタに別売のディスプレイを接続して2台のディスプレイを接続してもマルチモニタサポート機能は使えません。

本体上面



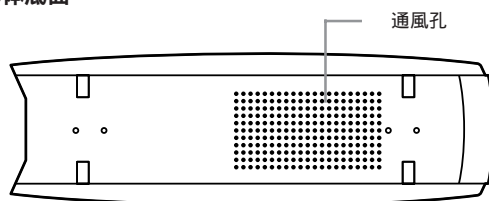
通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔。

✓チェック!!

パソコン本体を横置きにする場合は、通風孔をふさがないようにしてください。

本体底面



通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔。

底面にスタビライザを取り付けることで、通風孔をふさがらない状態になります。

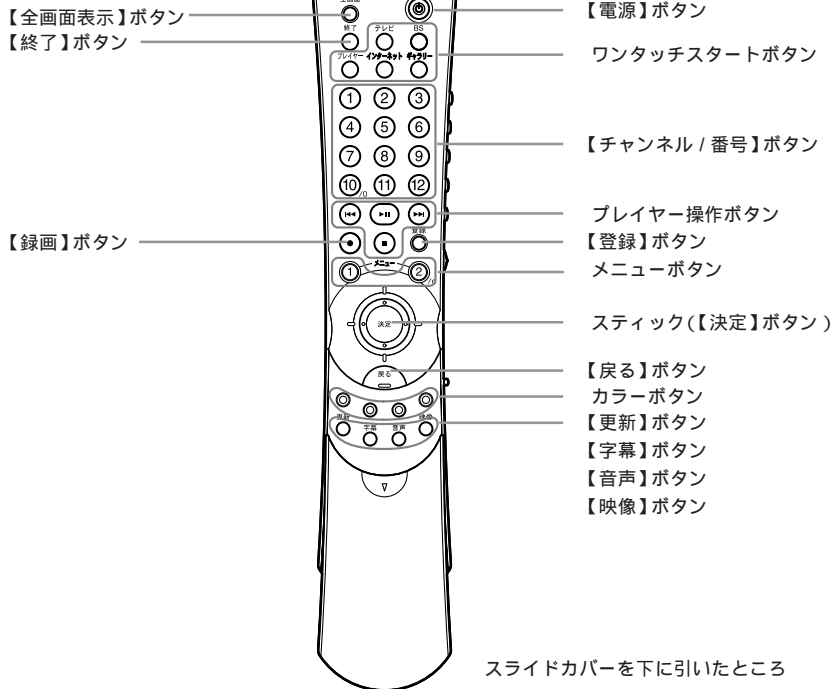
✓チェック!!

パソコン本体を横置きにする場合は、通風孔をふさがないようにしてください。

リモコンの各部の名称

リモコンが添付されているのは、TV モデルのみです。

リモコン前面



【電源】ボタン

液晶ディスプレイセットモデルの場合、パソコン本体の電源を入れるスイッチ。休止状態から復帰するときにも使います。CRT ディスプレイセットモデルの場合、パソコン本体の電源を入れたり、休止状態から復帰したりすることはできません。

✓チェック!

液晶ディスプレイセットモデルの場合、ソフトウェアが明らかに停止している状態になった場合は、【電源】ボタンを4秒以上押し続けることで、強制的に電源を切ることができます。なお、この場合、作成中のデータなどは消えてしまいますので、正しい方法で操作してください。

停電や、電源ケーブルを抜いているために本体に電源が供給されていないときは、【電源】ボタンを押しても電源を入れることができません。

ワンタッチスタートボタン

ボタンを押すだけでアプリケーションを起動できるボタンを「ワンタッチスタートボタン」といいます。各ボタンの役割は次のとおりです。

リモコンのボタンの設定は、リモコンユーティリティで行います。詳しくは、添付ソフトの使い方「リモコンユーティリティ」をご覧ください。

-a【テレビ】ボタン

このボタンを押すと、「SmartVision/TV」が起動します。

-b【BS】ボタン

このボタンを押すと、BS モデルでは「SmartVision BS/TV」が起動します。BS モデル以外では、購入時には何も登録されていません。好きなアプリケーションを登録できます。

-c【プレイヤー】ボタン

このボタンを押すと、「Jet-Audio Player」が起動します。音楽CDやDVD-VideoディスクなどがCD-R/RW with DVD-ROMドライブにセットされている場合は、自動的に再生がはじまります。

 チェック!

CD-R/RW モデルでは、DVD-Video ディスクは再生できません。

-d【インターネット】ボタン

このボタンを押すと、インターネットエクスプローラが起動します。

-e【ギャラリー】ボタン

このボタンを押すと、「SmartGallery」が起動します。

【チャンネル / 番号】ボタン

テレビのチャンネルやDVDのチャプター番号を切り替えるときに使うボタン。リモコン右側面にある【チャンネル】ボタンでも同じ操作ができます。

プレイヤー操作ボタン

音楽CDやDVD-Videoディスク、テレビ番組などの再生をコントロールするためのボタン。各ボタンの役割は次のとおりです。

-a ボタン

音楽CDやDVD-Videoディスク、テレビ番組などを巻き戻し再生したり、前のトラック(ブックマーク)へ戻るときに使うボタン。

-b ボタン

音楽CDやDVD-Videoディスク、テレビ番組などを再生 / 一時停止するときに使うボタン。

-c ボタン

音楽CDやDVD-Videoディスク、テレビ番組などを早送り再生したり、次のトラック(ブックマーク)へ進めたりするときに使うボタン。

-d ボタン

音楽CDやDVD-Videoディスク、テレビ番組などの再生 / 録画を停止するときに使うボタン。

【登録】ボタン

ブックマーク登録を行うときや、ホームページを「お気に入り」に登録するときに使うボタン。

メニューボタン

-a【メニュー 1】ボタン

起動しているアプリケーションのメニューを表示するためのボタン。インターネットエクスプローラ起動時には、「お気に入り」の一覧を表示できます。

-b【メニュー 2】ボタン

起動しているアプリケーションのメニューを表示するためのボタン。インターネットエクスプローラ起動時には、スタートページを表示できます。

スティック(【決定】ボタン)

カーソルを動かしたり、メニュー決定するときに使うボタン。リモコン右側面にある【スティック切替】スイッチを「カーソル」に合わせると、スティックを傾けてカーソルを動かしたり(キーボードのカーソル移動キーに対応)スティックを真下に押してメニューを決定したりできます(キーボードの【Enter】キーに対応)。また【スティック切替】スイッチを「マウス」に合わせると、マウスの左ボタンと同じ働きをします。

【戻る】ボタン

リモコン右側面にある【スティック切替】スイッチをカーソルに合わせると、インターネットエクスプローラの【戻る】ボタンと同じ働きをします。また【スティック切替】スイッチをマウスに合わせると、マウスの右ボタンと同じ働きをします。

カラーボタン(赤ボタン、青ボタン、黄ボタン、緑ボタン)

BSデジタル放送の4択のクイズ番組などで使うボタン。

【更新】ボタン

SmartGalleryのデータベースを更新するときに使うボタン。またインターネットエクスプローラ起動時に押すと、表示しているホームページを更新します。

【字幕】ボタン

字幕表示のON/OFFを切り替えるときに使うボタン。

【音声】ボタン

音声多重放送の主/副音声を切り替えるときに使うボタン。

【映像】ボタン

コンテンツの表示(サムネイル / 詳細)を切り替えるときに使うボタン。

【全画面表示】ボタン

テレビやDVDなどの画面を拡大表示(フルスクリーン表示)するためのボタン。押すたびに全画面表示と元の大きさでの表示とが切り替わります。

【終了】ボタン

操作中のアプリケーションを終了するためのボタン。アプリケーションが起動していないときに押すと、「Windowsの終了」ウィンドウが表示されます。

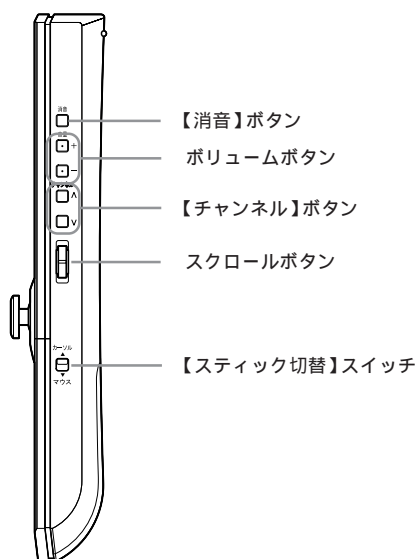
●ボタン(【録画】ボタン)

テレビ/ビデオの映像を録画するためのボタン。

【スティック切替】スイッチ

スティックの機能を「カーソル」が「マウス」に切り替えるときに使うスイッチ。

リモコン右側面



【消音】ボタン

音声を一時的に消すときに使うボタン。

ボリュームボタン

音量を調節するときに使うボタン。【+】を押すと大きく、【-】を押すと小さくなります。

【チャンネル】ボタン

テレビのチャンネルやDVDのチャプター番号を切り替えるときに使うボタン。

スクロールボタン

アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックしてアクティブにした状態で、前方に押すと画面が上にスクロールし、手前に引くと画面が下にスクロールします。

機能仕様

VC800H/8、VC1000J/8

型名		VC800H/8FD1	VC1000J/8FD
型番		PC-VC800H8FD1	PC-VC1000J8FD
CPU		Intel® Celeron™ プロセッサ (800MHz)	Pentium® プロセッサ (1.0BGHz)
チップセット		Intel社製 810E Chipset	
システムバスクロック		100MHz (メモリバス:100MHz)	133MHz (メモリバス:100MHz)
キャッシュ	1次	32Kバイト (CPU内蔵)	
	2次	128Kバイト (CPU内蔵)	256Kバイト (CPU内蔵)
メインRAM	標準容量	128Mバイト 1 (SDRAM-DIMM、PC100対応)	
	スロット数	2スロット (DIMMスロット 1 空きスロット 1)	
	最大容量	512Mバイト 2	
表示機能	ビデオRAM	8~11Mバイト 1	
	ディスプレイキャッシュ	4Mバイト	
	グラフィックアクセラレータ	Intel社製 82810E(AGP 1 Chipset内蔵)	
	解像度	640×480ドット	最大1,677万色 3
	表示色	800×600ドット	最大1,677万色 3
サウンド機能	音源	PCM 録音再生機能 : ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート4~48KHz、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、ウェーブテーブルシンセサイザー機能搭載(GM演奏モード対応)、最大同時発音数64音、Downloadable Sound (DLS) Level-1対応	
	サラウンド機能	エンハンスステレオ	
	ステレオスピーカ	添付の液晶ディスプレイに内蔵	
	キーボード	ワイヤレスキーボード 7 8、JIS標準配列(英数、かな)、109キーレイアウト準拠、電源スイッチ、ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、テンキー・12ファンクションキー付き	
入力装置	マウス	ワイヤレスマウス 8 9、スクロール機能付き	
	ハードディスクドライブ 10 (Ultra ATA-66)	約40Gバイト 11	約60Gバイト 12
補助記憶装置	CD/DVDドライブ	マルチブレードドライブ(CD-R/RW with DVD-ROM) 13 14 [DVD読出:最大8倍速、CD読出:最大32倍速、CD-R書込:最大8倍速、CD-RW書換:最大8倍速 (High Speed CD-RWメディア対応 15)]	
	USB 6	コネクタ4ピン×3(本体×1、液晶ディスプレイ×2)	
インターフェイス	パラレル	D-sub25ピン×1	
	シリアル	D-sub9ピン×1	
	ディスプレイ	ミニD-sub15ピン×1(アナログRGB)	
	専用	専用30ピン×1 16	
	FAXモデム	モジュラコネクタ×2(LINE×1、TELEPHONE×1)	
	LAN	—	RJ45コネクタ×1(100BASE-TX/10BASE-T)
	IEEE1394 (DV)	6ピン×1 17、4ピン×1 17	
通信機能	サウンド関連	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力×1(丸形(PCM/ドルビーデジタル)) 18、LINE入力×1(ステレオ、ミニジャック)、LINE出力×1(ステレオ、ミニジャック)、ヘッドホン出力×1(ステレオ、ミニジャック) 19、マイク入力×1(モノラル、ミニジャック)	
	FAXモデム	データ通信 : 最大56Kbps 20 (K56flex™、V.90対応) / FAX通信 : 最大14.4Kbps (V.17)、Resume On Ring機能対応	
	LAN	—	100BASE-TX/10BASE-T
5型ベイ		1スロット(CD/DVDドライブで1スロット占有済) [空きスロット 0]	
内蔵3.5型ベイ		1スロット(HDDで1スロット占有済) [空きスロット 0]	
拡張スロット	PCカードスロット	Type ×2(Type ×1スロットとしても使用可)、PC Card Standard準拠、CardBus対応 21	
	PCIスロット	2スロット(ハーフ×2 1 空きスロット 2)	2スロット(ハーフ×2 1 空きスロット 1)
電源		AC100V±10%、50/60Hz	

VC800H/8、VC1000J/8

型名		VC800H/8FD1	VC1000J/8FD
消費電力	本体	約59W(最大116W) 22	約62W(最大120W) 22
	ディスプレイ	本体に含まれる	
エネルギー消費効率		R区分 0.015 22	R区分 0.014 22
温湿度条件		10～35、20～80%(ただし結露しないこと)	
外形寸法	本体	106(W)×337(D)×325(H)mm(突起部除く) 23	
	ディスプレイ	381(W)×210(D)×397(H)mm	
	キーボード	382(W)×179(D)×40(H)mm	
質量	本体	約7.4kg	約7.5kg
	ディスプレイ	約6.3kg	
	キーボード	約0.9kg 24	
	マウス	約0.2kg 24	
インストールOS		Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 25 26	
サポートOS		Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 25、 Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版 25	
主なインストールソフト		Microsoft® Office XP Personal	
主な添付品		マニュアル、バックアップCD-ROM、電源ケーブル、回線接続ケーブル、乾電池(単三アルカリ:2本、単四アルカリ:2本)、保証書	
ディスプレイ	画面サイズ	15型(デジタルTFT液晶)	15型(高輝度デジタルTFT液晶)
	表示寸法	アクティブ表示エリア: 304(W)×228(H)mm	
	画素ピッチ	0.3mm	0.297mm
	ディスプレイプロセッサ	Sage製 Cheetah4	
	表示解像度	640×480ドット、800×600ドット、1,024×768ドット 27、デジタルRGBインターフェイス(T.M.D.S)	
USBポート 6		2ポート装備	

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

- 1 : ビデオ RAM はメイン RAM を使用します。表示領域として使用するのはこの一部です。
- 2 : 増設 RAM サポート(256M バイト)を 2 枚実装する必要があります。増設 RAM サポートを増設する際には 100MHz 用メモリを実装してください。
- 3 : グラフィックアクセラレータの持つ最大発色数です。添付の液晶ディスプレイではディザリングにより 1,619 万色となります。
- 4 : グラフィックアクセラレータの持つ最大発色数です。添付のディスプレイでは表示できません。
- 5 : DVD を再生する場合の最大表示色は 256 色となります。
- 6 : 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
- 7 : キーボードの電池寿命はご使用の環境条件や方法により異なりますがアルカリ電池で最大 300 時間です。
- 8 : 使用可能な距離はご使用の環境条件や方法により異なりますが約 1.2m です。
- 9 : マウスの電池寿命はご使用の環境条件や方法により異なりますがアルカリ電池で最大 190 時間です(マウスを持ちつづけていると動作状態となることがあります)。
- 10 : 1G バイトを 10 億バイトで計算した場合の数値です。
- 11 : Windows のシステムからは、容量が約 37.2G バイトと認識されます。
- 12 : Windows のシステムからは、容量が約 55.8G バイトと認識されます。
- 13 : 縦置き時、8cmCD は使用不可です。
- 14 : 映像ソフトの再生は、ソフトウェアによる MPEG2 再生方式です。
- 15 : CD-RW メディアの書き換えにおいて、High Speed CD-RW メディアが使用できます。8 倍速で書き換えるには、High Speed CD-RW メディアが必要です。
- 16 : 添付の液晶ディスプレイを接続します。添付の液晶ディスプレイ以外は接続できません。
- 17 : 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット(<http://121ware.com>)をご確認ください。
- 18 : 光デジタルオーディオ出力に接続するオーディオ機器は 48kHz のサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般の CD プレーヤー・MD デッキ類と同様に、SCMS(シリアルコピーマネジメントシステム)に準拠した信号を出力します。
- 19 : 添付の液晶ディスプレイ側にあります。
- 20 : 最大 56Kbps はデータ受信時の速度です。データ送信時は最大 33.6Kbps になります。
- 21 : ZV ポート対応カードは使用できません。
- 22 : 添付の液晶ディスプレイの消費電力を含みます。
- 23 : スタビライザ(縦置き台)取り付け時は、165(W)×337(D)×325(H)mm です。
- 24 : 乾電池の質量は含まれておりません。
- 25 : 添付のソフトウェアは、インストールされている OS でのみご利用できます。
- 26 : 別売の Microsoft® Windows® Millennium Edition パッケージをインストールおよび利用することはできません。
- 27 : 1,024 × 768 ドット以外の表示解像度は、常に拡大表示されます。拡大表示では文字や罫線の太さが不均一になることがあります。

VT700/0、VT750/0、VT770/0

型名		VT700/0D		VT750/0D		VT770/0D	
型番		PC-VT7000D		PC-VT7500D		PC-VT7700D	
CPU		Intel® Celeron™プロセッサ(800MHz)		Pentium® プロセッサ(866MHz)		Pentium® プロセッサ(1.0BGHz)	
チップセット		VIA社製 Apollo Pro133A Chipset					
システムバスクロック		100MHz(メモリバス:133MHz)		133MHz(メモリバス:133MHz)			
キャッシュ	1次	32Kバイト(CPU内蔵)					
メモリ	2次	128Kバイト(CPU内蔵)		256Kバイト(CPU内蔵)			
メインRAM	標準容量	128Mバイト(VC SDRAM 1-DIMM、VC133対応)					
	スロット数	2スロット(DIMMスロット 1 空きスロット1)					
	最大容量	512Mバイト 2					
表示機能	ビデオRAM	16Mバイト					
	グラフィックアクセラレータ	nVIDIA™社製 GeForce2 MX™ (AGP)					
	解像度表示色	640×480ドット	最大1,677万色 3				
		800×600ドット	最大1,677万色 3				
		1,024×768ドット	最大1,677万色 3				
		1,280×768ドット	最大1,677万色 3				
1,280×1,024ドット	最大1,677万色 4						
サウンド機能	音源	PCM 録音再生機能 : ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート4 ~ 48KHz、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、ウェーブテーブルシンセサイザー機能搭載(GM演奏モード対応)、最大同時発音数64音、Downloadable Sound (DLS)Level-1対応					
	サラウンド機能	エンハンスステレオ					
	スピーカ	ステレオスピーカ	添付の液晶ディスプレイに内蔵				外付けサラウンドスピーカシステム (5.1チャンネル対応) 5
入力装置	キーボード	ワイヤレスキーボード 7 8 (JIS標準配列、109キーレイアウト準拠、電源スイッチ、ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、テンキー・12ファンクションキー付き)					
	マウス	ワイヤレスマウス 8 9、スクロール機能付き					
	リモコン	赤外線リモコン 10 11					
補助記憶装置	ハードディスクドライブ 12 (Ultra ATA-66)	約60Gバイト 13		約80Gバイト 14			
	CD/DVDドライブ	マルチブレードドライブ(CD-R/RW with DVD-ROM) 15 16 [DVD読出:最大8倍速、CD読出:最大32倍速、CD-R書込:最大8倍速、CD-RW書換:最大8倍速(High Speed CD-RWメディア対応) 17]					
映像関連機能	TVチューナ	音声多重対応、受信チャンネル:VHF (1 ~ 12ch)、UHF (13 ~ 62ch)				BSデジタル放送対応 18、音声多重対応、受信チャンネル:VHF (1 ~ 12ch)、UHF (13 ~ 62ch)	
	データ放送受信	地上波データ放送 (bitcast、ADAMS)、文字多重放送				BSデジタルデータ放送、地上波データ放送 (bitcast、ADAMS)、文字多重放送	
	映像合成表示機能	DirectShow®により任意のサイズで合成表示可能 (全画面表示可能)、bitcastブラウザ使用時は240×180ドット以上 (縦横比3:4固定) SmartVision/TV 42 では400×300ドット以上 (縦横比9:16) の範囲で固定サイズによる段階的リサイズが可能【VT770/0Dのみ】 SmartVision BS/TV 19 では640×360ドット ~ 960×540ドット (縦横比9:16) の範囲で固定サイズによる段階的リサイズが可能					
	テレビ録画機能 20	MPEG2(高画質モード:640×480ドット、7Mbps/標準画質モード:320×480ドット、6.2Mbps)、MPEG1(2Mbps)で録画可能。最長録画時間 21 (標準画質モード):約18時間50分(VT700/0D) 22、約25時間50分(VT750/0D、VT770/0D) 22					
インターフェイス	USB 6	コネクタ4ピン×4(本体×2、液晶ディスプレイ×2)					
	パラレル	D-sub25ピン×1					
	シリアル	D-sub9ピン×1					
	ディスプレイ	ミニD-sub15ピン×1 (アナログRGB)					
	専用	専用30ピン×1 23					
	FAXモデム	モジュラコネクタ×2(LINE×1、TELEPHONE×1)					
	IEEE1394 (DV)	6ピン×1 24、4ピン×1 24					

VT700/0、VT750/0、VT770/0

型名		VT700/0D	VT750/0D	VT770/0D
インターフェイス	サウンド関連	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力×1(丸形(PCM/ドルビーデジタル)) 25、 LINE入力×2(ステレオ、ミニジャック) 26、LINE出力×2(ステレオ、ミニジャック) 26、 ヘッドホン出力×1(ステレオ、ミニジャック) 27、マイク入力×1(モノラル、ミニジャック)		光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力×2(丸形(PCM/ドルビーデジタル)×1 25、角形(PCM/AAC)×1 28)、LINE入力×2(ステレオ、ミニジャック) 26 29、LINE出力×3(ステレオ、ミニジャック) 26 29、ヘッドホン出力×1(ステレオ、ミニジャック) 27、マイク入力×1(モノラル、ミニジャック)
	映像関連	TVアンテナ入力×1(U/V混合、75Ω、同軸F型)、ビデオ入力×1(コンポジット) 30、 ビデオ出力×1(TV-OUT端子、S-ビデオ/コンポジット共用、ミニDIN7ピン) 31 43		BSアンテナ入力×1(75Ω、同軸F型)、TVアンテナ入力×1(U/V混合、75Ω、同軸F型)、 ビデオ入力×1(コンポジット) 30、ビデオ出力×1(TV-OUT端子、S-ビデオ/コンポジット共用、ミニDIN7ピン) 31 43、ビデオ/LINE出力×1(S-ビデオ/コンポジット/LINE共用、ミニDIN8ピン) 29 32 33、ICカードボックス接続端子×1(専用13ピン)
通信機能	FAXモデム	データ通信:最大56Kbps 34 (K56flex™、V.90対応)/ FAX通信: 最大14.4Kbps (V.17)、Resume On Ring機能対応		
5型ベイ		1スロット(CD/DVDDドライブで1スロット占有済)[空きスロット0]		
内蔵3.5型ベイ		1スロット(HDDで1スロット占有済)[空きスロット0]		
拡張スロット	PCカードスロット	Type ×2(Type ×1スロットとしても使用可)、PC Card Standard準拠、CardBus対応 35		
	PCIスロット	2スロット(ハーフ×2) [空きスロット1]		2スロット(ハーフ×2) [空きスロット0]
電源		AC100V±10%、50/60Hz		
消費電力	本体	約48W(最大99W)		約65W(最大97W)
	ディスプレイ	約40W		
エネルギー消費効率		R区分 0.016		
温湿度条件		10～35、20～80%(ただし結露しないこと)		
外形寸法	本体	106(W)×337(D)×325(H)mm(突起部除く) 36		
	ディスプレイ	535(W)×180(D)×349(H)mm		
	キーボード	382(W)×179(D)×40(H)mm		
	リモコン	48(W)×206(D)×35(H)mm(スティック含む)		
質量	本体	約7.5kg		約7.8kg
	ディスプレイ	約7.3kg		
	キーボード	約0.9kg 37		
	マウス	約0.2kg 37		
	リモコン	約0.1kg 37		
インストールOS		Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 38 39		
サポートOS		Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 38、 Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版 38		
主なインストールソフト		Microsoft® Office XP Personal		
主な添付品		ビデオ変換コネクタ(ミニDIN7ピン(S-ビデオ出力)→コンポジット出力)、乾電池(単三アルカリ:2本、単四アルカリ:4本)、マニュアル、バックアップCD-ROM、電源ケーブル、LINEケーブル、回線接続ケーブル、保証書		ICカードボックス、B-CASカード、ビデオ変換コネクタ(ミニDIN7ピン(S-ビデオ出力)→コンポジット出力)、ビデオ/LINEケーブル(ミニDIN8ピン→S-ビデオ出力/コンポジット出力/LINE出力)、乾電池(単三アルカリ:2本、単四アルカリ:4本)、マニュアル、バックアップCD-ROM、電源ケーブル、LINEケーブル(2本)、回線接続ケーブル、保証書
ディスプレイ	画面サイズ	17.5型ワイド(高輝度デジタルTFT液晶)		
	表示寸法	アクティブ表示エリア:380(W)×228(H)mm		
	画素ピッチ	0.297mm		
	ディスプレイプロセッサ	Sage製 Jag TS		
	表示解像度	640×480ドット 40、800×600ドット 40、1,024×768ドット 40、1,280×768ドット 41、 デジタルRGBインターフェイス (T.M.D.S)		
USBポート 6		2ポート装備		

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

- 1 : VirtualChannel™ SDRAM の略です。VirtualChannel™ SDRAM は、従来 SDRAM と互換性を持ちながらパフォーマンスを向上させる新しいメモリです。
- 2 : 増設 RAM サブボード(256M バイト)を 2 枚実装する必要があります。増設 RAM サブボードを増設する際には 133MHz 用メモリを実装してください。
- 3 : グラフィックアクセラレータの持つ最大発色数です。添付の液晶ディスプレイではディザリングにより 1,619 万色となります。
- 4 : グラフィックアクセラレータの持つ最大発色数です。添付のディスプレイでは表示できません。
- 5 : BS デジタル放送の AAC5.1ch には対応していません。
- 6 : 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
- 7 : キーボードの電池寿命はご使用の環境条件や方法により異なりますがアルカリ電池で最大 300 時間です。
- 8 : 使用可能な距離はご使用の環境条件や方法により異なりますが約 1.2m です。
- 9 : マウスの電池寿命はご使用の環境条件や方法により異なりますがアルカリ電池で最大190時間で(マウスを持ちつづけていると動作状態となることがあります)。
- 10 : 使用可能な距離はご使用の環境条件や方法により異なりますが約 3m です。
- 11 : リモコンの電池寿命はご使用の環境条件や方法により異なりますがアルカリ電池で最大 190 時間です。
- 12 : 1G バイトを 10 億バイトで計算した場合の数値です。
- 13 : Windows のシステムからは、容量が約 55.8G バイトと認識されます。
- 14 : Windows のシステムからは、容量が約 74.5G バイトと認識されます。
- 15 : 縦置き時、8cmCD は使用不可です。
- 16 : 映像ソフトの再生は、ソフトウェアによる MPEG2 再生方式です。
- 17 : CD-RW メディアの書き換えにおいて、High Speed CD-RW メディアが使用できます。8 倍速で書き換えるには、High Speed CD-RW メディアが必要です。
- 18 : ハイビジョン映像(1125i(1080i)/750p(720p))をパソコン上で処理しやすい525p(480p)へ変換して表示します。
- 19 : 本体にプリインストールされている BS デジタル放送受信のソフトウェア名称です。
- 20 : VALUESTAR T(VT770/D)で受信可能な BS デジタル放送は、タイムシフト視聴やハードディスクへのデジタル録画には対応していません。
- 21 : 録画時間は、映像の内容によって前後する場合があります。
- 22 : 高画質モードによる最長録画時間は、約 16 時間 40 分(VT700/D)、約 22 時間 50 分(VT750/D、VT770/D)です。
- 23 : 添付の液晶ディスプレイを接続する専用ポートです。添付の液晶ディスプレイ以外は接続できません。
- 24 : 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット(<http://121ware.com>)をご確認ください。
- 25 : 光デジタルオーディオ出力に接続するオーディオ機器は48kHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般のCDプレーヤー・MDデッキ類と同様に、SCMS(シリアルコピーマネジメントシステム)に準拠した信号を出力します。
- 26 : 本体側の LINE 入力と TV ボード側の LINE 出力は、添付の LINE ケーブルで接続する必要があります。
- 27 : 添付の液晶ディスプレイ側にあります。
- 28 : 市販の AAC5.1ch に対応している AAC デコーダ内蔵 AV アンプとスピーカーシステムを接続することによって、BS デジタル放送の 5.1ch デジタルサラウンドを楽しむことができます。また、一般の CD プレーヤー・MD デッキ類と同様に、SCMS(シリアルコピーマネジメントシステム)に準拠した信号を出力します。なお、添付のサラウンドスピーカーシステム(5.1 チャンネル対応)は AAC5.1ch には対応していません。
- 29 : TV ボード側の LINE 入力とビデオ /LINE ケーブル(BS デジタルボード側のビデオ /LINE 出力へ接続)の LINE 出力は、添付の LINE ケーブルで接続する必要があります。
- 30 : 著作権保護のための信号が記録されている市販素材は、ハードディスク等へ録画することはできません。
- 31 : S-ビデオ出力として利用できます。コンボジット出力として利用する場合は、添付のビデオ変換コネクタを使用することにより利用できます。
- 32 : 著作権保護のための信号が記録されている市販素材は、ビデオデッキ等へ録画することはできません。また、ビデオデッキ経由でのテレビ出力はできません。(同方式でテレビに出力しているビデオ一体型テレビを含む)
- 33 : 添付のビデオ /LINE ケーブルを接続することにより、S-ビデオ出力、コンボジット出力、LINE 出力が利用できます。
- 34 : 最大 56Kbps はデータ受信時の速度です。データ送信時は最大 33.6Kbps になります。
- 35 : ZV ポート対応カードは使用できません。
- 36 : スタビライザ(縦置き台)取り付け時は、165(W)×337(D)×325(H)mm です。
- 37 : 乾電池の質量は含まれておりません。
- 38 : 添付のソフトウェアは、インストールされている OS でのみご利用できます。
- 39 : 別売の Microsoft® Windows® Millennium Edition パッケージをインストールおよび利用することはできません。
- 40 : 画面の左右で 256 画素分の非表示エリアが発生します。
- 41 : 1,280 × 768 ドットおよび 1,024 × 768 ドット以外の表示解像度は、常に拡大表示されます。拡大表示では文字や罫線の太さが不均一になることがあります。
- 42 : 本体にプリインストールされている地上波放送受信・録画のソフトウェア名称です。
- 43 : 著作権保護のための信号が記録されている市販素材、またはソフトウェアの種類によりビデオデッキ等へ録画することはできません。また、ビデオデッキ経由でのテレビ出力はできません。(同方式でテレビに出力しているビデオ一体型テレビを含む)

セットのスピーカの機能仕様

VT770/D にセットのサラウンドスピーカーシステム

サラウンドスピーカーシステム(PK-SP500)の機能仕様については、スピーカに添付のマニュアルをご覧ください。

VT300/0、VT500/0、VT550/0

型名		VT300/0D	VT500/0D	VT550/0D
型番		PC-VT3000D	PC-VT5000D	PC-VT5500D
CPU		Pentium® プロセッサ(1.0BGHz)	Intel® Celeron™ プロセッサ(800MHz)	Pentium® プロセッサ(866MHz)
チップセット		Intel社製 810E Chipset	VIA社製 Apollo Pro133A Chipset	
システムバスクロック		133MHz(メモリバス:100MHz)	100MHz(メモリバス:133MHz)	133MHz(メモリバス:133MHz)
キャッシュ	1次	32Kバイト(CPU内蔵)		
	2次	256Kバイト(CPU内蔵)	128Kバイト(CPU内蔵)	256Kバイト(CPU内蔵)
	標準容量	128Mバイト 1 (SDRAM-DIMM、PC100対応)	128Mバイト(SDRAM-DIMM、PC133対応)	
	スロット数	2スロット(DIMMスロット 1 空きスロット 1)		
メインRAM	最大容量	512Mバイト 2	512Mバイト 3	
	ビデオRAM	8～11Mバイト 1	16Mバイト	
	ディスプレイキャッシュ	4Mバイト	—	
	グラフィックアクセラレータ	Intel社製 82810E(AGP)(Chipset内蔵)	nVIDIA™ 社製 GeForce2 MX™ (AGP)	
表示機能	解像度・表示色	640×480ドット	最大1,677万色	最大1,677万色 4
		800×600ドット	最大1,677万色	最大1,677万色 4
		1,024×768ドット	最大1,677万色	最大1,677万色 4
		1,280×768ドット	-	最大1,677万色 4
		1,280×1,024ドット	最大1,677万色 6	最大1,677万色 5
サウンド機能	音源	PCM 録音再生機能:ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート4～48KHz、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、ウェーブテーブルシンセサイザー機能搭載(GM演奏モード対応)、最大同時発音数64音、Downloadable Sound (DLS) Level-1対応		
	サラウンド機能	エンハンスドステレオ		
	ステレオスピーカ	外付け高音質スピーカ	外付け高音質スピーカ、添付の液晶ディスプレイに内蔵	
入力装置	キーボード	USBキーボード(キーボードの左下隅に【Fn】キーがあるタイプ) USBコネクタに接続、JIS標準配列、109キーレイアウト準拠、スリープボタン、ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、テンキー・12ファンクションキー、USBバスパワーハブ(2ポート)付き 7 8	ワイヤレスキーボード 9 10(JIS標準配列、109キーレイアウト準拠、電源スイッチ、ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、テンキー・12ファンクションキー付き)	
	マウス	USBマウス USBコネクタに接続(添付のキーボードにあるUSBコネクタに接続)、スクロール機能付き	ワイヤレスマウス 10 12、スクロール機能付き	
	リモコン	赤外線リモコン 13 14		
補助記憶装置	ハードディスクドライブ 15 (Ultra ATA-66)	約60Gバイト 16		
	CD/DVDドライブ	マルチブレードドライブ(CD-R/RW with DVD-ROM) 17 18 [DVD読出:最大8倍速、CD読出:最大32倍速、CD-R書込:最大8倍速、CD-RW書換:最大8倍速(High-Speed CD-RWメディア対応) 19]		
映像関連機能	TVチューナ	音声多重対応、受信チャンネル:VHF (1～12ch)、UHF (13～62ch)		
	データ放送受信	地上波データ放送(bitcast、ADAMS)、文字多重放送		
	映像合成表示機能	DirectShow® により任意のサイズで合成表示可能(全画面表示可能)、bitcastブラウザ使用時は240×180ドット以上(縦横比3:4固定) SmartVision/TV 45 では400×300ドット以上(縦横比9:16)の範囲で固定サイズによる段階的リサイズが可能		
	テレビ録画機能	MPEG2(高画質モード:640×480ドット、7Mbps/標準画質モード:320×480ドット、6.2Mbps)、MPEG1(2Mbps)で録画可能。最長録画時間 20(標準画質モード):約18時間50分 21		
インターフェイス	USB 7	コネクタ4ピン×4 22 (本体×2 23、キーボード×2 8)	コネクタ4ピン×4(本体×2、液晶ディスプレイ×2)	
	パラレル	D-sub25ピン×1		
	シリアル	D-sub9ピン×1		
	ディスプレイ	ミニD-sub15ピン×1(アナログRGB)		
	専用	専用30ピン×1 24		
	FAXモデム	モジュラコネクタ×2(LINE×1、TELEPHONE×1)		
	IEEE1394 (DV)	6ピン×1 25、4ピン×1 25		

VT300/0、VT500/0、VT550/0

型名		VT300/0D	VT500/0D	VT550/0D
インターフェイス	サウンド関連	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力×1(丸形PCM/ドルビーデジタル) 26、LINE入力×2(ステレオ、ミニジャック) 27、LINE出力×2(ステレオ、ミニジャック) 27、ヘッドホン出力×1(ステレオ、ミニジャック) 28、マイク入力×1(モノラル、ミニジャック)		
	映像関連	TVアンテナ入力×1(U/V混合、75Ω、同軸 F型)、ビデオ入力×1(コンボジット) 29、ビデオ出力×1(TV-OUT端子、S-ビデオ/コンボジット共用、ミニDIN7ピン) 30 31		
通信機能	FAXモデム	データ通信:最大56Kbps 32 (K56flex™、V.90対応) / FAX通信:最大14.4Kbps (V.17)、Resume On Ring機能対応		
5型ベイ		1スロット(CD/DVDドライブでスロット占有済) [空きスロット0]		
内蔵3.5型ベイ		1スロット(HDDで1スロット占有済) [空きスロット0]		
拡張	PCカードスロット	Type ×2 (Type ×1スロットとしても使用可)、PC Card Standard準拠、CardBus対応 33		
スロット	PCIスロット	2スロット(ハーフ×2) [空きスロット1]		
電源		AC100V±10%、50/60Hz		
消費電力	本体	約42W(最大90W)	約79W(最大136W) 34	
	ディスプレイ	約96W	本体に含まれる	
エネルギー消費効率		R区分 0.014	R区分 0.018 34	R区分 0.016 34
温湿度条件		10～35、20～80%(ただし結露しないこと)		
外形寸法	本体	106(W)×337(D)×325(H)mm(突起部除く) 35		
	ディスプレイ	399(W)×415(D)×413(H)mm (専用回転台含む)	393(W)×210(D)×355(H)mm	
	キーボード	382(W)×179(D)×44(H)mm	382(W)×179(D)×40(H)mm	
	リモコン	48(W)×206(D)×35(H)mm(スティック含む)		
質量	本体	約7.5kg		
	ディスプレイ	約17.8kg	約6.0kg	
	キーボード	約1.2kg	約0.9kg 36	
	マウス	約0.2kg	約0.2kg 36	
	リモコン	約0.1kg 36		
インストールOS		Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 37 38		
サポートOS		Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 37、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版 37		
主なインストールソフト		Microsoft® Office XP Personal		
主な添付品		リモコン用受信ユニット 11、USB増設ケーブル 39、乾電池(単四アルカリ:2本)、マニュアル、バックアップCD-ROM、電源ケーブル、LINEケーブル、回線接続ケーブル、保証書	ビデオ変換コネクタ(ミニDIN7ピン(S-ビデオ出力)→コンボジット出力)、乾電池(単三アルカリ:2本、単四アルカリ:4本)、マニュアル、バックアップCD-ROM、電源ケーブル、LINEケーブル、回線接続ケーブル、保証書	
ディスプレイ	画面サイズ	17型(高輝度フルフラット、ダイヤモンドトロン® M ² 管)	15.3型 ワイド(高輝度デジタルTFT液晶)	
	表示寸法	標準表示範囲:315(W)×236(H)mm 40 最大表示可能範囲:325(W)×243(H)mm 41	アクティブ表示エリア:334(W)×200(H)mm	
	AGピッチ 42	0.25mm	0.261mm	
	水平走査周波数	31～96KHz	—	
	垂直走査周波数	59～86Hz	—	
	ディスプレイプロセッサ	—	Sage製 Jag-D	
	表示解像度	640×480ドット、800×600ドット、1,024×768ドット、1,280×1,024ドット	640×480ドット 43、800×600ドット 43、1,024×768ドット 43、1,280×768ドット 44、デジタルRGBインターフェイス(T.M.D.S)	
	USBポート 7	—	2ポート装備	

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

- 1 : ビデオRAMはメインRAMを使用します。表示領域として使用するのはこの一部です。
- 2 : 増設RAMサブボード(256Mバイト)を2枚実装する必要があります。増設RAMサブボードを増設する際には100MHz用メモリを実装してください。
- 3 : 増設RAMサブボード(256Mバイト)を2枚実装する必要があります。増設RAMサブボードを増設する際には133MHz用メモリを実装してください。
- 4 : グラフィックアクセラレータの持つ最大発色数です。添付の液晶ディスプレイではディザリングにより1,619万色となります。
- 5 : グラフィックアクセラレータの持つ最大発色数です。添付のディスプレイでは表示できません。
- 6 : DVDを再生する場合、またはテレビを見る場合の最大表示色は256色となります。

- 7 : 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
- 8 : USB コネクタから消費する電流が 100mA 以下の機器に限ります。
- 9 : キーボードの電池寿命はご使用の環境条件や方法により異なりますがアルカリ電池で最大 300 時間です。
- 10 : 使用可能な距離はご使用の環境条件や方法により異なりますが約 1.2m です。
- 11 : 添付のキーボードにある USB コネクタに接続します。
- 12 : マウスの電池寿命はご使用の環境条件や方法により異なりますがアルカリ電池で最大 190 時間です(マウスを持ちつづけていると動作状態となることがあります)。
- 13 : 使用可能な距離はご使用の環境条件や方法により異なりますが約 3m です。
- 14 : リモコンの電池寿命はご使用の環境条件や方法により異なりますがアルカリ電池で最大 190 時間です。
- 15 : 1G バイトを 10 億バイトで計算した場合の数値です。
- 16 : Windows のシステムからは、容量が約 55.8G バイトと認識されます。
- 17 : 縦置き時、8cmCD は使用不可です。
- 18 : 映像ソフトの再生は、ソフトウェアによる MPEG2 再生方式です。
- 19 : CD-RW メディアの書き換えにおいて、High Speed CD-RW メディアが使用できます。8 倍速で書き換えるには、High Speed CD-RW メディアが必要です。
- 20 : 録画時間は、映像の内容によって前後する場合があります。
- 21 : 高画質モードによる最長録画時間は、約 16 時間 40 分です。
- 22 : 本体の 1 ポートはキーボードで占有、キーボードの 2 ポートはマウスとリモコン用受信ユニットで占有します。
- 23 : 添付の USB 増設ケーブルを接続する必要があります。
- 24 : 液晶ディスプレイ添付モデルの場合は添付の液晶ディスプレイを接続します。また、VT300/0D の場合は添付の USB 増設ケーブルを接続します。添付の液晶ディスプレイ、または添付の USB 増設ケーブル以外は接続できません。
- 25 : 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット (<http://121ware.com>) をご確認ください。
- 26 : 光デジタルオーディオ出力に接続するオーディオ機器は 48kHz のサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般の CD プレーヤー・MD デッキ類と同様に、SCMS(シリアルコピーマネージメントシステム)に準拠した信号を出力します。
- 27 : 本体側の LINE 入力と TV ボード側の LINE 出力は、添付の LINE ケーブルで接続する必要があります。
- 28 : 液晶ディスプレイ添付モデルの場合は添付の液晶ディスプレイ側にあります。CRT ディスプレイ添付モデルの場合は添付の外付けスピーカー側にあります。
- 29 : 著作権保護のための信号が記録されている市販素材は、ハードディスク等へ録画することはできません。
- 30 : S-ビデオ出力として利用できます。コンボジット出力として利用する場合は、添付のビデオ変換コネクタを使用することにより利用できます。
- 31 : 著作権保護のための信号が記録されている市販素材、またはソフトウェアの種類によりビデオデッキ等へ録画することはできません。また、ビデオデッキ経由でのテレビ出力はできません。(同方式でテレビに出力しているビデオ一体型テレビを含む)
- 32 : 最大 56Kbps はデータ受信時の速度です。データ送信時は最大 33.6Kbps になります。
- 33 : ZV ポート対応カードは使用できません。
- 34 : 添付の液晶ディスプレイの消費電力を含みます。
- 35 : スタビライザ(縦置き台)取り付け時は、165(W)×337(D)×325(H)mm です。
- 36 : 乾電池の質量は含まれておりません。
- 37 : 添付のソフトウェアは、インストールされている OS でのみご利用できます。
- 38 : 別売の Microsoft® Windows® Millennium Edition パッケージをインストールおよび利用することはできません。
- 39 : 本体側の専用 30 ピンコネクタへ接続する必要があります。
- 40 : 表示するタイミングによっては表示サイズが変わる場合があります。
- 41 : 接続する装置および表示する解像度によっては、表示面積を最大まで広げられない場合があります。
- 42 : 液晶ディスプレイの場合は画素ピッチです。
- 43 : 画面の左右で 256 画素分の非表示エリアが発生します。
- 44 : 1,280 × 768 ドットおよび 1,024 × 768 ドット以外の表示解像度は、常に拡大表示されます。拡大表示では文字や罫線の太さが不均一になることがあります。
- 45 : 本体にプリインストールされている地上波放送受信・録画のソフトウェア名称です。

セットのスピーカーの機能仕様

最大定格出力	1.5W + 1.5W
外形寸法	約90 (W)×90 (D)×236 (H)mm (片側)
質量	スピーカ (右) 約270g、スピーカ (左) 約310g ACアダプタ (ケーブル含む) 約310g

FAX モデムボード機能仕様

■ 機能概要

CPU I/F	AC-linkインターフェイス
NCU部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リング検出機能
モデムチップセット部	・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット - V.90 - K5.6flex - V.34 - V.32bis - V.32、V.22bis、V.22、V.21 - V.42LAPMおよびMNP4エラー訂正 - V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 - V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・TiesATコマンドセット - AT - Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング(DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

■ FAX 機能

項 目	規 格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14,400/12,000/9,600/7,200/4,800/2,400/300bps 注
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	TCM:14,400/12,000/9,600/7,200bps QAM:9,600/7,200bps DPSK:4,800/2,400bps FSK:300bps
送信レベル	-11 ~ -15dBm(出荷時 -15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

■ データモデム 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送 受 信: 33,600/31,200/28,800/26,400/24,000/21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600 7,200/4,800/2,400/1,200/300bps 注 受信のみ: 56,000/54,666/54,000/53,333/52,000/50,666/50,000/49,333/48,000/46,666/46,000 45,333/44,000/42,666/42,000/41,333/40,000/38,666/38,000/37,333/36,000/34,666 34,000/33,333/32,000/30,666/29,333/28,000bps 注
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21
変調方式	PCM: 56,000/54,666/54,000/53,333/52,000/50,666/50,000/49,333/48,000/46,666/46,000 45,333/44,000/42,666/42,000/41,333/40,000/38,666/38,000/37,333/36,000/34,666 34,000/33,333/32,000/30,666/29,333/28,000bps TCM: 33,600/31,200/28,800/26,400/24,000/21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600 7,200/4,800/2,400bps QAM: 9,600/4,800/2,400/1,200bps DPSK: 1,200bps FSK: 300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-11~-15dBm(出荷時 -15dBm)
受信レベル	-10~-40dBm
制御コマンド	TiesATコマンド準拠

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

■ NCU 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル方式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信 / 自動着信型) MA(手動発信 / 自動着信型) MM(手動発信 / 手動着信型) AM(自動発信 / 手動着信型)
制御コマンド	TiesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

AT コマンド * については、このパソコンの電子マニュアル「サポートセンタ」-「ハードウェア情報」-「AT コマンド一覧」をご覧ください。

* : DTE(パソコンなどの端末機器) から電話回線に対してこのコマンドを送ることで自動発着信を行うことができる。

LAN ボード機能仕様(LAN モデルのみ)

ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3,4,5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1,024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長*	100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

*リピータの台数など、条件によって異なります。

索 引

英数字

100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ	46, 144
121ware.com	5, 26, 38
【121ware】ボタン	113
3.5インチフロッピーディスクドライブ	20
3Dグラフィックアクセラレータボード	21, 66
ACPIモード	116
AC電源コネクタ（入力）（AC100V）	143
APMモード	116
AV機器	9
BIOSセットアップメニュー	130
【BS】ボタン	146
BUSYインジケータ	142
CardBus	56
CD/DVDプレーヤボタン	113
CD-R	127
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	127, 142
CD-RW	127
DIMM	73
DirectCD	127
DMAチャンネル	135
DSU	15
DV端子	22, 51
Easy CD Creator	127
FAXモデムボード機能仕様	157
Fnキー	112
IEEE	50
IEEE1394	50
IEEE1394コネクタ	2, 3, 22, 51, 142, 145
IEEE1394ケーブル	51, 52
IRQ	134
ISDN回線	15
ISDNターミナルアダプタ	15
iモード	122
Jet-Audio Player	10
LAN	46
LANの設定	47
LANボード	21, 66, 144

LANボード機能仕様	159
MOディスクドライブ	21
MS-DOSプロンプト	94
NEC PCオーナーズスケジューラ	123, 124
PC-9800シリーズのキーボード	114
PC Card Standard	56
PCカード	57
PCカードイジェクトボタン	142
PCカードスロット	18, 56, 141
PCカードの設定	60
PCIスロット	3, 4, 66, 143
PCIボード	21, 66
RAMサブボード	72
SCSI ID	82
SCSIインターフェイス	81, 82
SCSIインターフェイスボード	21, 66, 83, 89
SCSI機器	81, 85
SCSI機器接続ケーブル	82, 83
SmartGallery	19
SmartGallery/BusBrain	53
USB	36
USBカメラ	125
USBコネクタ	2, 3, 37, 39, 142, 145
USB増設ケーブル	41
USBハブ	44
VHF/UHFアンテナ端子	144
VideoStudio	53
Windowsキー	112

ア行

アース端子	143
アナログRGBコネクタ	3, 145
アプリケーションキー	112
インクジェットプリンタ	7
インターネットの写真屋さん	19
【インターネット】ボタン	113, 147
インターフェイス	36
映像出力端子	13, 144
映像入力端子	144
【映像】ボタン	147
液晶ディスプレイ専用コネクタ	3, 145
オートネゴシエーション機能	46

【音声】ボタン	147
音声出力端子	3, 12, 144
音声入力端子	3, 12, 144
音量	11, 113

カ行

ガイドラベル	113
カラーボタン	147
キーの名称	110
キーの役割	110
キーのロック	111
キーボード	110
機能仕様	149 ~ 156
【ギャラリー】ボタン	147
休止状態	116
携帯電話4N	122
携帯電話接続ケーブル	122
【決定】ボタン	147
【更新】ボタン	147
コンパクトフラッシュ	17

サ行

【サポート】ボタン	113
【字幕】ボタン	147
周辺機器の取り外し	27
【終了】ボタン	148
【消音】ボタン	148
省電力機能	116
シリアルコネクタ	3, 143
スクロールボタン	108, 148
スタビライザ	30, 142
スタンバイ状態	116
スティック	147
【スティック切替】スイッチ	148
ストラップスイッチ	131
スナップショット	123
スマートメディア	17
【スリープ】ボタン	113
【全画面表示】ボタン	148
増設RAMサブボード	73, 74
外付け用ハードディスク	20

タ行

ターミナルアダプタ	15
-----------------	----

ターミネータ	81, 83
地上波TV&データボード	144
【チャンネル】ボタン	148
【チャンネル/番号】ボタン	147
通風孔	144, 145
ディスクトレイジェクトボタン	142
デジチェーン	81
デジタルカメラ	17
デジタル署名	26
デジタルビデオカメラ	22, 51
デバイスマネージャ	103
【テレビ】ボタン	146
電源スイッチ	113, 141
電源の状態	116
【電源】ボタン	146
電源ランプ	116, 141
電話回線用モジュラーコネクタ	143
電話機用モジュラーコネクタ	143
【登録】ボタン	147
ドットインパクトプリンタ	7
ドライバ	8, 25, 102
ドライバ名	93

ナ行

ネットワーク通信/接続ランプ	144
----------------------	-----

ハ行

ハイパワーデバイス	43
ハードディスク	88, 115
ハードディスクアクセスランプ	141
ハーフサイズのPCIボード	66
ハウリング	11
パスワード	131
パソコンのお手入れ	138
バックアップ	115
ハブ	46
パラレルコネクタ	3, 143
光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子	2, 9, 142
ビデオ登録君	125
フォーマット	92, 99
プラグ&プレイ	25, 50
フラッシュメモリカード	17
プリンタ	7

プレイヤー操作ボタン	147
【プレイヤー】ボタン	147
ブロードバンド	126
ページプリンタ	7
ヘッドホン端子	13
ボリュームボタン	113, 148
本体の各部の名称	141

マ行

マイクロホン端子	3, 11, 144
マウス	108
マウスのクリーニング	140
マルチファンクションカード	63
【メール】ボタン	113
メニューボタン	147
メモリ	72
【戻る】ボタン	147

ヤ・ラ・ワ行

【ユーザ】ボタン	113
ライブカメラ	125
ライブフォト/i	125
らくらくピクチャー・ミニ for iモード	123
リソース	103, 134
リソースの競合	103
リモコンの各部の名称	146
領域	94 ~ 97
リング機能	117, 118
リンクケーブル	46
ルーフカバー	29
レーザープリンタ	7
【録画】ボタン	148
割り込みレベル (IRQ)	134
ワンタッチスタートボタン ..	112, 113, 146

やりたいこと別マニュアルガイド

あなたのやりたいことがどのマニュアルに書いてあるか、このガイドを参考に探してください。

パソコンの接続とセットアップをしたい	はじめにお読みください
CD-ROM、DVD-ROM を使いたい	はじめにお読みください
「パソコンのいろは」 / 「サポートセンタ」について知りたい	はじめにお読みください
マウスの使い方を知りたい	パソコンのいろは、使っておぼえるパソコンの基本
キーボードで文字を打ってみたい	パソコンのいろは、使っておぼえるパソコンの基本
インターネットで、できることが知りたい	使っておぼえるパソコンの基本
インターネットを利用したい	使っておぼえるパソコンの基本、サポートセンタ
電子メールを使いたい	使っておぼえるパソコンの基本、サポートセンタ
BIGLOBE に入会したい	使っておぼえるパソコンの基本
ワープロを使いたい	使っておぼえるパソコンの基本
アプリケーションの使い方が知りたい	使っておぼえるパソコンの基本、サポートセンタ
バックアップを取りたい	使っておぼえるパソコンの基本、困ったときのQ&A、サポートセンタ
プリンタを使いたい	もっと知りたいパソコン
USB 対応機器を使いたい	もっと知りたいパソコン
IEEE1394 対応機器を使いたい	もっと知りたいパソコン
PC カードを使いたい	もっと知りたいパソコン
周辺機器を取り付けたい	もっと知りたいパソコン
このパソコンの拡張性について知りたい	もっと知りたいパソコン
CD-R/RW ドライブを使って、CD-R/RW メディアに書き込みたい	もっと知りたいパソコン
このパソコンの機能について詳しく知りたい	もっと知りたいパソコン、サポートセンタ
パソコンのお手入れをしたい	もっと知りたいパソコン
パソコンのトラブルを予防したい	困ったときのQ&A
再セットアップしたい	困ったときのQ&A
マニュアル総索引を使いたい	困ったときのQ&A
パソコンが思うように動かない	困ったときのQ&A、サポートセンタ
パソコン用語の意味を知りたい	サポートセンタ
どんなアプリケーションが入っているか知りたい	サポートセンタ
アプリケーションを追加 / 削除したい	サポートセンタ
年賀状やあいさつ状を作りたい	サポートセンタ
受けられるサポートについて知りたい	サポートセンタ
デジタルカメラやインターネットの画像を加工したい	サポートセンタ
テレビを見たい (TV モデルのみ)	はじめにお読みください
テレビの録画をしたい / 映像を編集したい (TV モデルのみ)	TV モデルガイド

VALUESTAR

もっと知りたいパソコン



PC98-**NX** SERIES
VALUESTAR

初版 2001年5月
NEC
P
853-810336-011-A